

全日本教職員連盟 全国アンケート⑪

教員の働き方改革～学校現場の今～

自由記述回答集



美しい日本人の心を育てる

全日本教職員連盟

全日本教職員連盟 全国アンケート⑩

「教員の働き方改革～学校現場の今～」(教職員)

質問内容

(1) 次の項目について、満足ができる時間は確保できていますか。

- ① 学習指導等に関わる対応 (授業準備・教材研究・研究会・研修・打合せ等)
- ② 成績処理 (ノートやプリントの評価等)
- ③ 生徒指導等に関わる対応 (個別の打合せ・情報交換等・生徒への対応)
- ④ 校務分掌上の仕事 (提出文書作成・教育委員会とのやりとり等も含む)
- ⑤ 保護者・各種団体の対応

【教職員】 満足のいく対応ができないものがあつた場合、その理由をお書きください。

【幼稚園・認定こども園】

- ・事務の時間が優先となり、教材研究の十分な時間が取りにくい。
- ・もう少し、個別支援についてじっくり考えたり、保護者とじっくり話したりする時間がほしい。
- ・提出物、事務等に追われ、一番重要な保育準備、教材研究になかなか手が回りにくい。満足できる時間を確保するために超過勤務をしなければならない状況。
- ・提出文書や全体での仕事が優先されるため、クラスのことが後回しになってしまう。
- ・正規職員が少なく、一人あたりの仕事量が多い。
- ・連携機関が増えたため、打合せ、報告、行事等以前に比べ多くなっている。
- ・気になる子供が増えているため、個別支援の書類作成、準備に時間がかかる。
- ・子供たちが降園後、掃除等を終え、職員室に入るのは15:00過ぎ、休憩もほぼ取れず行事準備、保護者対応等いろいろありすぎて大変。
- ・預かり保育が始まり、14:30～16:30は日直の職員が対応している。その後、掃除等を行うため、勤務時間外から自分の業務を行うことが多い。

【小学校】

- ・休み時間に児童間のトラブルを解決するしかなく、十分に時間が取れない。
- ・放課後の研修等が多く、教材研究に時間が確保できない。
- ・勤務時間内では処理は難しく、情報の持ち出しもできないので、終わらない仕事は休みに学校に来てやらねばならない。(優先順位を付けて処理しているが)
- ・保護者対応も相手の勤め帰りの時間を狙って電話や面談をしなければならない。
- ・個人情報を含む調査物については、児童が在籍しているときは仕事ができない。事務的な仕事をする時間が勤務時間内では取りにくい(会議があつたり保護者対応があつたりするので)。毎日の保健日誌も勤務時間内で入力する時間が取れない。
- ・全てのものが勤務時間内に終わらないので「不十分」である。児童指導がどうしても優先されるので教材研究等は家でやることになり、睡眠が削られるというサイクルになってしまう。子供の下校4時で退勤時間が4:40。会議や部活動もあるのでとにかく時間が無い。
- ・7:50から16:20分の8時間30分は少なくとも児童が学校にいてその対応をしている。準備、打ち合わせ、校

務分掌上の仕事等を行う時間が勤務時間内で取れるはずがない。レストランにおいて仕入れ、調理、接客等を1人で同時にできないのと同じ。

- ・夏休みの作品応募をするため、作品整理をしたり提出書類を作成したりして2学期始めが大変であった。締め切りが早いものがあり対応に追われた。
- ・授業準備をすべてできれば良いがなかなか難しい。資料作り等振り分けて行うがどうしても時間がかかる。
- ・たくさんのアンケート、調査等がありすぎてゆとりがない。学力向上を目指すのは良いことだと思うが、毎日のテスト、自主学習等をチェックするだけで手いっぱいになり本当に大切な子供との関わりの時間がもてない。
- ・授業準備の時間の確保が難しい。小学校は8教科プラス道徳、特活がある。そこに英語が加わり、毎月それだけの準備は追いつかない。教員の仕事は授業だけではないので、それらすべてを行っていく時間の確保は現実的に難しいと思う。教科担当の教員を増やす等の措置が必要だと思う。
- ・最も大切になければならない教材研究や授業準備が後回しになる。④や⑤を優先している。研究会も参加したいが、土日の1日は教材研究や授業準備に充てるので土日の研究会は参加しにくい。家庭のことも休日にやっておかないと勤務に影響する。よってストレスをためてしまう。
- ・学級担任をしていると、朝出勤してすぐ教室へ。その後16:00過ぎまで授業・生徒指導・その他。16:00から17:00まで放課後だが、体育大会の指導等が入り、体が自由になるのは17:30前。そこから教材研究や成績処理、校務分掌上の仕事を行うこと等十分にできるはずがない。家で残業、休日ボランティア出勤でなんとかこなしている状態である。
- ・成績処理は個人情報扱うことになり、またパソコンも学校のものしか使えないため学校で作業したいがその時間がなかなか取れない。校務分掌は学校全体にかかわることなので優先的にこちらに取り組むと、クラスのこと(授業準備等)まで十分にできず、準備が不十分なまま授業してしまうことがある。
- ・まず時間の確保といっても帰宅後や土・日曜日でも必ず仕事をしている。教材研究なら文句はないが、ほぼ8割は校務分掌の計画・報告の繰り返しである。仕事上対応はしっかりしたいという意欲はもっているのですがどうしても私生活の時間は犠牲にしている。
- ・無駄な打ち合わせや必要のない話し合い等があり力を入れたい教材研究等に使う時間が少ない。
- ・学校が組織として成り立っていない。行事の文書等が出てくるのが遅く、直前になってばたばたして落ち着いて取り組めずミスにつながりその対応に時間を費やす。
- ・指導記録がたまり、教材研究の時間が取れない。
- ・生徒指導や保護者対応を優先するため、学習指導がおろそかになる。
- ・準備に要する、または話し合うための時間が足りない。
- ・全て勤務時間外の対応になるのが現状である。
- ・校務分掌上の仕事に時間がかかり、満足に教材研究ができない。
- ・校務分掌上の仕事が多く、次の日の授業準備やノート評価等の時間が後回しになり、不十分だと感じる。
- ・児童対応に充てるための時間がとにかかない。
- ・保護者対応にしる、学習指導にしる、求められていることが年々増えているように思う。家庭の教育力の低下が大きい気がする。
- ・勤務時間内にすべてを行うのは難しい。
- ・学級の業務(授業準備、教材研究、ノート評価)より、全体のこと(校務分掌)が優先されるから。
- ・いつも時間が不足し、残業をするが不十分なまま終えている。
- ・1学級の人数が多い。事務処理の仕事が多い。授業時数が多い。
- ・個別に支援が必要な児童への対応が後回しになっている。授業準備はほぼ家で行っている。
- ・教材研究に使おうと思っていた時間に、急に児童の対応やケース会議等によって時間が確保できない。教員同士も情報交換ができぬまま児童の対応をすることもあった。
- ・期限が決まっているものや保護者対応を優先すると、教材研究等が不十分になる。
- ・空き時間が少ない。
- ・勤務時間内にはとても終わることができない。

- ・「チームで」「組織で」のことが多すぎて優先され、自分の学級のことが後回しになる。
- ・16:30 くらいにならないと自分の仕事に向かえない。
- ・忙しすぎる。授業の準備、授業の事後報告、ノートのチェック等、1人で抱えることがありすぎて勤務時間内に行くことは難しい。
- ・各種文書報告や作成があり、どれも十分だとは言えない。
- ・他の仕事に追われて教材研究や授業準備の時間があまり取れない。校務支援システムが1年目なのでよけいに時間がかかる。
- ・やるべきことが多く、教材研究等の時間が後回しになってしまい、勤務時間内に行くことは難しい。
- ・勤務時間内までにやるべきことが終わらないために、残って仕事をするか、土日出勤して仕事を行うしかない。
- ・どの項目も十分に時間をかけられないほど、いろいろやるべきことが多い。効率的に時間をつかえない。
- ・空き時間が少ない。(週3時間)
- ・高学年の下校時刻が16:20頃で、そこから40分程度では終わるはずがなく、持ち帰り仕事が遅く残るしかない。もともとの仕事量が多すぎる。
- ・保護者への対応はどうしても、夕方遅くや夜間になり勤務時間外となる。成績処理や校務分掌の仕事よりも学習指導を優先させるので時間をとりにくい。
- ・空き時間の確保が難しい。時間割上は確保してもらっていても、急な変更等でなくなってしまうことが多い。
- ・勤務時間外で対応している。
- ・限られた時間なので、全て優先順位をつけて動いている。目に見えにくいもの(授業の工夫、子供理解)は後回しになる。
- ・空き時間がない。放課後は部活動指導、会議、提出書類の作成に追われる毎日。
- ・児童が下校するまでは校務分掌や教材研究等のまとまった作業時間は確保できず、時間が仕事や持ち帰り仕事になる。勤務時間内に行くことは無理である。
- ・勤務時間内でできる量ではない。
- ・授業で具体物や掲示物を用意して授業に臨みたいが、その時間が取れてない。小学1年担任であるのでわかりやすい授業をしたい気持ちはある。
- ・会議、報告書作成等の仕事にかかる時間が年々増加している。
- ・放課後も他の打合せや会議が入り、自分一人の事務時間が取れない。
- ・放課後も部活動等が入り、教材準備の時間がなかなか取れない。
- ・大変な子供たちが多くなる中、個別指導や個別相談会が多くなり、学習指導に関わる準備や成績処理等の仕事がすべて時間外や持ち帰りになっている。
- ・児童が17:00まで活動するので持ち帰り仕事になる。
- ・とにかくいろいろな仕事が多すぎて時間が取れない。具体的に何がとは言えないが一つ一つのことが以前より大変になっている。
- ・やらなければならないことが多すぎて、何もかもが中途半端になってしまう。
- ・勤務時間内に終えることはできない。
- ・空き時間がほとんどない。放課後も部活動がある。
- ・校務分掌にかたよりのある。支援会議(生徒指導)等、揃って行う会議は時間外になる。
- ・全て勤務時間を越えての対応が当たり前になっている。
- ・勤務時間内にはとても終えることができない。
- ・残業が多い。
- ・会議や報告文書作成等対外的な仕事を優先するため、自分一人でしなければならない仕事は後回しになり、持ち帰ることが多い。
- ・どの仕事も大事だが量が多く、すべてにおいて中途半端になってしまう。
- ・会議等も多く、教材研究までたどりつかない。児童も多様化しており、保護者への対応にも時間と労力がかかる。
- ・絶対時間が足りず、何かを優先すると何かが犠牲になる。

- ・なぜかわからないほど多忙。
- ・とにかく時間が足りない。どれも少しずつ中途半端になる。
- ・子供の下校後いろいろな仕事があり、個人的な仕事ができない。連日、帰宅時間が遅くなる。
- ・ゆとりをもって自分のペースで仕事を進める時間がない。
- ・児童への対応が分からず、また、未然防止のための準備の時間も取れず、問題が起きたときに対応するという状態である。
- ・教職員の人数が少なく、多くの方が何重にも仕事を抱えている様な状態である。
- ・会議が多すぎる。
- ・することが多く、一つ一つのことに時間をかけられない。
- ・保護者の帰宅も遅く、ゆっくり対応できないことが多い。
- ・日々忙しすぎる。
- ・自分の仕事をやる頃には先輩がすでに退勤していて相談できないことが多い。
- ・やるべきことが多すぎて全ての時間が足りていないような印象がある。
- ・保育園のお迎えがあり、定時後早くに退勤するため今までのように時間を割けなくなった。
- ・児童指導（トラブルの聞き取り）でどうしても時間がかかる。アンケートや調査が、同じようなものが多い。
- ・事務仕事は17:00以降になる。
- ・勤務時間中は子供との活動、下校後は翌日の準備、外部との対応、校務をしていくと結局、中途半端になってしまう。
- ・優先順位をつけると、ノートやプリントの評価が一番後回しになる。仕事の絶対量が多すぎて優先順位をつけて行うしかない。
- ・子供たちが下校していくのが、5時間目は15:20、6時間目で16:10である。それから定時の16:40まででは時間が短く、下校指導にいくと更に短くなる。
- ・学習指導の準備や学級経営に時間をかけて、満足のいく状態で子供の前に立ちたいが、他の仕事に時間をとられて思うように時間を確保できていない。
- ・高学年をもつと、行事の役割が多く、日々こなしていくことで精一杯。校務分掌の偏りがある。
- ・会議が長く、研修が多い。生徒指導をこなすばかり。そのため、本当に費やしたいことに時間をかけられない。
- ・以前は児童の下校後、そのまま教室に残り学級の仕事ができしたが、現在は児童の下校に付き添い、下校指導をし、その後、会議を行うことがありゆとりがない。
- ・学級の人数によって成績処理にかかる時間に差がありすぎる。
- ・成績処理はどうしても勤務時間を過ぎてからになるので、文章作成を含めて時間を確保できればと思う。
- ・学習指導にはもっと時間がかけられると、より良い授業が実践できると思う。
- ・とにかくすることが多く、それぞれが中途半端な印象がある。
- ・発達障害の児童が複数在籍しているため、離席や授業の妨害があり対応しきれないことが多い。つまずきのある児童への個別指導ができなくなっている。
- ・時間が足りない分、土日に自主的に出勤し対応している。それほど日常の業務が多すぎる。
- ・物理的に時間が足りない。
- ・提出文章作成、成績処理は家に持ち帰っている。逆に生徒指導は子供が帰宅するまで最優先されている。
- ・あまり合理的に時間を使えていない面もあるが仕事量も多い。
- ・仕事の時間が16:00以降と朝が多い。午前（6:30～7:30）を使用。
- ・校務分掌が重なっており、優先順位もつけにくく日々時間に追われている。
- ・教育委員会からの文書が年々多くなっている。
- ・仕事の優先順位をつけていくとどうしてもそうならざるを得ない。子供のことが後回しになってしまうことに疑問を感じつつも…。
- ・時間が足らない。
- ・学級事務（宿題やノートの点検、学年通信の作成、教材づくり等）に時間がかかっている。

- ・17:00 まで水泳練習等に時間をとったため、それ以降に校務をすることになった。
- ・もっと授業の準備等に力を入れたい。
- ・生徒指導、校務分掌、校内研修等に時間がかかると授業準備や教材研究が十分にできないときがある。
- ・学校が組織としてうまく機能しておらず、同じ内容の仕事を違う人がして重なったり、校務分掌以外の仕事をさせられたりして自分の職務に専念できていない。
- ・やってもやってもやることがある。時間がいくらあっても足りない。
- ・各種大会（水泳・体操・陸上・相撲・一輪車等）の練習に放課後の時間が取られ勤務時間内に教材研究等の時間を確保することは非常に難しい。結果、勤務時間外にその時間を割くことになり大幅な超過勤務となっている。
- ・とにかく次から次へと提出をとまう文書が来たり、担当校務や成績処理、授業の準備があつたりして多忙。
- ・急な仕事や今年度のみあたっている仕事が重なっている。
- ・校内の意識の違い（校内体制の未確立）による様々な事象への対応。
- ・日々の生活指導や校務が多忙で十分な時間が確保できない。
- ・児童の生徒指導に時間が長くかかるため授業の準備や成績処理に時間をかけることが困難である。それに関連し保護者への連絡や対応にも時間が長くかかるため校内分掌上の仕事に時間をかけることが困難。
- ・通知表の電子化がされておらず、手書きのほうが、温かみがあるという理由で教育長にも聞き届けてもらえない。大変不満をもっている。
- ・生徒指導や成績処理に多くの時間がかかり、教材研究や校務分掌等がどうしても後回しになる。
- ・勤務時間内に子供の指導等の時間をしっかりとると他の業務に充てる時間はなくなる。夜遅くまで職場で仕事をするか家に持ち帰るかのどちらか（土日に仕事をしに来る人もいる）でほとんどの人がやりくりしている。
- ・事務作業や、目の前の子供や保護者の対応に時間がかかってしまう。
- ・町内で1名配置のため、日々の仕事と指導時間の確保の両立が難しい。何かトラブルが起こると更に対応にあたらなければならないので日々不安を感じている。
- ・勤務時間内に時間を確保するのは無理。17:00 以降最低3時間、土日出勤はもう当たり前になってきている。
- ・手が空く頃、17:00 に閉まる施設が閉まってしまい連絡が取れない。
- ・いつも「もっと時間をかけたい」という思いがあるが日々の業務に追われている。家に持ち帰って時間を確保する等している。
- ・校務が多く1つのことに落ち着いて集中して取り組むことができにくい。提出物や研究会（レポート必要）が多くて、それらの作成に時間がかかる。
- ・初任者研修でかかる時間が多いこと。あとは個人の問題で仕事についてまだ把握できていないことが多く要領が悪い。
- ・放課後に水泳検定会の練習等があるため、学級事務等をするのが定時を過ぎてからになる。
- ・1人1人の教員に対する仕事量が多すぎて、それぞれの仕事に割り振れる時間が足りない。現場は明らかに人手が足りていない。
- ・全般的にやるべきことが多すぎて、どの分野についても中途半端さを感じる。
- ・宿題やテスト等については自宅に持ち帰って作業をすることが多い。
- ・保護者対応等相手のある仕事を優先させるため、自分1人できる仕事（授業準備・成績処理）は後回しになる。
- ・すべて中途半端になってしまったり何かを諦めたりしてしまっている。（時間に追われて）
- ・時間がない。
- ・勤務時間外で授業準備等を行っている。毎日の提出物に目を通してはいるが、これも児童との大切な交流の時間である休み時間にやるしかなく時間が欲しい。
- ・勤務時間内に終わらせるのは難しい。よって持ち帰ることになってしまう。
- ・すべてにおいて時間がない。授業、校務、会議…。全くゆとりがなく、結局放課後や家出の仕事、土日勤務につながる。
- ・退庁時間は16:40。児童が下校するのは16:10頃。15:00に帰る日はその後会議…。ほとんどの項目は勤務時間内に行うことができてない。

- ・業務が多く処理しきれない場合が多い。
- ・勤務時間外での処理・対応がほとんどである。
- ・業務が錯綜していて追われている。
- ・生徒指導、保護者への対応を最優先にするため学校指導やその他の業務の時間が足りなくなる。
- ・勤務時間外や家庭に持ち帰らないと終わらない。
- ・仕事内容の精選をしていく必要がある。時間不足。
- ・児童下校後から退庁時刻までの時間が少ない。学年で共通理解をするために話し合う時間を優先するため、学級のことが後回しになる。
- ・学級の児童数が40人のため、宿題・ノートの点検・指導の時間が不足している。
- ・昼休みや放課後退庁後の時間を使わないと、学習に関わる準備や処理をすることができない。
- ・日々雑務に追われ、ゆっくり子供と向き合えていない。
- ・量が多く、教材研究の時間を取れないときがある。
- ・児童を帰した時点で退庁時間まで余裕がない。
- ・学校規模にもよるが1人が複数の校務を担当しているため常に多忙。また、〇〇教育も次々と導入され、とにかく一つ一つをこなしているのが現場の状況である。
- ・上記に関わる時間が勤務時間内に確保されてないのが現実である。
- ・勤務時間内では授業をするのが精一杯で空き時間がない。
- ・いわゆる出勤時間外（退庁時間後）になってしまう。
- ・学級が40人いるので何をやるにしても十分時間がない。専科も音楽しかないので余裕がない。
- ・成績処理は常に自宅に持ち帰り放課後や休日に行っている。
- ・児童のノートを点検する時間がなかなか確保できない。
- ・仕事が多すぎる。時間内には処理できない。
- ・今年度から働き方改革の1つとして「出勤時刻」と「退庁時刻」の記入が始まったが何の意味もないように感じる。
- ・授業の準備や子供たちとの時間にゆとりがなく毎日があわただしく感じる。
- ・文書処理（調査）に多くの時間が取られる。
- ・放課後は会議等入るため、授業準備や校内分掌上の仕事に充てる時間の確保が十分にできない。そのため勤務時間外の仕事となっている。
- ・放課後の時間はほとんどない。
- ・授業準備、教材研修等もっと時間を掛けたいが、他の仕事があり満足する準備等ができていない。
- ・児童が下校した後の時間に会議等があり、仕事は退庁時刻を過ぎてからになってしまう。
- ・勤務時間（児童が学校にいる時間、会議等がある時間）内には上記の仕事はほとんどできない。いつも退庁時間後学校に残ったり休日に行ったりしている。
- ・前任校は小規模学校で1人あたりの校務分掌はたいへん多くとても勤務時間には追われなかった。結果自宅に持ち帰って作業していた。
- ・新しい取組が増えても、元々あった取組がなくならないため、多忙感はずばり。
- ・子供の作品の評価、授業準備は土日に行うことが多い。
- ・保護者対応は勤務時間外になる。
- ・本業以外の業務が多い。（提出物等）
- ・体育主任として、体力テスト、相撲大会、水泳指導等にあたっているが、小規模校で直接指導にあたる先生が少なく、手助けがほとんどなく自分一人でやることが多い。
- ・データの持ち出しができない。
- ・とにかく時間がない。
- ・学年での話合いが多いため、時間を使ってしまう。
- ・保護者の要望に答えるため、毎日遅くまで、多くの先生方が残業する実態がある。

- ・特別支援学級の児童は突発的な問題が起きることが多く、その解決には、担任、保護者、交流学級の先生、関係機関（専門機関）等の関係が必要で解決までが大変である。
- ・授業準備や教材研究は授業研等がないと十分に行えていないのが現状である。時間の確保が難しいと感じている。
- ・児童が下校するのが 15:40 頃。そこから添削や次の日の授業準備のみなら良いが現実には会議や打ち合わせ。それが終わってからとなると残業せざるを得ない。
- ・①～⑤勤務時間内に満足するまでの時間を確保するのは難しい（会議等により）。
- ・1日の中で教材研究等にかかる時間が取れていない。
- ・業務が多く全てに時間が足りない。
- ・学校全体で動くことが多く、個人の仕事が後回しになるため。
- ・行事や会議が多いこと、事務的な処理が多いことから、学習指導に関わる対応に充てられる時間が十分にはないと感じる。
- ・何かとバタバタしていて十分な時間が取れていない。分掌上の業務や学級のことが多すぎる。
- ・授業準備や教材研究の時間を確保したいが成績やその他書類の処理や保護者対応の時間に追われている現状である。
- ・放課後の自由な時間が少ないため、子供のノートチェックや翌日の授業準備は 18:00 から始める感じになる。
- ・ノートやプリントのチェックが休日になってしまうことが多い。
- ・校務分掌が多い。1人の負担が大きい。
- ・校務分掌の1人あたりの負担の多さにより対応に追われる。
- ・授業研等の指導案づくりに時間がかかってしまう。もっと教材研究（次の日）をしたい。時間がない。
- ・土日ありきで仕事をこなさなければならない。
- ・学習指導が優先順位ラストになってしまうとやるが多すぎていきつかない。
- ・提出物、校内分掌等（市等への提出を含む）他の職員に迷惑がかかるものを優先すると授業準備、成績処理の時間が足りない。児童と関わることは最優先としている。
- ・行事が多くその準備に時間がかかってしまう。単純に仕事量が多い。21:00 頃まで半分以上の教員が残って仕事をしている。
- ・放課後の業務が多い。
- ・日々の授業準備等におわれ、他のことが疎かになりがちである。
- ・②③④⑤について計画外の予定が突然入ったり、時間外の対応を迫られたりして①に時間を取ることがほぼできていない。
- ・個人情報漏洩問題のため、ノートやプリントを持ち帰りにくくなった、ノートやプリント等をチェックしていると、授業準備や教材研究は自宅ですることになる。保護者対応はほとんど 19:00 以降である。
- ・勤務時間内に、と考えると⑤と③は最優先しているのでできているが、②と④はほとんど勤務時間外になる（持ち帰り）。①はコピー機、印刷機、教具等に関係するので②や④より先に行うが勤務時間内に終わらない。
- ・①と②の仕事については持ち帰っての仕事が多い。（②の場合、通信簿は土日に来てする）
- ・自身の処理能力に対し、十分な時間が確保できてないから。
- ・6校時まで授業があるので、児童が帰ったあとでないと仕事ができないので4時以降の仕事になる。勤務時間内の時間ではできない。
- ・①～⑤それぞれが毎日重なり合いどれかが不十分になっている。やらなければいけないものから優先的にこなして、結局それぞれが中途半端になっている。
- ・生徒指導等の対応で家庭訪問をしたり、保護者、児童との話合いがあつたりすると短くても1時間はかかるので、その日予定している授業準備や教材研究、丸付けができないことがある。
- ・授業時数のことから勤務時間に項目にあるものを行う時間を確保することは難しく時間外に行い、自身の校務や授業・行事の運営ができるようにしている。
- ・授業の準備が十分でないときが多いと感じている。
- ・児童の下校後、いろいろな研修や校務等をこなすと授業の準備は勤務時間内にはできず、家に持ち帰ることがで

きるものは持ち帰っている。

- ・勤務時間中に①～⑤の項目を全て行う時間を確保することは物理的に不可能。
- ・自分の処理能力の低さもあるが、パソコン等での仕事を持ち帰ることが安全面の理由で難しいため学校での仕事をする時間が足りなくなる。
- ・空き時間がなく、子供が下校し指導が終わってからの20分では満足いく時間は確保できない。
- ・自分の仕事の効率が悪い。時間が足りない。
- ・日々色々な仕事が多すぎてどの仕事も不十分なままになっている。処理できないため職場だけではなくいつも持ち帰って仕事をしている。
- ・勤務時間内に成績処理をこなすことは不可能であるため、土日、または持ち帰りが当たり前である。保護者も仕事をしている方が多いため連絡は遅い時間になる。
- ・①～⑤の事柄は単独ではなく同時に行わなければならない。①②③の確保ができなくなる。
- ・勤務時間以降に対応することがほとんど。(空き時間が少なく6校時まで授業をして児童の下校指導もしているので、勤務時終了まで20分しかないため。そこから授業準備、事務処理、打ち合わせ等々が始まる)
- ・空き時間は少なく、授業準備・教材研究等をじっくり行う時間は勤務時間内にはない。
- ・自分の力不足もあるが、勤務時間内にすることは難しくどうしても超過勤務をするが、自分の許せる範囲内の仕事の完成度になってしまっている。
- ・パソコンを与えられているが全員がUSBを使えるものではない(主任以外はUSBが使えない)ため、パソコン活用ができにくい。
- ・授業で使用する教材の細かいものが作成できていない。
- ・授業数が多く、成績処理や校務分掌の仕事ができる時間が勤務時間内にはほとんど取れない。そのため放課後に残ってそれらの仕事をするため、帰宅時刻がどうしても遅くなってしまふ。
- ・どの項目についても「時間があればここまではしたい」という内容があるが、その時々優先順位をつけてしている状態であり、いずれについても十分とは感じられない。
- ・1学級における児童数が多いことが考えられる。
- ・1対1対応や支援の必要な児童がたくさんいるため、常に時間に追われている状況が生じていることがある。
- ・勤務時間内には終わらない。時間をかけたらできる。
- ・保護者対応、生徒指導を優先させなければいけないので、教材研究や授業の準備の時間がなくなる。
- ・生徒指導として多くの対応の必要な子供たちのことで動きたいこともあるが、十分に動けていないように思う。
- ・それ以外の雑務が多すぎる。
- ・理科の実験準備等事前に用意できない薬品関係等。休み時間だけでは準備室のカギを取りに行つて…となるとなかなか難しいことが多い。
- ・児童間でトラブルがあった際、その話を聞く時間がなかなか取れない。(空き時間がない)放課後事務に追われ、十分な授業準備時間が取れない。宿題等を処理する時間が休み時間しかない。
- ・やることがたくさんありどれも不十分。自分の家庭のことも不十分。
- ・校務分掌関係の事務処理や教育委員会に提出する書類等、授業関係以外の仕事が多い。
- ・優先順位をつけていくと自分1人でやればいいのかは後回しになる。
- ・部活動指導等で、校内分掌の仕事する時間を取りにくい現状がある。
- ・やらなければいけない仕事の量が多く、1つに十分対応できていないという感覚がある。(もう少しやれたらいいのと思う)
- ・日々の仕事量が多すぎて、十分な時間が確保できない。
- ・各教科も年間指導計画で扱うものが多すぎる。行事の準備にかかる手間と時間が確保できない。
- ・児童指導、外部への対応、校務分掌の仕事を優先してしまうため、授業準備、教材研究が後回しになっている。小規模校は1人でやらなくてはいけないことが多いためおろそかになってしまうものがある。行事が多い。
- ・その日のうちにノートを返さなければならないにも関わらず、空き時間がないのでノートの全ての中身を見ることできない。

- ・事務的な仕事の処理に時間がかかり、教材研究の時間を取ることができていない。
- ・日々、ノートの丸付けや校務分掌に関わる事務処理に追われ、授業研究の時間がなかなか取れない。
- ・会議や保護者との対応等が入ってしまうと、その日に見ておきたかったノートやプリント類全てに目を通せず、次の日に持ち越してしまうことが多い。
- ・一つ一つのことを十分に行おうとすると他のものが不十分になる（勤務時間内に終わらせようとした場合）。
- ・全体に仕事を追われ時間がない。
- ・事務的な仕事が多く、授業の準備、児童の個別指導等になかなか時間を使えない。
- ・対応するものが多い。
- ・提出文書の提出時期が重なる場合があり、係として把握できないことがあった。
- ・勤務時間の中で行うのは困難である。教職員の人数が不足しているためかと思われる。
- ・1日5～6時間の授業を担当し、部活動を担当し、複数の校務分掌を担当し、問題を抱える保護者と連絡（手紙・電話・面談ほか）を取り…。精一杯こなそうと努めているが時間が足りない。
- ・児童がいる間は文書作成がすすまない上、保健室での環境が整っていない。
- ・①学習指導・校内分掌・部活動指導により放課後に時間がない。②1人で単学級のクラス（29人）の指導をしているが学力差もあり対応に追われ不十分。③配慮が必要な児童がいるが補習等の時間を確保できない。
- ・担任をもちながら児童指導主事をやっている、自分のクラスを自習にしてでも問題行動への聞き取り対応をしなければならない。
- ・放課後の会議や学校内外の文書作成等に時間を取られ、授業準備や成績処理の時間が確保しにくい。空き時間はほとんどないので放課後がなくなるのは苦しい。
- ・下校が終わって職員室へ戻るのが16:30を過ぎる。部活動（試合）の応援、PTAの行事への参加、一つ一つはそれほどでもないが、それが恒常的に続くのが辛い。
- ・その他の業務に追われているうちに時間がなくなっていく。
- ・部活動を担当している先生方は更に時間がない。
- ・部活動の送迎問題について国は各行政単位に任せている。都道府県等で出されている部活動送迎についてのルールは守られていないのが現状である。
- ・子供のことより外部のことの方が優先されている現状が、教育上良い環境とは言えない。
- ・①のうち研修④に時間を費やされ、授業準備や教材研究を進める時間が勤務時間内に確保することが難しい。②の成績処理については個人情報保護のため持ち出すことが制限されているので休日に出勤して行う。
- ・学校行事が網の目のように組まれているため。
- ・授業以外の事務処理に追われて教材研究に十分な時間の確保ができていない。
- ・児童指導や来室児童対応に追われ、十分教材研究や起案（実施計画等）を検討することができなかった。また、対応する児童が多くゆっくりと寄り添いながらの対応や情報交換が十分にできなかった。
- ・個別の支援が必要な子を担任しているので、その子に応じた教材の準備をしたいが授業の空き時間がなく放課後も会議等で時間が取れないから。
- ・家に寝るためだけに帰っている。
- ・煩雑な仕事が多すぎて本来の仕事が全くできない状態。これで学力アップ等できるはずがない。
- ・管理職が上の評価ばかり気にしていて、職員の仕事をマネジメントできていないので毎日22時まで学校で仕事をしている。
- ・時間があるならもっと学習指導に時間をかけたい。
- ・学習指導、児童指導のほか提出書類やアンケート等がどんどん入ってくるので十分な時間を確保できない。
- ・校務分掌上のアンケート等（提出文書）はとても多く、増えることがあっても減ることはない。
- ・放課後の多忙さ。1人あたりの校務分掌の多さ。
- ・校務分掌、1人当たりの数が多く相当な時間を取られてしまう。
- ・仕事の優先順位が常に変動。この時間に、と思ってもできないことが多い。
- ・特に英語で指導助手の先生と打ち合わせをする時間が取れない。

- ・6校時で子供を帰すとすぐ最終時刻となる。
- ・児童間のトラブル等があると、学習指導等に関わる対応に影響が出る。とにかく時間はない。
- ・交流の先生と情報交換の時間がほとんど取れない。連絡帳を書く時間が取れない。
- ・会議や打ち合わせ等で授業の準備や教材研究に手が回らないことがある。(会議等の拘束時間が長い) 校務分掌の仕事量が多い。
- ・特別支援学級6名を担任しており、6者6様の対応が必要なため自転車操業のような状態である。
- ・日々の児童への個別対応、保護者対応をしていると、校務や教材研究等が後回しになってしまう。休日に補っても十分とは言えない。
- ・仕事量>勤務時間。1人がやるべき仕事の絶対量が多すぎる。残業(20:00過ぎ)、休日出勤で仕事をこなしている。
- ・放課後の時間が十分に取れない。
- ・勤務時間内に絶対に終わる仕事量ではない。
- ・授業や子供たちに関わる時間よりも校務分掌の時間に追われていると感じる。先輩の先生方に話を聞くと「少し前は放課後や休み時間にゆとりをもって子供たちと話す時間があったのに…」と言っていた。
- ・仕事自体は嫌ではないが、とにかく時間が…。勤務時間内で処理するのは無理である。
- ・校務分掌で上手くいかないことが多く、授業準備に手が回らなかった。
- ・時間がない。
- ・職務内容が多岐にわたっているため、その一つ一つの対応等にかかる時間はどれも十分とは言えない状況である。
- ・項目の内容すべてにしっかり時間を取りたいが、一つ一つどれもたくさんあって時間は限られているので結局どれも不十分になる。
- ・少ない時間の中で何を優先させるか、と考えると、一番重視したい学習指導を後回しにせざるを得ない。
- ・勤務時間のほとんどは授業で終わってしまうから毎朝、仕事のためのピアノ練習をしている。(7時~7時30分)
- ・しっかりと教材研究して授業に臨みたいが、事務作業やトラブル対応等でじっくり授業準備ができない。
- ・放課後も部活動等があつて勤務時間内になかなかできない。
- ・授業が終わると勤務時間は残り30分程度で、その時間では次の日の準備等全て終わらせるのは難しい。
- ・分掌は締め切りがあるのでどうしても優先的にやらなければならない、授業準備は時間外に行うしかない。勤務時間内では不可能。
- ・事務的なことが一つ一つは大したことがなくても数が多いので大変になる。
- ・これから更にどれだけ忙しくなるのか不安ばかり。何かを入れるなら何かを外す勇気が教育現場に必要。成績処理さえも時間が足りなかった。
- ・時間が保障されていない。入力作業等それ以外に時間が取られている。
- ・もう少し丁寧に仕事をしたいのだが、時間が上手く使えない。
- ・子供が学校にいる時間はなかなか時間が取れないし、会議や部会、打ち合わせ等も多く、本当にやりたいことがなかなかできず、結局夜遅くまですることになる。
- ・①~⑤の対応する時間は、基本的に勤務時間後にすることになる。
- ・育児との両立が難しい。
- ・時間が足りない。
- ・①②③④の項目は基本的に勤務時間外にするしかない。
- ・7時間目まで授業がある日は放課後の時間が全くない。
- ・保護者への連絡は一度では取れない場合が多く、何度もトライしなければならない。そのため時間を取られる。
- ・提出文書が非常に多い。調査等減らすことはできないだろうか。
- ・16時過ぎに児童を帰し、それから保護者対応や提出書類、同学年の打ち合わせ等があり、それから教材研究していたらあつという間に19時頃になる。
- ・全て同時進行なので、何か緊急に入ると十分に対応する時間がない。
- ・自分自身の技術が追い付いていないことが1番だと思うが、授業づくりの時間をもっとあればいつも思ってい

る。

- ・とにかく人手が欲しい。多様な子供がいる中、個別支援が必要な子に対応できる教員や、緊急事態に対応できる人員が必要。
- ・③⑤に時間をとられている。(①②④より優先しないといけない状況) ①②④について時間が欲しいところだが、それ以上に人手不足で児童の対応が十分にできていない。
- ・優先して対応すれば、その他にしわ寄せがきている。
- ・とにかく時間が足りない。6校時の授業が終わると、放課後はあつという間に時間が過ぎていく。
- ・高学年の担任になることが多く、行事の準備でも時間を使うことが多い。また小さい学校では校務分掌の割り当てが多く振られる。
- ・提出文書が多いので優先順位を決めて、もれのないように実施するのが大変。
- ・授業準備や個別の指導計画等を作成するために家で夜中に仕事をする人が多い。家庭でのこともあるのできつい。
- ・様々な連絡調整に時間がかかる。
- ・校務分掌の仕事に時間を取られ、成績処理に時間を取れない。
- ・どれに対しても時間が足りず。何もかもがきちんとできていない現状。このままでは子供がきちんと育つのか…と心配になる。
- ・⑤が一番優先になり、その分他のものにしわ寄せがくる。
- ・保護者対応についてはほとんどが 18:00、19:00 からになる。それを当日言われることがあるので困ることがある。
- ・給食時間に児童生徒の指導に学校へ行きたいけど、給食センターを離れられない日が多い。食に関わる指導の時間が取れない。
- ・授業準備や成績処理等は、勤務時間内にはほぼできない。
- ・チームと言う言葉で担任以外のものが、空き時間に他の教室への協力を求められる。
- ・仕事量が年々増え、身動きが取れない状態。
- ・初任研修等でとにかくやるが多すぎて、学習指導等に十分時間をとることができない。
- ・家庭学習をしない子の対応をしていると授業の準備に余裕がなくなる。学力向上を目指して底上げを図っているが、個別指導を行わないといけないので翌日の学習計画や準備は持ち帰りの仕事となる。
- ・児童下校から勤務終了の45分間でできることは限られている。
- ・定時までの時間でやりきるのは無理。
- ・教材研究が不十分なまま、授業を行うときがある。子供と向き合う時間よりもいろいろな事務仕事に時間をとられる
- ・勤務時間の中でできることは限られている。

【中学校】

- ・学年会、職員会議、行事の準備等があると明日の授業の準備(生徒の「関心意欲」を高める)まで手が回らない。また生徒指導においては保護者の方と連絡を取り合ったり、生徒指導の情報交換を行ったりしたいがそこまで手が回らない。
- ・成績処理については生徒の下校した後に点検を行うことが多く夜遅くまでかかってしまう。また、評価は(テストの採点は土日放課後に行い)それらの結果が出た後、休みに行くことになるため、時間は確保されていない。打ち合わせも生徒の下校後となり夜遅くまで行うことが多い。保護者が働いているため、長欠の生徒の保護者との連絡は朝7:15くらいから3件、家庭連絡を毎日入れている。(放課後は夜遅くないと連絡できないため)朝6:30くらいに学校に来て実験等の準備を行っている。
- ・①~⑤の対応にかかる時間がそれぞれにおいて多く必要であるため。業間、昼休みはその日のうちに児童に返すものの処理に、放課後は①~⑤に追われて夜遅くまで学校に残り家庭へ仕事をもち帰ることになる。早朝から夜遅

くまでかかることが多い。特に学期末、学年末の成績処理等に時間が必要なときに他の仕事がいりいろな種類入ってくる。

- ・教員数の減少等により1人あたりの校務分掌が増加している。
- ・校納金の不祥事が他校で起こってから校内会計事務が複雑になり作成する書類が増えた。また未納者がいる場合、学校の対応を書く書類が追加された。
- ・図書館の蔵書点検・消耗品も含め、1万数千冊の全ての本についてバーコードでの点検が義務付けられ市教委の監査もある。人が図書館に常駐していないのにそれを求められている。
- ・教員の本来の仕事に割く時間が減っている。学校や生徒の活動をサポートする以外の事務処理が増えていく一方。
- ・複数の計画と突然の「変更事項」が同時進行で来る。また前もって企画しておいたことで外部の方が来るような場合（例：外部講師を呼んでいるとき等）急に日課変更が（何らかの理由で）あり大慌て。冷や汗ものものときがあった。（起案は1か月以上前もっているのに少しの理由で時間変更なんかしないで欲しい）対応が大変だと思う。
- ・部活動の指導がまず1番負担が大きい。やりがいは感じるが、土日でも夕方まで大会なことが多く（卓球で中体連以外の大会でも年に40以上あった）、土日の夜に次の週の準備をすることも多い。仕事も主でやることが多く、何とか回している状態が続いている。なるべくストレスには思わないようにしているが、当たり前という風にはしたくない。
- ・日録のチェック、提出物の確認、生徒指導等で日中自分の仕事をする時間はあまり取れない。部活動が終わる18:00以降からやっと翌日の授業の準備や成績処理、校務等に取り掛かるので遅くなってしまう。欠勤生徒への連絡や保護者対応が入ると更に遅くなる。
- ・教育相談や生徒指導関係で教師間の情報交換が不十分であるため対応が後手になってしまう。それは、それぞれが忙しく職員室にいるときがなく、教室で生徒の対応、部活動等ゆっくと職員室にいられる時間が少ないことにある。
- ・学習指導の準備や成績処理、校務分掌上の仕事等を定時の時間にすべてやることは自分の能力では不可能に近い。それに加えて緊急の生徒指導対応や保護者対応等に追われると時間配分を事前に計算しても破綻してしまう。自分は緊急対応の少ない7:00前に出勤し、事務作業等を進めているが、それでも19:00頃まで業務がひと段落することはほとんどないのが現状である。また、保護者の一部には、教員の勤務時間を全く把握しておらず、当たり前のように時間外に電話をかけてきたり、連絡が取れなかったりしてそれに対応しなければならぬのも負担を感じる。これに、平日、朝、夕や土日の部活動を加えると一体いつ休めば良いのかわからない。実際、今年度4、5月は34連勤（休日4日）、時間外勤務も100時間を越えた。
- ・どの仕事もやってもやっても終わらない。各書類の提出や様々なアンケート集計等次から次へと仕事が増える。何かの事務局にあたれば更に増える。生徒との時間を大切にすると、そのような事務仕事は放課後になる（部活動があれば19:00以降）。生徒の様々な問題が増えれば更にやるべきことは増え、21:00を越えることも当たり前である。
- ・勤務時間は8:10~16:40だが、生徒が登校するのは7:30くらいで朝部活動を行う。夏場が17:45まで学校で活動しているため、普通に考えても時間内に仕事は終わらない。そのなかでも、どの職員もいやがることなく子供のことを思って働いている。一生懸命に働いているのに、もっとできて当然という雰囲気があるように感じる。（保護者・地域・教育委員会）
- ・支援が必要な生徒が多く、なかなか個別にしっかり対応ができていない。また、1学期は生徒指導等に時間を取られることが多く上手く時間のやりくりができなかった。
- ・日常的に生徒が提出してくる自主勉やセミナーも本当は改善点等を記入して返してあげべきだがハンコで済ませてしまっている。1日1時間の空き時間ではそれ以上難しい。
- ・授業準備、教材研究の時間の確保、子供との関わりの時間の確保がしづらい。ワークライフバランスを保つためにも教職員定数の増加を求める。また管理職の動きが昨年度に比べて見づらい。それで教員評価は十分行えていない面があると思われる。
- ・生徒支援委員会を設ける余裕もなく、誰もが忙しくしている。1人でいくつも主任の仕事を抱えている。

- ・生徒一人一人に時間を取られることが多く、以前ならある程度できていたことをしっかり説明しないとできなくなっている。
- ・部活動等で授業準備ができない。
- ・学習に関わる指導と成績処理はいつも時間に追われるようにして行っている。急な生徒指導の対応もあり、教材研究の時間が奪われている。
- ・生徒指導上の問題で個別対応が続くと満足にできない。
- ・保護者や外部への対応が優先される。
- ・残業するか、自宅で仕事をするかどちらかである。
- ・保護者対応は勤務時間外になることが多い。
- ・授業準備や提出物の評価は、もっと丁寧にやりたいといつも思っているが、どうしても他のことの犠牲になってしまう。
- ・満足する対応に近付けるために、勤務時間外の時間を使っている。
- ・評価人数が多く、勤務時間内に成績処理が終わらない。
- ・物理的に時間が足りない。どうしても教材研究の優先順位が下がってしまう。
- ・教材研究の時間が足りない。
- ・やるが多すぎて時間がない。
- ・勤務時間内に、全ての業務をするのは難しい。18:00を過ぎてから事務仕事になる。
- ・生徒・保護者への対応等「対人」であるものを優先的に行うと、個人で行う業務は後回しになる。自分の子が小さいうちは持ち帰り仕事が多くなる。
- ・事務処理に煩雑なものが多すぎる。
- ・書類作成や事務仕事が多様化している。仕事の種類も量も多く、土日を使うこともある。
- ・授業準備が勤務時間内に取れないのが日々のストレスになる。
- ・教科、道徳、学活、総合等分らないことが多すぎて時間が足りない。体力的にきついときもある。
- ・仕事量が多く、1つのことを満足するまで十分にできない。
- ・自分自身の時間の作り方が下手である。
- ・時期によって忙しさは異なるが勤務時間内の処理は無理。
- ・現在の教員に求められているものは多岐に亘り、1つのことだけをじっくり取り組む余裕はない。
- ・仕事の取りかかりが19:00をこえてしまう。
- ・生徒のいる間は授業や学級経営・部活動に従事している。
- ・生徒指導は、授業や休み時間のときだけでは指導できない。
- ・高知市内では議会の答弁の為のアンケートや資料作成に時間をとられ、それは生徒の為とは言いがたい。
- ・生徒数、授業時数が多く、縦持ち（1～3年生をもつ）をしているので、授業や成績処理で忙殺されてしまう。
- ・授業時数が多く、学級活動等への時間が持てない状況。
- ・3学年分の授業研究が追いつかない。
- ・家庭の用事があるので持ち帰っても十分に準備ができないときがある。
- ・1日の中で空き時間が1時間もない日がある。そのときは放課後しかできない。
- ・締切前にばたばたやることが多い。計画的に行えばいいのだが、何から手を付けていいのかわからない。受け持ちの校務が多く、全てが中途半端になる。
- ・満足できるところまでできていない。
- ・一人の仕事量が多く、一つ一つに時間をかけられない。
- ・部活動があるため、放課後は有効に使えない。免許外授業（家庭科）を持っているので実習の準備や教材研究の時間が多くかかる。
- ・勤務時間中には、授業、授業準備、最低限必要な事務仕事で手一杯である。
- ・保護者に対応できる時間は、大体勤務時間外である。その時間はサービスに他ならない。教師の気持ちであり、支える制度はない。

- ・ 報告書や教育委員会から課されるアンケート調査等の集計が急に入ってくる。
- ・ 空き時間がない。仕事が多岐に亘り、十分に対応できない。
- ・ 校務分掌が多く、どれも取組が中途半端になる。35人学級で不登校3人は多い。若手が多くなり、中堅にしわ寄せがきている。
- ・ 校務分掌を1つもつだけで、仕事量は格段に上がる。若い先生に丸投げで仕事を分担せず、年上、年下でバディを組んで取り組むと良い。
- ・ 満足のいく対応ができるように勤務時間外に時間を捻出している。
- ・ 勤務時間内に全てのことをするとできている。時間外にしなければいけない状況。
- ・ 生徒が学校にいる間に生徒と関わる時間を確保することが難しい。
- ・ 1年目で教材研究に時間がかかっている。家に帰ってから教材研究するため、十分に時間確保ができていない。
- ・ 部活動指導後 20:00 頃まで毎日仕事をしているが、その日のことや次の授業の準備等で精一杯で余裕がないと感じる。
- ・ 授業準備が落ち着いてできず、夜の遅い時間しかできない。校務分掌上の仕事が多い気がする。
- ・ 土日や毎日夜遅くまで時間を使って対応しているが、空き時間だけでは足りず放課後は部活動で使えないからそうしないといけない。
- ・ 放課後は部活動指導等のためほぼ十分な時間は取れない。平日に週1回程度部活動を休みにしているのでその時にまとめて準備等をしていることが多い。
- ・ 校内でのことが主になり提出文書が期限ぎりぎりになってしまう。
- ・ 全てが重なり全てがきちんとできていない。
- ・ どこかで線を引かなければいけないのだろうが、教材研究、プリント作り等できるだけしてやりたいという気持ちが強く働く。
- ・ 限られた時間の中なので授業準備や教材研究等は持ち帰ってしている場合が多い。
- ・ 時間を確保するために時間外勤務をしているので全てが不十分に近いと思う。
- ・ 生徒指導、保護者対応の優先順位が1位なので、他は生徒指導等に追われ不十分にならざるを得ない。
- ・ 部活動指導に多くの時間をとられるのであらゆる校務に支障が出ている。
- ・ 部活動指導の時間をもう少し短縮できれば教科や生徒指導へ割り当てられる。
- ・ やらなければならぬ作業が多くどれも十分に時間が取れない。
- ・ 生徒数も多く、学年主任としてすべてのことに対応するため時間の確保が難しい。
- ・ 部活動のやりとりで多くの時間を割かれて他にすべきことに影響が出る。
- ・ 生徒指導は個別ではなくチームで対応するので、もっと情報交換等の時間が必要。
- ・ 授業時数が多すぎる。部活動で平日も土日も時間がない。
- ・ 相談室登校の生徒に対する指導を空きの先生にお願いしているが、時間割の都合で養護教諭にも出してもらわざるを得ないときがある。
- ・ 時間に対し仕事の数が多い。
- ・ 教科研究の仕事はほとんどが自宅での持ち帰りになっている。授業時間数が多く学校での勤務時間内に次時の準備が不可能。
- ・ 部活動の時間もあり、勤務時間中で全ての業務に関わるのが難しい。また授業準備も基本的に家や休日で行うことが多い。
- ・ 物理的な時間の確保が難しい（1日は24時間なので）。学校5日制の中ではなかなか対応できない場面がある（ほぼ6時間なので土曜日があるとまだやりやすいかもしれません）。
- ・ 基本的に生徒の最終下校時刻に左右されているため、夏場になるととどろん仕事の時間は圧迫されてしまう。
- ・ 多くの時間を生徒と関わる時間に費やし、事務処理等の時間確保が難しい。
- ・ 子供の保育の都合上遅くまで残ることができない。他の先生方は部活動指導もあり、教科にしろ生徒指導にしろ打ち合わせの時間を十分確保するのは厳しい。
- ・ 勤務時間内には授業や部活動等で事務的な仕事する時間があまりない。

- ・行事の準備、生徒会指導等に時間を割かれてしまう。
- ・部活動のせい。
- ・他のことに時間を取られ過ぎてしまう。
- ・授業の空き時間は生徒の日記を読んだり、生徒指導の対応で終わったりすることが多い。放課後には部活動指導があるため、成績処理等は勤務時間外にしないと間に合わない。
- ・勤務時間内に終わらせることができず土日等を使う日がある。
- ・どの項目についてもやるべきことが多くあり過ぎて十分納得がいくまで時間をかけられていないと思う。1人あたりの校務分掌の量が多すぎると思う。
- ・大会、練習試合、出張等が重なったため他の先生と打ち合わせをする時間が全くなく困ったことがあった。保護者に出す資料の作成ができず、迷惑を掛けてしまった。
- ・事務処理をするための時間が欲しい。
- ・仕事の内容によっては1つの業務が数時間かかるものがある。
- ・市教委への提出書類が多すぎる。研修が多すぎる。
- ・100%満足ということにするには、更に勤務時間が増えることになる。
- ・授業数が多く準備の時間が確保できていない。
- ・授業準備の時間が足りないときがある（実験の準備等）。
- ・教務主任という仕事上、学校全体のことや教育委員会への文書の提出の確認等をしていると、教材研究の時間や研修の時間を削るようになる。
- ・校務分掌や部活動等に時間を追われ、新たな教材研究が満足にできず既存のものを、中には古いものを使用して授業に使用することがあり、生徒への授業に満足のいく対応が不十分に思える。
- ・1番優先しなければならないものが生徒指導だと考えるので、その時間は必ず確保しているがそれ以外の時間については慢性的に時間が足りない。人材の割り当てに偏りがあるように感じる。
- ・校務分掌上の事務的な仕事のため、他に十分な時間が取れない。
- ・年々提出書類が増え、生徒との関わりの時間が減っている。
- ・教育委員会、外部団体からの研修等（他にコンクール等の作品依頼）がとても多く、その対応がどうしても遅れがちになる。
- ・同時期にやらなければならないことが重なり、提出書類や作成文書が多すぎて、教材研究が十分にできなかったことが多い。
- ・会議の回数が多く、中には重複するような内容のものがあって時間のロスが大きい。学力向上に関して県や事務局が関わるような場合は形式を整える必要（誰にとって？）があり、内容よりもそこに時間を取られる。
- ・やるべきことが多くて満足いくほどに1つのことに時間が取れない。
- ・教員同士がそれぞれ忙しいために連携や相談する時間を確保できない。
- ・部活動指導や多忙な校内分掌に追われ時間が無い。
- ・生徒指導上の諸問題では、家庭や成育歴に端を発する事例がほとんどを占めており、抜本的な解決や対処するには相当の時間が必要であり学校だけでは対応しきれない案件が増えている。
- ・生徒の情報交換を担任とする時間がなかなか取れず、1日が終わってしまうときがある。
- ・扱うことが多すぎて全部を満足にいくような対応は難しい。家に持ち帰ってやっても時間が足りない。
- ・年々提出する文書が多くなり、保護者が学校に求めるものも大きい。全てを満足のいく対応にするのは厳しい。
- ・私の工夫が足りないのかもしれないが、朝練7:30から夕方の部活動までしっかり子供の側で見守り指導したら勤務時間内で終わるものは1つも無い。16:30に帰れる人は今まで1人も見たことない。
- ・教科指導、道徳、総合、学活、学級経営、委員会、部活動…。どれに対しても精一杯の努力を求められるが限られた時間で全てに力を注ぎきることはできないので結果どれも中途半端になる。
- ・①の学習指導等はずっと時間をかけたいと思っているが、日頃の授業+事務処理+部活動指導等に追われる毎日。
- ・生徒指導に要する時間や授業時数の多さによる。
- ・授業準備や教材研究は、行事があったり、部活動の指導等があったりするときは十分にできない場合がある。

- ・ 1日1時間程度の空き時間は生徒の生活ノート等チェックをして終わり。授業が終わるとする清掃→帰りの会→部活動で、部活動指導のあと下校指導が終わると19:00。家庭のこともあるので放課後も時間は取れない。
- ・ 生徒指導に追われ①②④等行う時間が十分に取れない。保護者の都合で家庭訪問を行っているため、遅い時間になってしまい、十分に時間をとることができない。
- ・ 全体的な時間が不足しているので、どれも時間がなくてできないというよりも、全てがいい加減になってしまっている。
- ・ 教員の本来の職務は授業だと思う。そのためには教材研究が必要。でも現状ではその時間の確保は後回しになることが現状。
- ・ 部活動に割く時間が多く教材研究まで手が回らない。
- ・ 土日、平日の18:30まで部活動に束縛されて時間に余裕がない。
- ・ 部活動の早朝練習、放課後練習、空き時間は日記のコメント記入等で19:00までは自分の仕事ができない。
- ・ 時間が作り出せない。
- ・ 全ての業務をこなすのに十分な仕事が取れない。小さい子供がいるため夜遅くまで学校に残れない。時間が業務に対して圧倒的に足りない。
- ・ 授業時数の多さ+個々の生徒への対応が必要な生徒指導事案の増加。保護者による理不尽な要求、要望（親、生徒の幼稚化）外部団体からの作品募集や作品依頼の増加。各種調査の増加。部活動指導。
- ・ 仕事に不慣れな部分が多々あり、必要以上に時間がかかってしまう。
- ・ 仕事の優先順位がつけられないため。毎日いろいろなことが起きるため。
- ・ 生活ノートを見る時間はとられるので、1日2コマ分授業が空いていても十分には行えず、勤務時間外にその他の業務としている。
- ・ ①新しい指導（ICTやAL等）に関して学ぶ時間の確保は難しい。日々の授業で精一杯。
- ・ 勤務時間内には生徒と常に関わっていて、それ以外の業務をやる時間は部活動終了後しかない。まじめにやるほど時間は足りなくなり残業が当たり前になっている。
- ・ こちらが仕事の段取りをしても状況によって優先順位が変わってしまうため。
- ・ 教材研究はより細かい手立てを目指そうと思うと時間に限度がないように思える。「もう少しこんなことができる時間があれば」と感じている。
- ・ 部活動が主で教材研究や生徒との心の交流が従になっている。管理職も早く帰るようにというだけで口だけである。今の私たちの状態は教諭とは言えない。ブラック企業。
- ・ 分掌を1人で多く抱えたことがありとにかく大変だった。

【高等学校】

- ・ 今年度、管理職がよく業務改善と言っていて、時間を「18:30 終了」等と掲げ、残って仕事ができにくくなっている。同じようにUSBの持ち帰りも本数が少なくて持ち帰りもしにくい。（38人の職員がいてUSBは10本）
- ・ 定時制勤務であり、生徒は夕方まで仕事をしてから登校。授業が終わった後、夜、下校手段のある中での下校となる。特に放課後は近辺の補導に追われるため、しっかり生徒の個別相談にのる時間が保障されない。
- ・ ①定期考査前以外はほぼ毎日課外授業が入り会議ができない。②定期考査後の採点は校内でしかやることができず、深夜までかかることがある。③昼休みはほぼ生徒との面談、相談、指導に使われる。④授業の空き時間に何とかやっているが部活動後にやることも多い。⑤保護者の都合に合わせて土曜にやることが多い。
- ・ 初めての講師で、もっと授業準備や教材研究をしたいが、部活動や面接指導等の役割があり、満足できるまでできていない。
- ・ 時間が足りない。
- ・ やらなければならないことが多すぎて、上手に時間配分できない。
- ・ 仕事が多く、忙殺されてじっくり一つ一つのことができない。特に、本来最も大切にしなければならない教材研究や生徒の関わりが不十分である。

- ・全ての項目に対して満足できる対応はできていない。すべて同じように対応するのは不可能。
- ・常に2～3の仕事が同時進行なので、全て不十分。
- ・様々な業務が重なっており、どれか1つに集中して業務を行うことが難しい。
- ・一つ一つの業務の質が落ちてしまう。
- ・部活動をもつ教員は、授業準備、成績処理が大変だと思う。解決策はないが、認識してもらいたい。
- ・PTAでは庶務主任担当で夜の会合がよくあり、時間外勤務を強いられる。
- ・学校の規模に対して、仕事量が多すぎる。勤務時間の考えが管理職に全く感じられない。超過勤務が当然のように思われている。
- ・校務の仕事が多岐に亘り、十分に対応ができていないと思わない。
- ・夏季休業中の部活動の全国大会への引率等で補習を十分に行うことができなかった。
- ・教育委員会の主催する行事の情報が遅い。そのため対応が後手後手になってしまう。学校行事の日程も遅い。
- ・雑務が多い。
- ・授業改善（アクティブラーニング）に力を入れているが、その分、他の業務の時間が奪われてしまう。不足分は休日に回すしかない。
- ・放課後、会議等があり、生徒との面談がもちづらい。
- ・業務の重なりで十分な時間が確保できない。
- ・学習指導に関わることで勤務時間いっぱいになる。それ以外は時間外勤務で対応している。
- ・保護者や地域の方からの苦情があり、理解できぬ意見も多くなってきている。
- ・突発の生徒指導に対する対応が必要になったとき、通常の仕事がまわらなくなるし、他の教員に頼む人数的余裕もない。
- ・様々な提出書類への対応。
- ・義務作業、提出書類、会議、部活動が多く時間がほとんどない。
- ・分掌等の業務が多々あり、他の業務があまりできない状況。
- ・生徒と関わることを優先すると勤務時間の中で文書の作成等は不可能である。
- ・生徒指導等において突発の問題行動が生じることが多く、満足できる時間の確保が困難である。
- ・成績処理や生徒への指導等には時間を確保するようにしているが、その分他のことがバタバタの中でやるので大変である。
- ・書類が多い。会議も多くて長い。
- ・クラス分割等が多く科目も多くなるため、成績処理や準備が追い付かない。
- ・出張、校外の業務が多い。
- ・生徒指導に関わる件数が多い。観点別評価導入のため、成績の処理の時間が5倍以上に増えた。
- ・②は締め切りの日程が厳しい。③⑤は突発が多く余裕がない。
- ・教材研究、事務処理、会議、生徒の対応等が重なると、勤務時間内で終わらせることは不可能。
- ・とにかく時間が足りない（企業対応と報告書の数が多すぎる）。
- ・とにかく事務的業務が多すぎる。パソコンに向かっている時間が異常に長い。結果として、そういうことを優先して時間を確保するので、その他のことが不十分にならざるを得ない。
- ・校務の仕事以外の行事に関わる補助的な業務が入ってくるため、時間と労力をとられてしまう。
- ・生徒部長として優先順位をつけて業務にあたるとこのようになる。
- ・締切のある提出書類が多く、目の前のことを優先的に片づけているとその他のことに回せる時間が少なくなる。
- ・事務作業が多い。
- ・運営委員なので校内分掌内の仕事量が多いため、なかなか授業の準備をする時間が取れない。
- ・③生徒対応で話し合わなければならないケースが多いが、お互いに忙しいので十分時間を取れない。

【特別支援学校】

- ・個別支援計画をはじめとする文書作成に追われる。
- ・一日中生徒と一緒にだから、ゆっくり考えるには残業しかない。
- ・自分勝手な解釈で休みを取ったり、生徒の対応から離れたりする教員がいるので、周りがフォローする形で対応すると、自分の授業準備の時間が取れない。
- ・提出文書や生徒・保護者への対応で時間がとられ十分な授業準備の時間が取れない。
- ・学級の生徒に対しての打ち合わせや生徒対応の時間が確保できていない。
- ・放課後（16:15～17:00）は、諸会議と職員研修が連日入り、職員個々の業務が後回しになる。
- ・分掌上の職務（教務主任）に追われている。
- ・分掌に関わる仕事が多く、他職員と情報共有する時間が十分に取れない。
- ・会議に時間を取られている。提出文書に対する指導回数の増加。

質問事項

(2) 次の項目について、十分な時間は確保できていますか。

- ① 児童生徒理解・子供とのふれあい（休み時間・放課後等）
- ② 自己研鑽の時間（読書、研修会への参加等）
- ③ 土日、祝日のリフレッシュ（家庭でゆっくり過ごす時間・趣味の時間等）
- ④ 超過勤務の振替（PTA や地域の会議、修学旅行引率等による回復措置）
- ⑤ 上記の項目について、十分な時間が確保できない項目があった場合、その理由をお書きください。

【教職員】 十分な時間が確保できない項目があった場合、その理由をお書き下さい。

【幼稚園・認定こども園】

- ・休日に仕事をしてしまうことがある。
- ・長期休業中であれば、振替が取れるが、そうでないときは時間休でも取れない。
- ・学期中は忙しく代替の休暇が取りにくい。
- ・超過勤務の振替について、幼稚園は職員数が少なく、振替を取りにくい。
- ・②読書等の余裕はなく、まずしなければならぬことが優先。
- ・③持ち帰り仕事、休日出勤があるため、気持ちの面でも常に仕事が頭から離れず焦りを感じる。
- ・④早番、遅番勤務分の日常的な振替は取りにくい。
- ・休みの日に必ず仕事を持ち帰るため、休みの間も「～をしなければ」という気持ちになり、ゆっくりできない。
- ・休日にも仕事のことを考えたり、平日できなかった仕事をしたりして完全にリフレッシュできない。携帯に保護者から連絡がくるので教えないでほしい。
- ・職員数が少ないため限られた人数しか研修に参加できない。持ち帰り仕事があるため、休暇のリフレッシュもあまりできない。

【小学校】

- ・読書する時間はほぼない。帰宅して疲れて何もやる気になれないのが現状。土日は部活動でつぶれてしまう。
- ・児童のことを優先していると自分のことができない。放課後も宿題のチェック等で終わってしまい、自己研鑽に使う時間は、平日は皆無。休日は体と心を休めるようにすると平日また苦しいの繰り返し。
- ・②読書は隙間時間にやっている。研修会はなるべく行くようにしているが部活動優先である。③年に2～3回のみで家でゆっくりすることはほとんどにない。④振替は「取ってくれ」と言われて取っているが普通に仕事をしている。
- ・授業確保のために1日の流れが「つめこみ」になりやすい。
- ・放課後は校内分掌の事務に追われ、授業準備や宿題を見るので休み時間はつぶれてしまう。そのため児童とゆっくり時間を過ごすなんて夢のまた夢。特に小学校では空きが週1.5時間しかなく、ぎっちり授業がつまっているので大変。
- ・毎日出している音読カードのチェック等を休み時間に行うため、なかなか遊んであげる時間が取れない。親からの連絡帳に目を通したり返事を書いたりすることで休み時間等を使ってしまう。
- ・朝は7:30 前後からあつという間に勤務時間が終わり、帰宅が19:00 頃になってしまうのが毎日である。帰宅しても仕事が終わるのが23:00 を過ぎることが多く自分のための時間はほぼない。
- ・休み時間は授業の用意（ICT 機器）や個別の学習指導、提出物（調査依頼等）の催促、体調不良の児童の世話、支援員との打ち合わせ、電話応対等でゆっくり過ごしたことがない。土日は平日できなかった仕事の処理で、まったく学校に来ない日は毎月1日あるかないか。

・ある特定の教科（体育等）にかける比重が高過ぎる時期が長く、子供と向き合う時間や教材研究はもとより充電のためのプライベートな時間が奪われることがあり、ストレスがたまり体調管理に支障をきたすこともあるように思う。それらが教壇に立つ上でのコンディションにも大きく影響があると感じられる。

・①については宿題の点検や個別指導等に時間を使い、子供たちとふれあう時間がなかなか取れない。②・③については指導案作成や教材研究、授業等の準備を土日にもすることがあるのでゆっくりと自分の趣味等に使う時間は少ないように感じる。

・休み時間は授業後の個別指導、次の授業の準備、生徒指導等で子供と遊ぶことがあまりできていない。家では家事・育児に追われ子供が寝ている間に宿題の丸付けや授業準備、学級通信作成等をしているが自己研鑽の時間は取れていない。

・①休み時間は連絡帳やノート等に目を通す時間になる（学習指導含）。④超過勤務の振替日の声はかけてもらうが仕事が目の前にあるとなかなかとる気にならない。

・宿題の丸付けに追われ、子供と関わる時間が取れない。土日のどちらか、もしくは両日仕事をしてないと平日が苦しい。

・土日学校行事があるため、勤務時間を過ぎてても帰りにくい。

・休み時間はほぼ宿題を見る時間。

・振替をとる余裕がない。プール管理等体育的行事の準備に休日の時間が割かれてしまう。

・土日に平日できなかったことや、次の週の準備のため勤務をすることがよくある。

・家でも仕事をしている。気持ちが休まらない。

・次から次へと会や行事があるため、個人の時間は、平日はもちにくい。

・休み時間、放課後も事務に追われるから。

・休み時間や放課後に打合せがあったり、授業準備に追われたりしてしまう。

・どの時間も不十分。忙しすぎる。

・日々の授業や授業準備等で精一杯で、他の事をする時間がなかなか取れない。

・休み時間は子供と十分にふれあっていない。

・報告書や起案文書が多いため、なかなかゆっくり児童とふれ合う時間が取れない。

・児童とのふれあいの時間は、宿題のチェック等をしていて休み時間に十分に取れない。

・ノート、プリントの評価に追われているから。

・土日に仕事がずれ込む。

・自分の学級のことは土日にする。

・やらなければならない仕事が多すぎる。突発的にいろいろなことが起こり、その対処に追われる。

・空き時間が全くない。一週間に1度でも授業研究の時間があるといい。

・休み時間は生徒指導や雑務のため児童との時間をとることができにくい。平日夜遅くまで勤務することが多く、自己研鑽の時間がとりにくい。

・休み時間にノート指導や個別指導を入れた場合、ふれあう時間の確保が難しい。

・休み時間や放課後は分掌や宿題点検のため、子供とのふれあいの時間がほとんど取れない。

・校務分掌、学年学級事務、学習の提出物の処理等で時間がかかり、自己研鑽の時間が十分に取れない。

・やることは増える一方で減ることがない。

・休み時間に宿題の点検をしたり、放課後に課外活動があったり、子供も教員も多忙であり、子供とゆっくりする時間はあまりない。

・報告文書に追われ、なかなかゆっくり児童とふれ合う時間が取れない。

・休憩時間は、家庭学習の点検や学習プリントの丸付けができる唯一の時間。子供たちと遊ぶことがなかなかできない。

・時間にゆとりがない場合、対人のことが優先されてしまう。

・休み時間は児童の宿題や提出物の確認に追われる。昼休みは委員会の集まりや班長指導等がよく入る。

・提出書類等の作成や教材準備等のため、休日に出勤せざるを得ないときがある。

- ・振替を取ると後で自分の首をしめることになる。
- ・振替を取ると他の職員に迷惑をかけることになり、取りにくい。保護者からの連絡帳や子供の宿題を見ることに時間を取られる。
- ・毎日帰りが遅い日が続くと気分が滅入ってくる。休みの日の切り替えもうまくできにくくなった。
- ・たまった仕事があり終わらない。
- ・子供たちとゆっくりふれ合って過ごす時間がない。いつも時間に追われている。自分のことは後回しになる。
- ・長期休業中でないと振替が取れない。持ち帰る仕事が多すぎて家でもリフレッシュできない。
- ・学校にいる時間はいつも 12 時間以上である。
- ・会議等が優先され子供とふれあう時間が取れない。
- ・持ち帰り仕事が当たり前の状況である。
- ・児童との教育相談をする時間がなく、放課後や休み時間を使わざるを得ない。
- ・研修に行く気がおきない。
- ・夏季休暇もあるが、実際には出勤して仕事をこなさなければならない。
- ・全体に関わる仕事が優先され、個人的なものの子供との関係づくり等は後回しになる。
- ・平日や土日の超過勤務についての振替は確保されていない。
- ・どうしても自分の時間は後回しになる。
- ・保健室の PC でないとできない作業であり、土日出勤することがある。
- ・仕事の切れ目がない。
- ・日常的に子供と過ごす時間はほとんど取れていない。
- ・振替の回復をとらせてもらえない。許可制（横浜市）。
- ・提出期限に書類を提出することが全てになっていて、教師としての大切なことが抜け落ちていく。
- ・ゆとりがない。
- ・自己研鑽の時間は日々の仕事に疲れ、やる気が出ないため取れていない。
- ・振替を取る期間が限定されていると感じる。
- ・持ち帰る仕事が多く、家でやらざるを得ない。
- ・振替を取る時間がない。
- ・休み時間も片付けや次の学習の準備があり、子供とのふれあいがもてない。
- ・日々忙しすぎる。
- ・振替で休みをとっても、年休を使わないだけである。
- ・放課後は会議や支援会等で子供との時間がない。
- ・振替、回復措置は長期休暇中でないと難しい。
- ・家に仕事を持ち帰りたくないのに、土日に家で仕事をするのではないが、平日の勤務が遅くなる。土日は疲労がたまっている。
- ・宿題を見ていると子供と十分にふれあうことができない。土日のどちらかに学校に来ないとやりきれない。
- ・成績処理の期間は特に忙しくなる。3 学期制から 2 学期期制になるとゆとりができると思う。
- ・振替の休みが取りづらい。
- ・安心して振替ができる雰囲気環境ではない。現代社会から明らかに遅れている感覚がある。
- ・事務仕事やアンケート、その集計等雑務が多い。行事や委員会の仕事が忙しく、子供とふれあう時間が取れない。
- ・土日どちらかは平日のやり残しに追われている。
- ・休み時間、放課後等突発的な問題への対応や、会議等で一人一人の子供に十分に寄り添う時間がもてていないと感じる。
- ・勤務時間外に出席しなければならない会議が多い。
- ・土日の行事になってしまうので十分に取れない。
- ・管理職が回復措置をとろうとしない。夜間に行われる PTA や地域の会議ではふり返りをとらない。
- ・休みは休みと割り切っている。

- ・①→本当はもっと時間をとりたいが足りない。③→土日、どちらか1日は仕事をしている（学校で）。
- ・家庭でしている。
- ・持ち帰り仕事が多すぎるため。
- ・割り切って土日は休むようにしているが、月2～3回は何らかの会が入ったりする。②については無理。生活（家事等も含め）に追われている。
- ・宿題やテストの点検等に時間がかかっている。
- ・放課後等一緒に練習できない子とは十分にふれあいができず、一部だけのふれあいになったように思う。
- ・家庭にも仕事を持ち込むことがある。
- ・土日をゆっくり過ごすのは難しいば場合が多い（平日に残った分の仕事の処理に時間をとられる）。
- ・休日の行事が多いが振替をとってもらえない。
- ・もっと子供と関わる時間を取りたいと思うけれど…。現実あまり取れていない。
- ・業務時間外の仕事があっても（土日等の出勤）、振替が取れるような雰囲気がない。
- ・勤務時間内でやるべきことを終えることは不可能。
- ・多忙を極める。日々の学習準備、各種仕事の段取り等。
- ・家庭でも休日に教材研究や成績処理をせざるを得ないため、自己研鑽やリフレッシュの時間を十分に確保できない。
- ・修学旅行の回復は今までもらったことはない。
- ・勤務日に夜遅くまで仕事をして帰ったら余暇はない。残った仕事を土日にしている。
- ・休日にも仕事をしないと追いつかない。振替を十分に取れない。
- ・土日に職場に行っても仕事をすることもあるので、あまり土日のリフレッシュの時間の確保はできない。
- ・土日も出勤して学校でしかできない仕事をしている。子供とふれあいたいが目の前のノート等と点検等に時間を割かれる。
- ・①することが多くなかなか子供との時間が作れない。
- ・夏休みに出張が多いので、振替をとっても結局学校へ来てプール当番等をするようになる。
- ・まだ子供が小さいのでゆっくり過ごす時間はほとんどない。
- ・④振替措置は行ってくれるが、（するべきことがあり）取れない。
- ・今は普段の仕事をこなすので精一杯の部分がある。
- ・休日には平日やり残した仕事をする。休み時間は丸付けや学習指導等に追われ子供とゆっくり関わる時間が少ない。
- ・金管バンドを指導していると休み時間もバンドの指導があり、学級の児童とふれあう時間も取れない。超過勤務がある教員の多くは多忙で振替なんて取れない。
- ・提出文書、報告等が多すぎるため業務中の休み時間や休日もその作成に追われる等時間が足りていない。
- ・休み時間に宿題等のチェックや生徒指導を行っているため、十分に子供たちと遊ぶ時間が取れない。
- ・休み時間にも授業準備、生徒指導をしているため。
- ・③を確保したくて①が不十分になったり、平日に残業が続いたりしている。
- ・溜まった仕事は家庭でしているが、子育てもしているのでなかなか時間が確保できない（土曜日に3:00までしている）。
- ・他の業務に追われている。健康を保つのに精一杯。
- ・土日や祝日に自己研修を行う等、リフレッシュしなければならぬのだが、休日出勤で仕事をこなしたり疲れ果てて寝て過ごしたりすることになりがち。
- ・振替を取ると仕事が終わらない。
- ・児童も移動や係等で忙しく、自分も指導のために忙しくなかなかゆとりがない。そこに生徒指導上の問題が起こるとなお時間がなくなる。
- ・④振替をとる余裕がない。平日の子供がいる時はまず不可能。
- ・日々の授業の準備や会議に追われ十分な時間確保ができない。

- ・(1) ⑥と同様に、プリント処理（宿題・テスト等）に追われてしまう。
- ・会議等のため勤務時間内は余裕がない。
- ・なかなか取れない。他の先生が時間外（夕方）でも一生懸命仕事をされているのに、自分だけ「お先に」とは帰りづらい。
- ・昼休みに個別学習指導、委員会活動等を行うことが多い。
- ・超過勤務の振替がない場合が多い。
- ・仕事をこなしていくためには結局時間外になってしまう。
- ・プリントの丸付けや教材研究に追われてしまう。
- ・放課後は会議等もある。
- ・自己研鑽に自発的に取り組める余裕がいかほどあるのか。回復措置はとってしまったために後で残る仕事を考えたらなかなか取れない。
- ・休み時間に生徒の問題解決や児童のノート、テスト類のチェックをする。
- ・同じく勤務時間内の空きがない。
- ・やることが多く時間を割けない。振替をとったら仕事が回らない。
- ・もっと子供とふれあえる時間を確保したいが、宿題や生活ファイルのチェックで時間がほとんど取れない。
- ・教務主任という立場なので、自分の仕事（授業準備・成績処理・日案作成等）は勤務時間外（休日を含めて）にせざるを得ないから。
- ・時間外の活動も多い。振り替える時間がない。校務が偏り過ぎていて負担が大きい。
- ・修学旅行の回復は特に不十分。
- ・小規模校のため1人の抱えている業務が多い。
- ・回復措置はあるのですか？
- ・宿題・テストの丸付け、授業のプリント等でなかなか昼休みに外に出られない。
- ・超過勤務の振替なんてあったのか。
- ・勤務時間外に行われるPTAや地域の会議、宿泊学習引率等の回復措置を取ろうとすると日常の業務に支障をきたす。
- ・時間に追われて自分の能力を高める時間がない。
- ・仕事内容が多い。
- ・勤務時間外のPTAとの会合が多く、自分の健全な家庭生活ができないと感じた。4～7月で6回ほど9:00まで勤務があった。
- ・土日祝日は授業準備や評価を行い、市内相撲大会等の行事も入りなかなかリフレッシュできない。
- ・振替については、管理職からは時間配慮の声をかけていただけているが、なかなか取れないのが現状。
- ・学校行事、地域の行事、悉皆研修で予定が土日まで詰まっている。
- ・振替は取れていないのが現実である。業務が多くて「帰る」ようには言えない。
- ・休み時間は丸付け、問題を起こした児童の指導、授業の準備に追われ、放課後はスクールバスのため児童を残すことができない。
- ・管理職の方に時間の観念がなく、勤務時間を過ぎても平気で仕事を言われる。会議の延長は当たり前になっている。
- ・特別支援学級なので、8人分の教材研究、保護者対応が必要で時間が足りない。
- ・①放課後に児童と共に過ごす時間はない。低学年は1週間の中で2日ほどあるが学年や学級で時間を使っている。
- ・休み時間にも他の活動、指導が多く学級の児童との時間がない。
- ・個人の仕事は休日にやることになる。
- ・行事に向けた活動が入ると十分に確保できない。
- ・ウィークデーのやり残しが土日に回るが、土日は家庭のこともありなかなか時間が取れない。
- ・土日は出勤することが多い。
- ・仕事が遅くて土日に持ち越してしまう。

- ・行事があると土日祝日等は準備に追われて十分に休めない。日々の生活が忙しいので土日に1週間の準備をしている。
- ・どの時間も子供に関わる事以外の仕事に追われて十分に時間の確保ができない。
- ・土日出勤しなければ仕事が終わらない。
- ・決められた研修で学ぶことはできるが自発的に研修会等に参加したり、本を読んだりする時間は足りない。土日は日ごろできない家庭のことで使える時間がない。
- ・土日の片方は必ず学校にいる（多くの先生方が…）。
- ・指導事項が多い（準備を含む）。
- ・休み時間は宿題や自主学習ノートを見て終わってしまう。ゆっくり話をしたり遊んだりする時間が取れない。
- ・持ち帰った仕事が多すぎると気分的に（物理的には間に合っても）③が難しい。
- ・事務処理や宿題等の点検に時間を使っている。
- ・休み時間は見返さないといけないプリントやノートやプリントをチェックする時間になってしまっている。
- ・保護者よりの手紙、宿題や学習の補充等の対応に時間を取られて子供たちと遊ぶ時間が取れない（業間、昼休み）。年々減っているように思う。
- ・自分がしないといけない校務等の優先順に処理していくと、上記のことを行う時間は確保できない。
- ・宿題等のチェックのため、成績処理のために持ち帰りの仕事が多く十分な時間は取れていない。
- ・家庭学習（自主学習）の点検のため、ほとんど休み時間に子供と遊ぶことはない。
- ・自己研鑽は自分の甘さゆえだが、子供との触れ合い不足は、宿題、自主学習等のチェック等でなかなか取れなかった。2学期は計画的に処理し触れ合いたい。
- ・土日出勤して仕事をしないといけない。
- ・すべき仕事は学校にいる間だけでは終わらず、帰宅後や土日に持ち帰ってしなければならないことがある。
- ・ノートやプリント、家庭学習・宿題等の確認や丸付けをし、その日のうちに児童へ返却しなければならないので休み時間がなくなり触れ合いが少なくなる。
- ・学校行事で超過勤務した分は振替等の配慮があるが、日々の超過勤務については職員が増えないと物理的に無理（土日出勤が増えるため）。
- ・勤務時間内に終えることのできない仕事量を抱えている。
- ・現在の学校にはスクラップ&ビルドの考え方はない。
- ・土日どちらかは学校に行かなければ仕事ができない。
- ・子供との触れ合いの時間が十分取れない（いろいろなことが休憩時間に入って来るため）。
- ・学校に遅くまで残れないという現実的側面があり、休憩時間、土日等を使って行わなければ間に合わない。
- ・①については授業準備や職員会文書作成等によって、④については校内で配慮はしていただいているが、結局やるべきことがあるので十分ではない。
- ・もっとゆっくり子供と対面したくても部活動で全校のかかわりを深めることに重点を置いている。今はそちらを優先してしまう。もし体が2つあれば読書も研修ももっとしたい。
- ・保健行事の準備、子供対応が気になり振替日も出ることがある（気分的に休めない）。
- ・平日できなかった仕事をしたり、今後の指導の準備をしたりするのが土日祝日になってしまう。
- ・行事前の委員会の児童の指導がある（昼休み等）。
- ・保護者への連絡事項を計画帳に書くのに時間がかかり、児童と遊ぶ時間が取れない。
- ・次の授業の準備や児童指導等で共遊する場面等は限られてしまう。
- ・基本的に保健室にいて欲しいと言われるため、研修会等で学校を空けることに抵抗がある。宿泊を伴う学習の場合超過勤務が当然のため、特に回復措置等はない。
- ・休日出勤をせざるを得ないので、土日のリフレッシュが十分に取れない。
- ・自分の能力やここまでやろうという線引きが問題なのかもしれないが、やるべきことが多く勤務時間内には終わらないため休息が削られる。
- ・土日のどちらかは休日出勤している状態。

- ・日々の仕事量が多いため。
- ・その日のうちに提出物を返却するためには、休み時間に子供と一緒に遊べない。
- ・勤務時間に仕事が終わらないため、土日でも出勤しなければ間に合わない。
- ・平日に終わらなかった仕事を休日にやっている。土日のどちらかを学校で過ごしていることが多く、リフレッシュの時間がなかなか取れていない。
- ・休み時間に子供と遊んであげたいが、打ち合わせや連絡帳の返事等でなかなか校庭に出られない。
- ・勤務時間内に終わらなかったことを休みの日に行わなければならない。
- ・仕事が多く時間が取れない。
- ・休み時間、放課後、土日はほとんど事務仕事をしているため、子供とふれあったり、自分の時間や家族のための時間が取れなかったりする。
- ・やることが多い。
- ・残務処理を土日も行っている。
- ・学校事務に追われて、自己研修を行う時間まで持てなかった。
- ・事務の仕事量が多い。学校に頼り切った仕事が多い。
- ・教職員の人数不足。
- ・平日、土日ともに学級の業務と部活動、校内分掌等が終わらないため残業することになるがそれでも終わらない。
- ・振替を取ったとしても結局予定が入っていて出勤している。
- ・児童への対応を第一に行うと、その他の業務がそれ以外の時間に多々残ってしまう。
- ・校務をこなすのに精一杯。
- ・部活動の指導や地区の教科研究員、地区の体育行事役員等の仕事が重なっている。
- ・持ち帰りの仕事が多く自己研鑽の時間を取ることは不可能。修学旅行の引率が超過勤務という意識が現場にない。
- ・結局は全てがサービス残業を行うことでしか穴埋めが可能でない。
- ・ノートやプリント等子供の提出物チェックに時間を充てている。
- ・平日の勤務内で事務処理が終わらず、土日に出勤することが多い。児童指導に追われ、子供たちと他愛もないふれあいや会話する時間が少ない。
- ・PTAの会議のほか、地区懇談会等地域でやればよい会議も教師が出なくてはいけないので困る。
- ・事務作業に追われ児童と遊ぶ時間がない。
- ・休憩時間は全くない。権利が保障されていない。
- ・昔の考えで休日にも仕事を入れられる。部活動の応援等。強制はないが上からの指示は断りにくい。
- ・家でゆっくり過ごす時間はほぼ無い。家でも仕事をしている。
- ・平日できなかった仕事は全て休日にやっている。放課後は児童を残すことができないので休み時間は一部の児童(指導が必要な子)としかふれあえない。
- ・土日祝日は、月～金の残務処理で終わってしまう。
- ・休み時間に外に行けない。
- ・土日のどちらかは出勤することが多い。1日休めれば休めたような気になってしまっているのが哀しい。修学旅行の回復措置はない。
- ・成績処理や授業の準備がある。
- ・会議や校務分掌に時間がかかってしまい、十分な時間を確保することが難しい。
- ・個別の学習課題を準備する必要があるため、自分のことや家族のために時間を充てることが難しい。
- ・引率回数が多。
- ・勤務の振替も年休も変わらないので、超過勤務分の給与支給があったほうが良い。
- ・超過勤務、休日の児童引率があっても、次の長期休暇が来るまで回復措置(振替等)はとられない。
- ・超過勤務の振替を取れる日がほとんどない。どうしても長期休業中になってしまう。
- ・今の学校の体制では無理だと思っているので…。
- ・新しい仕事が多く回って来たため時間の余裕がない。

- ・④について振替は比較的措置されているが、実際にはなかなかとることができない状況がある。
 - ・地域への行事の参加、顔出しが多い。取りたいが既に別の日も忙しいので無理。
 - ・休みの日も仕事をするために学校に来ている人が多い。回復措置は取れる時が夏休み等に限られる。
- 子供の相談をゆっくりと聞きたいが、事務作業の準備、トラブル対応等で子供の悩みをゆっくりと聞いてあげられない。
- ・回復の時間の声はかけてもらえるが、やらねばならないことがあると回復措置が取れず夏休み・冬休みにとっている状態。
 - ・子供がまだ小さいので平日はなるべく早く帰ろうとしたら、土日に仕事のしわ寄せがくる。
 - ・回復措置を取れることはなかなかないため。
 - ・平日は自分のための時間が取りにくい（自分の子供もまだ小さいため、帰ってから家のことに追われているため）。
 - ・家に帰ったら体を休めたい。
 - ・超過勤務の振替は不可能。
 - ・放課後は会議が多い。会議のための会議のようである。
 - ・日替わりで会議、協議等あって、自分の仕事は何もしないまま退勤時間がきている。
 - ・③はうまく仕事が切れない。④は結局取る暇がない。
 - ・宿題の丸付け、校務分掌の処理なので追いつかない。
 - ・土日も結局仕事をしていることが多いし、修学旅行等の回復措置も授業があるので取りにくい。
 - ・振替は物理的に不可能。子供たちを置いて取れない。
 - ・①休み時間に丸付けをしないと仕事が回らない。
 - ・校内（子供がいる時間）が忙しい。
 - ・回復措置を取るようになっても、取れる時が長期休業中しかない。
 - ・研修は土曜等、勤務に影響がないときに行っている。土日どちらかは仕事の日。
 - ・休み時間には次の準備をしなければならない。土日の研修会へ参加することが多くゆっくり休めない。平日は参加が難しい。
 - ・振替があっても取れない。
 - ・持ち帰る仕事に時間を取られ、十分な休息やリフレッシュが難しい。
 - ・放課後が短く、会議等あることが多く十分な時間を確保できない。
 - ・業務が増えている。（保護者対応、児童対応、分掌の仕事）
 - ・平日できない分を土日に行い、休み時間にはノートの丸付けをしている。
 - ・授業中心か生徒指導中心か判断が難しいところがある。
 - ・仕事が多すぎるのだと思う。
 - ・放課後、必要最低限の職員会や研修（授業研究）以外を減らす。（プロジェクト会議・ケース会議・分掌会議）が多くてノートを見たり授業の準備をしたりする時間がない。
 - ・仕事量が多くゆとりの時間があまり取れない。
 - ・休み時間等を児童と過ごす時間がほとんど取れない（理由は様々）。
 - ・ノートやプリント処理に休み時間は追われている。
 - ・やるべきことが多い。分掌等が偏っている。④についてはきちんと回復措置をしてもらっている。
 - ・土日のどちらかは学校で仕事する。
 - ・給食センターにいる時間が長く学校へなかなか行けない。
 - ・仕事が多すぎる。
 - ・小学校で担任をもっていると、年休や振替を取る機会がない。夏休み中も校内外の研修で休みを取りにくい。
 - ・振替措置があっても時間単位だと結局他の業務でつぶれてしまい意味がない。
 - ・連絡帳の返事、ドリルやノートの丸付け等で休み時間はない。
 - ・どうしてもプライベートの時間を削って仕事の時間に充ててしまう。

- ・宿泊研修の振替等は現実的に確保できない。

【中学校】

- ・月に休みが大体3日である。振替も取れない。休みの日も部活動関係の連絡が保護者からあり、心休まるときがない。
- ・部活動の試合の時、代休等がしっかり取れる体制に変われば平日に行えないことができ授業準備の確保もできる。
- ・事務が多忙なためなかなか時間を取ることができない。時間内（平日）に終わらないものは休日や夜間に回さざるを得ず、土日祝日のリフレッシュは部活動指導もあってまずできない。まして超過勤務の振替等、書類上の手続きのみでほとんど実質を伴わない。また出張旅費の削減、研修会の減少等研修の機会はなくなっており、もし研修をするならば土日で任意に行くことになり、時間をますます圧迫する。
- ・学力向上のため？漢字テストを毎授業ごとに行っているが、その丸付けや単元テストの丸付けに物凄く手間がかかる（他のことには回せなくなる）。生徒同士で丸付けさせると厳密にならないというわけで、誰でも丸付けに手間がかかっている。
- ・休み時間はひたすら自主学习ノートやプリント類、ノート類の処理に追われている。その中でできるだけ子供とふれあおうとするが時間は十分でない。昼休みも委員会の仕事で一緒に遊ぶこともない。
- ・独身や結婚しても子供ができるまでは、自己研修等も頻繁に行っていたが今はそれすら思うように時間も取れない。部も主顧問ではないからと教職員団体の役目もあり、年度当初は家族の協力がないと会合にも行けなかった。
- ・限られた時間を配分すると、全てにおいて時間が不足がちになってしまう。自己研鑽、土日のリフレッシュは全くと言っていいほど不足しており、プライベートに費やせる時間はほとんどない。基本的に朝起きて、職場へ行き、帰宅して直ぐ寝るといった生活をエンドレスで行っている様な錯覚があり、学生時代にあった趣味もすべてなくなってしまった。超勤等も生徒が登校する日は担任業務や授業（特に技術教科のため）は代理を立てにくく取得できない。振替はほとんどない。
- ・振替ようと思っても部活動があるからできない。休みにすると生徒から不満の声が出る（前の顧問と比べられる）。
- ・ノートやプリントの評価で休日出勤の場合あり。超過勤務の振替措置があったとしても十分に配慮されているとは程遠い。ワークライフバランスを保つためにもタイムレコーダー等正確な勤務時間の把握が必要と考える（全国で実施している市町村あり）。
- ・休みが取れそうな長期休業中に研修会や出張、出校日等があり、ゆっくりできるときがない。
- ・部活動の指導があるため思うように時間は使えない。
- ・部活動の指導で十分な休みが取れない。
- ・振替を取ることで業務の遅れがでるなら、取らずに仕事をする方がいい。
- ・土日に部活動指導があり十分なリフレッシュの時間を心理的に取れていない。
- ・振替をとっても、その分の仕事が時間外にやることになる。
- ・仕事が残っていれば自宅で行う。老いた親の通院、介護もあり時間が削られていく。
- ・振替の取りようがない。
- ・振替については、管理職から配慮はあるが、取りたくても取れない時もある。
- ・校内での業務が多く、出張にでにくい。
- ・休み時間や放課後に生徒理解や部活動、委員会活動をするため校務分掌は生徒が帰ってから始まる。できないときは土日。だからリフレッシュできない。
- ・宿泊研修の振替が取れない。
- ・ゆとりが全くない。
- ・振替を取ることは、誰かの空き時間を奪うことになり、人の良い人が損をする構造である。誰かの良心の上に制度が成り立っている。
- ・土日は部活動のため自分の時間は確保できない。
- ・帰宅後や週末等私的な時間を割かなければやりきれない。

- ・超過勤務で振替の対象でない勤務が大半を占めている。
- ・振替で休みを取る時間がない。
- ・土日は部活動で休みはなかなか取れない。
- ・育児があるので自己研鑽の時間が取れない。
- ・授業、担任等半日でも休みを取りづらい。放課後も仕事がつまっており、生徒とゆっくり話す時間もない。
- ・土日は部活動指導のため休みが取れない。地域との関わりも多く、振替を取れない。
- ・仕事量が多く土日に仕事をしないと終わらない。
- ・土日祝日は部活動でなくなる。
- ・振替を取れば他の職員に負担がかかる。
- ・振替をすると、他の人への負担が大きくなるためとりにくい。
- ・部活動指導をしているので、自分の時間は取れない。
- ・時間外の会議があっても保障されない。
- ・地域の会へ参加することがこれまでの風潮で当たり前になっている。
- ・我が子がいると、自分の時間はほとんどない。合間を見て教材研究をしている。
- ・PTA や地域の会議は勤務時間と認められていない。
- ・事務処理や授業準備で自己研鑽の時間がなくなる。
- ・振替を取得するのが難しい研修もある。
- ・休みの日に仕事をしないと間に合わない。
- ・平日の分を休日にこなす。
- ・締切のことを考えると、事務仕事を生徒理解より優先してしまう。研修会にはもっと参加したい。
- ・周囲への気遣い。家でも仕事をしなければ間に合わない。
- ・土日は部活動でほぼリフレッシュできない。
- ・部活動やPTA の行事があり休めない。
- ・授業準備やノート点検に追われ、生徒とのふれあいの時間が少ない。
- ・部活動の指導に時間が費やされる。しかし、私は部活動の指導が好きである。
- ・調整手当不要。時間に見合った手当がほしい。
- ・自分がいなければ他の先生の迷惑になると思うと、学校を空けて研修会に行くのも申し訳なく感じてなかなか行けない。
- ・学級の生徒との時間を取りたくても、放課後は部活動の指導があり、交流をもてない。平日にやり残したことを休日にやらないと間に合わない。
- ・PTA を担当しているが、放課後の打合せ等の振替はない。
- ・平日 18:00～19:00 頃帰宅し、子供を寝かせて、21:00 頃再び出勤することもある。
- ・部活動の時間が充実している土日には、個人の時間は確保しにくい。
- ・休める体制ではない。
- ・最近の働き方改革のおかげで、土日の部活動の負担が随分軽減された。
- ・部活動指導で土日出勤することが多々ある。平日に振替は取りづらい。
- ・部活動や生徒指導で放課後、土日はつぶれてしまう。
- ・部活動のため休みが取れない。
- ・事務的な報告文書等による多忙。
- ・夜間に行われる地域やPTA の役員会等は保障されていないし振り替えられる日がない。
- ・③④普段不十分であると感じていることを③④でまかなっている。
- ・昨年度まで自己研鑽の時間が不十分であったため、時間に余裕があっても時間を有効に使えていない状況である。
- ・部活動により時間のゆとりが少なくなっている。
- ・部活動に週末も振り回され、家族と過ごす時間がほとんどない。
- ・土日祝も部活動指導の後たまっている仕事を片付けていることが多い。子供とゆっくり話す時間はなかなか取れ

ていないと感じる。

- ・土日を使って平日にできないこと、処理できなかった仕事をするしかない。部活動もあるし休めない。
- ・放課後は部活動指導をする。
- ・家庭でも仕事をまとめていたり、提出期限等のために時間が使われたりして研修会への参加はできない。
- ・部活動とさまざまな校務の不十分さを土日にする。
- ・土日も部活動、大会審判、地域への貢献等ゆっくりする時間がない。介護も入るため自分のための時間が使えない。
- ・勤務時間外でも持ち帰った仕事や保護者との連絡、家庭訪問等の時間に追われていることが多い。
- ・文科省や教育委員会が教師にはそんな時間は必要ないという考えがベースにあるのだと思う。
- ・部活動指導に時間をとられ本来の校務ができない。
- ・部活動に時間を取られゆとりが全くない。
- ・業間も様々な作業があつて次の授業の準備もギリギリになる。土日も部活動があつて休みはほとんど取れない。振替もここ数年まともに取れていない。
- ・部活動と分掌上の仕事に追われるので時間は確保できない。
- ・土日はほぼ部活動があり家族と過ごす時間は月に1、2回程度。
- ・部活動で休むことができないし、休むとやる気がないと思わるのでやらないと仕方ない。
- ・時間は限られる一方で業務は無量大にある。
- ・部活動の土日指導や終日実施の大会等でゆっくりできる時間が取れなかった。
- ・③部活動の練習試合等で土日祝は無いに等しい。3年生が引退した後は人数が足らずに他校の合同チームを組まざるを得なくなり、土日祝は合同練習になりそう。
- ・土日等に仕事を行うことがある。
- ・休んだ分仕事が残るので土日もどちらかは出勤しなくてはならないほど仕事が多い。
- ・土日にも部活動や行事等の準備等の仕事をする人が多いため。
- ・土日は主に部活動を担当しているので、必ず半日以上は削られてしまう。
- ・多くの行事等があり、その運営方法等の企画、計画等の時間に多くを費やされる。
- ・自分の時間は部活動のために確保が難しい。
- ・他の校務が多忙過ぎる。
- ・休日にも部活動を行っている。
- ・物理的に無理であり、土日祝日は部活動がある。
- ・部活動や残業があり休むことができない。
- ・土日のどちらか半日は持ち帰り、あるいは学校で事務処理をしないと次の週が回せないことが多い。家事もたまっている。
- ・家庭で過ごす時間については基本的に休息の時間にとっており、リフレッシュや自己研鑽には使えていない。
- ・自分にかかる余暇の時間はほとんど確保できず、長期休暇で補う程度である。
- ・疲れがたまっていく。(仕事を持ち帰ることがあるので)
- ・休日にも部活動指導や大会引率が入ることが多くなかなか休めない。
- ・部活動指導の負担が大きい。中体連以外の大会が土日に実施されることが多く、休みがなかなか取れない。
- ・校務分掌上の事務的な仕事と部活動の指導で休日が十分に確保できない。
- ・部活動と生徒指導が放課後と休日に入る。
- ・自分をゆっくり休ませる時間は全くない。普段も19:00過ぎまでの勤務は当たり前である。
- ・教師側、生徒側共に多忙である。
- ・部活動は、土日に1日(8:00~16:00)とかが当たり前なので自分の時間はほとんどない。
- ・仕事の準備の時間を優先しがちなため。
- ・土日はほぼ全て部活動があり体を休める時間が取れない。
- ・出張にも気を遣い行けないことも多い。

- ・自分のために使う時間はほぼない。隙間を見つけてもすぐ別のところから仕事が入る。
- ・事務処理が多く、土日祝日もほとんど学校へ来ているため。
- ・勤務の中でクラスの生徒とは毎日数人ずつとは話せる時間があるが、土日、練習試合が毎日あり5:00に起きるような生活をしていたら②や③は取れない。
- ・子供とふれあう時間がないのはそれ以外の仕事が多いから。②～④全て部活動に時間を取られる。
- ・土日は部活動があるのでなかなか自分の時間は作れない。
- ・生徒指導に要する時間、授業時数による。
- ・土日祝日に部活動の指導があることと、平日に終わらなかった仕事を持ち帰って準備することがあるため、趣味の時間等はやや不十分。
- ・土日祝日も部活動で終わる。
- ・土日の部活動、生徒の喜びの声を聞くとやはり土日を犠牲にしてもやむを得ないという感じになる。
- ・中学校は休日であっても休日ではなく常に働いている状態。(部活動、校内分掌、成績処理等)
- ・部活動、生徒指導で時間を割かれてしまうので。
- ・校務多忙によるもの。
- ・部活動指導で休日はゆっくり過ごすことができていない。
- ・部活動指導や、各種大会役員等が土日祝日に入り、時間が確保できない。
- ・やる事が多く生徒と接する時間を削ってしまう。読書の時間をもちたくてもそんな暇はない。やるべき仕事をこなすのに精一杯。
- ・大会等の過密スケジュール。形式的な研修の増加。
- ・土日は1日練習をしており、ほぼ週休ゼロになっている。
- ・締め切りのある仕事に追われて、目の前にいる子供との時間が取れない。
- ・中学校には部活動もあり、土日の休みは取りにくい。最近は保護者も熱心でプレッシャーである。
- ・①②を削って仕事をしている。
- ・土日祝の全てではないが、部活動指導や大会引率等がある。
- ・夏休みも出張や研修が多く休みが取れない。
- ・振替についてはほとんどできていない。システム上無理なのではないか。
- ・PTA や地域行事への参加はほぼボランティア。
- ・土日の部活動後の分掌事務(進路指導・生徒会会議等)に時間を費やすことが多くあった。

【高等学校】

- ・土日は練習、練習試合があるため時間が取れない。
- ・部活動があり休みが取れない。
- ・7:30～20:00まで生徒が学校にいるのが現状で、その間は生徒との時間を優先するようにしているが上手くいかず学校全体として時間が足りていない。
- ・土日や祝日は部活動の練習や試合等で十分に休みが取れない。
- ・求められていることをやっていると、上記のことは全くできない。
- ・土日や祝日には課外、模試、部活動、自主学習等がたくさん入る。
- ・④について、振替の機関が前後〇週間と決まっていて振休を出しても実質休めない。(考査、成績処理等)
- ・土日も部活動がある。
- ・土日の部活動(公式戦等)や平日の多忙さによって、振替を取ることができない。
- ・①②他の仕事に追われている。④は事実上休めない。
- ・企業対応と報告書の数が多い。
- ・部活動と事務書類の作成。
- ・④は、管理職は書類上振替を取らせることのみで満足し、実際には勤務せざるを得ないことを考慮してくれない。

- ・睡眠を十分取りたい。
- ・目の前の生徒への対応でいっぱいいな状態。
- ・本校では部活動の顧問を文化・運動部を1つずつもたなくてはならず、休日の練習等でほとんど休みが取れない。
- ・長期休業中においても校内研修会やアルバイト先、企業訪問により時間は限られるため自己研鑽に充てる時間が取れない。
- ・土日は家業もあって休みがほとんどない状態。
- ・空き時間がない。
- ・校務の多忙。
- ・形式的に取っているが働いている。

【特別支援学校】

- ・平日は絶対に生徒の対応が必要なため、振替が期間内に取れることはない。
- ・土日、祝日も部活動や平日の積み残しの仕事がある。
- ・振替は取るように勧めて頂いているが、仕事が多くて実際には取ることが難しい。
- ・授業時間が通学バス運行時間に合わせて短縮されていて、毎日慌ただしく下校している感がある。
- ・1振替にしても本当に帰ったら別の日が忙しくなる。
- ・教職員の加配がなく、全ての教職員がフルに動いてゆとりがない。
- ・時間的に拘束されることにより、生徒とゆっくり面談する等の時間を職員独自の裁量で設けることが極めて困難である。
- ・②週末等時間が取れなくはないが、疲労回復に努めることが多い。
- ・会議時間の多さ。
- ・土日に残っている仕事をする。
- ・与えられた業務遂行のために時間が確保できていない。
- ・教育相談の時間が休憩時間に実施している。時間確保が難しい。

【教職員】学校現場で多忙を感じた具体的なエピソードをお書きください。

例：小1の担任のとき4時間目に水泳があり、子供たちだけでは給食の準備が難しいため、着替えをすることができずにそのまま給食指導を行った。 等

【幼稚園・認定こども園】

- ・トイレに行けず、子供が帰ってから初めて行った。
- ・給食は早食い。
- ・座っていることがない。
- ・自分の子供の学校行事、遠足に行けない。
- ・熱があり、具合が悪くても休めない。
- ・妊婦健診に平日なかなかいけず、子供が比較的座っている給食時間をねらって行っていた。(県内だと平日しかみてももらえない)。
- ・子育て中で、自分の子供の保育園の迎えがあるため18:00には園を出ている。その分早起きして仕事をしている。(3:00起き)
- ・行事の準備が忙しいときは、保育と併行して環境整備もしているため忙しい。
- ・給食時にお便りの準備・印刷等があり、ゆっくり子供と給食を食べることが難しい。
- ・一人が担当する校務分掌が多く、保育の準備に時間を取ることが難しい。
- ・保育→会議→環境整備等で全く休憩時間が取れない。行事、個人懇談、通知表が重なり、毎日持ち帰って仕事をする。

【小学校】

- ・現在、専科をやっている。目いっぱいやってやっとな授業時数をギリギリ確保。しかし、祝日、行事、学校事情(運動会準備、縦割り活動、急なでき事等)で授業がつぶれる一方・・・補充をしようにも空き時間がなく、担任とも調整不可のことが多かった。時数不足と教育委員会から指摘をされることもあった(専科だけが責められているようで腑に落ちない)。また、英語が入ってくるが、その代わりにやめることがない。学校はやるべきことが膨らむ一方で、どこかに無理が生じる。
- ・小2の担任のときに、教室からトイレ休憩のため席を外すとケンカがおきて、その後は生徒指導に追われてしまった(授業にくい込んだり放課後の保護者への連絡したり等で時間がなくなった)。
- ・放課後の活動後、次の日の準備、保護者対応、通信作成等あり、当然帰宅時間は遅くなる。
- ・特別支援学級の担任のときは空き時間がなく、休む時間がなかった。夏季休業中も個別の対応があり気を抜くときがなかった。卒業文集の最終チェックや運動会の用具図作成等、家族の助けを得ながら持ち帰り仕事をするところがある。
- ・校内の大きな会計を引き受けていた時期があり、古くからの伝統でカードによるお金の出し入れができず、空き時間や昼休みに銀行の窓口でお金を出し入れしていたが、子供の日常生活では生徒指導上、安全上の問題が起こることも予想され多忙感を越えて担任として理不尽さを感じたことがあった。また各種大会への引率ができる時期もできない時期もあるが、どちらにしても気持ちとして後ろ髪を引かれる思いをすることも多く理不尽さを感じた。
- ・小1の担任をしているが、保護者とのやりとりをしている連絡帳は朝に目を通すが返事を書く時間が取れない。そこで昼休みに返事を書くことになるが、連絡帳の返事、宿題の丸付け(その日のうちに返却する必要があるため)、学習の個別指導等をしていたらあっという間に昼休みが終わってしまう。未だかつて昼休みに十分休息をとったことはない。
- ・学年会を始める時刻が、陸上や水泳練習後になるため遅くなり勤務時間を大幅に超える。

・通常授業の担任は、授業の空き時間があるが特別支援学級担任のため空き時間がない年が数年あった。担任をもって教科書担当をしていたため、転出の時にすぐに対応できず休日出勤して書類を作成した。日直の日に会議がある場合は、勤務時間に巡回が終わらないことが多く、手分けして時間外に巡回している。

・小1の担任のときトイレに行くタイミングが取れず1日行けなかった。

・疲れはてて子作り、子育てもできない。家庭不和。7:50~16:30(会議があるときはそれ以上)気の休まる時間がない。休息時間はゼロ。常に児童がトラブルを起こさないか指導を続けている。担任が1人しかいないため、1人すぐにケンカをしてしまう子がいると手を出さないか見ているためトイレにも行けない。不在の時にトラブルがあると担任の責任問題にされる。

・朝読書の時間「事務処理禁止」の指示があり、ノートをいつ見るのかと確認すると「児童の登校時に三々五々でやればいい」とのこと。結局不可能なために昼休みに実施するしかなかった。ある学校では同措置の抗議姿勢としてランチルームに多くの職員がノート・プリント等を持参し、給食5分程度で済まし点検を行っていたこともある。(その間子供たちはかなり荒れていた)お題目ばかりを唱えたと物事は破綻するということを教育現場ということろは全く反省もなく繰り返している。

・子供の話を聞いて対応しなくてはならない事案と、全校行事の練習時期とが重なったり、生活指導上目を離せない児童を担任したりする時期等が続き、丸1日トイレにも行けないことがよくある。慢性的な病気となるきっかけになった。

・学期末は布団で寝る時間がかかなり短いので家族に運転を心配される。コーヒーやカフェイン剤の服用で目覚ましすることに慣れているがそれも心配される。

・新設校に勤務した1年目は、帰宅は22:00以降がほとんどだった。

・支援を要する児童がおりトラブルが生じやすい状況ではトイレに行くのは給食を食べ始めた最初の5分の間。(水泳指導の後の着替えも同様)…1年生。

・4年生で30人以上いてトラブルが多い学級を担当していたときのこと。子供がいるときは目を離せないので点検するノートを持って一緒に体育館へ行き昼休みを過ごした。

・給食中の怪我や嘔吐した児童への対応、生徒指導問題等の対応により昼食が取れなかったことが何度かあった。研究授業に向けての話合いや準備等、日々の教材研究以外に時間をとってしまい、毎日少しずつノートやプリントの点検や授業評価等がたまってしまい、「やらなければ」と焦りながらもできないことで追われる気持ちになったことが1年間で何度かある。自分の能力のなさや時間の使い方の悪さが原因とも考え、残念な気持ちになることもある。

・部活動が放課後にあるときは、児童下校後すぐに、部活動の準備、終了後は着替えてすぐに会議があった。

・6時間目の後は17:30まで部活動がある。その後、学級事務や校務分掌、授業の準備でとにかく帰れない。もしくは、持ち帰り仕事如山ほどある。高学年担任だと委員会の指導もある。1週間の空き時間が2.5時間しか空かない。

・小5の少人数についてたとき、午前中は田植えの引率、午後は陸上大会に向けた競技場練習の引率だった。20:00には寝てしまい、仕事にならなかった。

・全時間授業、部活動指導、休み時間指導、生徒指導のため、夜7時までトイレにいけなかった。もちろん休みなし。

・休み時間に児童会の指導、学習指導、打合せが重なり、子供だけで行い見届けることができなかった。

・理科専科をしているが、各時間の準備は前日放課後に遅い時間までかかって行えるが、片付けが次の時間までに行えない。給食時間、昼休み等も使って実験の片付けをしている。

・小2、29名の担任だが宿題の点検、丸付けだけで1時間はかかる。学校ではやりきれずにいつも家に持ち帰り、家でやるようになる。

・1学期平日に家族で夕食を食べたのは5日程度。保護者には家族のふれあいを!といているが、ほとんどできていない。その上、持ち帰り仕事、休日出勤もある。自分の子供と会話ができない日もあった。

・ケース会議や保護者対応は放課後の職員の手が空いたときでないとなかなか設定できないため、勤務時間を越えてしまうことがほとんど。

- ・次の日が授業公開日で、授業の準備をしないといけないのに、生徒指導上の問題が起こり、保護者対応におわれたこと。
- ・平日に十分できない仕事（子供たちの記録、次の1週間の予定等）を土日にする習慣があるため、どうしても日々次のことに追われている感じがする。
- ・朝からトイレに行く時間が確保できず、給食の配膳が終わり児童が食べ始めた頃を見計らってトイレに行くことがある。
- ・休み時間も児童対応、提出物の点検を行っていたら教室を離れることができずトイレに行く時間がなかった。
- ・特別支援学級を担任していて、小1の自閉症の子供から目を離すことができない。休み時間にトイレに行きたいと思ってもなかなか行けない状態だった。（管理職が理解してくださり介助者がつくようになった）
- ・家庭で子供との時間を取るために、仕事を残して帰ると次の日の7:00には出勤して準備をする生活が日常化している。
- ・残業で校務分掌、早朝で授業の準備と振り分けているが、子供が来るまでに授業準備が終わらず休み時間に大急ぎで準備することがある。
- ・勤務時間は8:15からだが、バス通学の児童が7:50には来るため担任としては、教室にいなくてはという気持ちになる。授業時数確保のため、昼休みや掃除の時間を使って集会を行うことがある。気が休まらない。
- ・保護者からの相談に対する返事を書いたり、宿題を見ていたりすると給食を食べることができなかつたり、5分で食べたりすることもある。
- ・水分をとれなかつたりトイレに行けなかつたりして体調を崩したことがある。休憩時間も授業の準備、絶えず何かをしており心身を休めることができない。
- ・休み時間でもトイレに行けず、子供のトラブル対応やノートの丸付け、次の時間の準備等に追われる。
- ・1年生担任で月から金、1～5校時まで全て授業が入っているため、休憩する暇はない。それが当たり前という感じがする。
- ・部活動の指導が5:00までで、終了後に授業準備等をするとどうしても時間が足りなくなる。
- ・昼休みに給食コンテナを移動させる作業（エレベーターの操作）があり、毎日昼休みが短くなる。現金集金のため、集金を集める日は休み時間を使って現金の確認をしている。
- ・担任ではないが、予定していた時間に急な仕事（自習等）が入ってくるために、予定を立てて仕事ができにくい。そういうときはどうしても持ち帰り仕事になる。
- ・食事時間を10分ぐらいにし、残った時間をノートチェックや連絡帳記入時間等に使うことが多い。子供に「先生、食べるの早いね」とよく言われる。
- ・放課後、昼休みに生徒指導に関わる会議が日に複数回あり困った。
- ・放課後までゆっくりお茶も飲む時間のない日もある。
- ・授業準備、生徒指導を10分休みに行っていると、トイレに行けない。放課後は、部活動指導や学習の個別支援を行っている、時間はなくなる。
- ・隣の棟の4階端の教室のため、一度教室に行くと電話がかかったときに校内放送で呼ばれても直ぐに電話にでられないことがある。教室に小電話があればよい。緊急時にも必要。
- ・調査、提出物等いつも締切に追われている気がする。
- ・6年生担任（主任）になり、5/17 陸上大会、5/22 学習公開日・学級懇談、5/25, 26 修学旅行とハードスケジュールが続いた。修学旅行の準備、特に引率者行動計画等（委教育委員会提出）の作成が大変でGWもほとんど仕事をしていた。
- ・生徒指導上の対応や陸上大会のための練習があり放課後の時間が使えないことがある。
- ・行事前になると、休み時間も子供の活動をせざるを得ないので、高学年の担任は子供が登校してから下校するまで休み時間がない。学校行事が多い上、提出文書も多いため次から次へとやることがある。
- ・特別支援教育に関するケース会等、時間が取れないため、給食を食べながらの会になる。
- ・特別支援学級は学年が様々なため、交流活動に行った後、自学級の学習にも行く。児童についているため、ほぼ空き時間がなく、次の授業の準備ができないときがあり、開始が遅れることもある。

- ・4時間目の水泳の後、着替える暇がなくそのまま給食指導をしたことがある。休み時間も何が起きるかわからないので常に教室にいるようにしている。
- ・多動傾向のある子供を担任したときに目を離すことができず、(介助者もおらず)トイレに行くことができなかった。なかなか他の教員に「見ておいて」と頼むことができず・・・。
- ・トイレに行く時間を惜しんで仕事をしているので、体調が悪いときはすぐ膀胱炎になる。
- ・給食の準備を終え、子供たちが食べている際に提出文書の作成等の事務処理をしていたら食べる時間がなくなり食事が取れなかった。低学年の対応をしていると、休憩時間も子供の対応に追われ、トイレにいけない。同僚は膀胱炎になった。
- ・日にちが取れないために、学年で行う行事(授業参観)と学校公開日が同じ日になり朝からどたばたになった。学級の子供たちの様子もゆっくり見ることができなかった。
- ・年度始め、いろいろな行事が重なる中、宿泊研修の準備に追われ、宿泊学習に対しての新たな提出物が求められ、その作成に時間と労力をものすごく消費し、疲れきった状態で宿泊学習に出発するような状態になった。
- ・作文のコメント等を、普段書く時間がなく夏休み、冬休みにまとめて書いている。昨年度の3学期は学力向上の発表準備、6年生を送る会の準備のために土日はほとんど勤務した。1学期は運動会、陸上大会、修学旅行の指導が重なり多忙感を感じた。
- ・小1の担任のため休み時間も目が離せないときは、子供たちが給食を食べ始めてやっとトイレに行くことができたという日もある。20:00を過ぎても職員室に残って仕事をしている先生が多くいる。
金管バンドの担当。練習が火、水、金の放課後。月曜日が職員会、木曜日は学年会。ほとんど自分の仕事ができる時間がない。
- ・給食を5分以内に食べて、宿題、ノート点検等を行うのが日常的。
- ・筆休みに連絡帳の返事を書きたいし、学習指導の補充もやりたいし、その日に返却したい宿題の点検も入りとトイレに行く時間も惜しい。
- ・部活動があり、5:00以降の時間帯で翌日の準備をするので帰宅が遅くなる。また、パソコン処理が増え、職場に居る時間がどうしても増えてしまう。休日に出勤して補うことがある。
- ・3, 4時間目の水泳指導は業間に着替え、5, 6時間目の水泳指導は昼休みに着替え、忙しい。6時間目の後、部活動指導、その後支援が必要な児童の相談会議、その後複数の保護者への電話連絡、気が付けば20:30を回っている。
- ・体調不良や怪我の児童への対応や下校指導。放課後の部活動。
- ・休み時間に子供のトラブルがあると、その対応に追われトイレに行く時間もない。宿題の丸付けを給食中に食べながらしていることもある。
- ・休憩はないに等しい。給食指導中も立って、教室中に目、耳、心を行き届かせる。トイレ、給水が難しいことも多々あるため、体調を崩すこともある。誠実に子供の記したものに評価ををすると大変である。しかし、読んでいる子供の姿に励まされ努力を続けている。
- ・目をはなすとトラブルを起こす子がいるので、担任をしていると一日中トイレに行かないで過ごすことになる。
- ・給食のときもノートをみたり宿題をみたりすることがある。トイレに行く時間も取れないときがある。
- ・何時になっても仕事に終わりが見えてこない。
- ・小4の担任の時、空き時間がほとんどなく、次の授業の準備、宿題、ノートの点検、生徒指導で、トイレに行く暇もなく、給食前にやっとトイレ、給水ができた。放課後は個別学習指導、17:00からは生徒支援会議。終わったのは7:00であった。
- ・休み時間もやることがたくさんあり、トイレに行く時間がない。
- ・小2の担任のとき、水泳指導後着替える時間が確保できない。朝は水着を着て出勤。プールで入水後そのままの状態での授業を行い、冷えが続き体調を崩すこともある。
- ・水泳指導が始まり、監視当番があるため空き時間がなくなり、宿題や日記の朱書き、プリント作り等休み時間に行うことになる。放課後も水泳指導があり自分の仕事は勤務時間外に行うことになる。
- ・小1の担任のときは、宿題点検や保護者への連絡帳書き等の時間が確保できないため、給食を大急ぎで食べて食

べ終えた時間をその時間に充てていた。また、休み時間も次の授業の準備があり、トイレに行けなかった。

- ・トイレに行くタイミングがない時がある。
- ・健康診断中、児童が怪我や体調不良を訴えたときの対応に困った。
- ・保護者と児童についてのケースワークで深夜まで対応した。
- ・横浜市は研究と称して、〇〇推進校といわれるものが多く、そちらに指定されると少ない職員（1～2名）でそれらを一手に引き受けることになるのでやめてほしい。横浜市の多忙は他市に比べて圧倒的だと思う。
- ・初任者の頃、トイレに行く時間が放課後までなかった。ストレスで円形脱毛症になったことがある。
- ・宿題や提出物を次の日に返せないときがときどきある。（見る時間が取れないため）
- ・5時間目終了後、代表委員会があり、その後すぐに会議が18:00まであった日。その時点でかなり疲れていたが、授業参観に近いこともあり21:00まで仕事をした。放課後から勤務時間終了まで自分の時間が取れないのは、多忙だと感じる。
- ・休み時間や朝の時間に朝練や応援団の指導があり、休憩を取ることができないまま放課後の時間を迎えることがある。
- ・校外、委員会等への提出文書の作成、指導案作成、会議等に追われ、学校の勤務時間内に子供のノート、プリント、宿題、テストに目を通す時間や教材研究の時間が取れず、22:00頃まで残って仕事をし、毎日のように家に仕事をもち帰っている。
- ・中休み、昼休みと毎日委員会で集まっていたため、学級の児童と遊ぶ時間や、宿題やノート点検をする時間がなかった。
- ・子供に自習させ、事務仕事（調査）をする。
- ・教育実習生がいたり、行事の準備があつたりで1ヶ月ほど休日返上で出勤した。特に成績処理は自分のクラスを後回しにして他の職員のサポートに回ることが多く、自分の仕事は早朝と19:00以降になることがほとんどだった。
- ・休み時間に委員会、実行委員会、クラスの係が同時に活動しているので見切れない。
- ・気付いたら朝から16:00くらいまでトイレに行っていなかった。給食は2～5分でほぼ流し込んで食べている。
- ・授業をしてそのまま給食、掃除指導へ、たいていトラブルがあり指導しているうちに5時間目へとにかくトイレにいけない。授業を始めて、指示を出してからトイレに行くこともあった。
- ・放課後は息をつくまもなく会議が始まる。トイレや水分補給ができないときもある。
- ・授業の準備が、休み時間に児童会活動があると十分にできない。仕事や行事の多さからやりきれず、休みの日もつぶすことがある。
- ・休み時間も児童だけで教室に居させられないので常に教室に居る。職員室に戻ることもできないので、水筒をいつも持っている。
- ・外部からの仕事が山のようにある。何度片付けてもまたすぐやってくる。複数学年にまたがって授業があるため、トイレに行けない。
- ・給食を食べる時間は10分あるかないかである。食後は宿題を見る時間になる。
- ・毎日給食を5分ほどで食べ、残りの時間は宿題を見ている。気付いたら6時間目終わるまで1度もトイレに行っていないときもある。
- ・休み時間中に生徒指導がいくつか重なったことで次の授業の準備する時間もなく、多忙を感じた。
- ・小学校では、授業との間が5分しかなく、移動だけでも時間がかかる。
- ・提出文書を明日までにと急に出されても、物理的に無理な締切のものもある。地域の行事で休日出勤をしたが、行ったはいいが何もせずに終わったことがある。行く必要はないのに居なければいけない行事が多い。
- ・トイレに行ったり水分補給する時間が取れなかったりして体調が悪くなった。
- ・委員会の仕事と飼育当番指導とが重なり急いでどちらも顔を出し、指示を出した。トイレにもなかなか行けない。平日7:00から21:00まで働いても終わらず、土日でも出勤になることがある。
- ・運動会等、学校行事を主になって進行する係だと学級の子供の管理に手が回らなかった。
- ・昨年度6年担任で教務をしていたとき、土日はほとんど家で仕事をしていた。

- ・1日の労働の中で、トイレ、水分をとる以外の休憩時間がない。7:30から18:00以降まで10分を越える休息を取ったことがない。
- ・小3で児童同士のトラブルが複数発生したため対応に追われ教務の先生に授業を任せた。
- ・子供たちからの質問や依頼に全て答えることができず、「また今度」、「その後で」、「そのくらい自分で」と言って誤魔化すこともあり反省しているが、そんなに時間的余裕がないことが多い。
- ・何かをしようとして椅子に座っても、生徒指導の問題がよく飛び込んでくる。
- ・休み時間、生徒指導や次の準備でトイレも行けず次へと流れる日々を送っている。
- ・毎日の勤務が19:00、20:00を越えても普通と感じてしまっている。
- ・1日1度もトイレに行かない、行けない日が多々ある。
- ・教育委員会への提出文書の締め切り日（時間）が迫っていたが、急な保護者対応に追われ提出が遅れることがよくある。
- ・毎日給食を左手で食べながら右手で日記を見たりしている。
- ・休憩時間という概念がない。7:30~17:30くらいまでは全力投球。そうしないと帰宅が遅くなるだけなのである。
- ・校務分掌と学級の仕事が重なったとき、多忙を感じた。
- ・宿題の丸付けや校務に追われ、子供たちと遊ぶ時間がなかったことがあった。
- ・終業式の日市教委からメールを受け取り、児童が帰る11:30までにアレルギー対応に関わる保護者宛に資料を作成しなければならなかった。
- ・休み時間に学習指導、トラブルの話合い等があり、午後、給食後や放課後までお手洗いにいけないことがあった。
- ・新聞原稿を頼まれ教科と入れ替えて行った。
- ・トラブルが絶えないため、四六時中子供の様子を監視しなければならずトイレに行くこともままならなかった。
- ・家庭へ連絡すべき子供同士のトラブルや子供の気になる行動が増えている。保護者へなかなか連絡がつかず、遅くでないと保護者と話ができないことがあり家に帰ってもほっとできない。（1日の仕事がなかなか終わらない）
- ・小5担任のとき。授業が密過ぎてつまずきまでなかなかフォローできず放課後も多忙になる。
- ・後回しにしにくい生徒指導がいくつか重なり、授業の始業時間もあるため十分時間が取りにくい。
- ・家でする時間がないため夜遅くまで仕事をして、持ち帰り仕事をしない。
- ・出張が多いため取り返し（授業）をしようとしても急に入り込みを頼まれ、自分の授業時数の確保ができない。人が足りないというよりも一人一人の資質の向上が求められていると感じる。
- ・朝早く夜遅い。家に帰ると祖母家で子供たちは寝ているため子供に会えるのは朝の数分程度しかない。
- ・朝早く出勤し夜も遅いので我が子とふれあう時間がない。土日でも行事引率等でゆっくりできない。小6担任で児童会、クラブ（カラーカード）の指導で朝昼練が季節的に忙しい。
- ・持ち帰りの仕事を失くすためには3時間の超過勤務は当たり前（常態化）になっている。何か用事がないと19:00前には帰れないような雰囲気がある。
- ・休み時間にトイレに行くこともできず気付けば放課後になっていたこともあり、体調を悪くしそうな心配がある。7:00出勤（用があり）をして帰りが22:00過ぎ。一体何時間勤務しているのかとため息が出ることはしょっちゅう。
- ・担任していない児童がやって来る。担当している人数が多くてんてこまいになる。
- ・日常的に多忙なため水分補給を一度もせず帰宅する。そのことに帰宅してから気が付く。
- ・休み時間に児童がトラブルになり授業時間となっても解決せず、授業を予定通り行えないことが多い。
- ・①授業内容がたくさんある中で生徒指導の対応をしなくてはいけない状況が発生し、授業が十分習練してない中でテストを行わなければならず苦しんだ。
- ・土曜授業があることで運動会の前週の週に土曜が出勤になりひどい勤務形態となった。
- ・目的地（3階）まで行くのに、あちらこちらで生徒指導上の問題が起こっており、その対応をされていて本来の自分の目的を果たすのが遅れる。
- ・トラブルがあって教室を飛び出した子供の対応をされていて給食を食べられなかった日が何日もあった。
- ・部活動指導を終えて自分の事務作業や教材研究をはじめるのが19時過ぎになる。

- ・運動会当日は保護者の場所取りの対応をするため朝3時半に出勤する。(3年連続)
 - ・毎日給食を食べる時間以外は休憩が取れず事務作業に追われている。
 - ・休み時間も事務処理や宿題・ノート点検、子供との関わり等で1日中トイレに行く時間がない。
 - ・放課後の陸上等の指導で保護者からの電話に出られず掛け直したところ、「返事が遅い」と怒られた。
 - ・学級の児童のことで生徒指導上対応したいことがあったが、校内の打ち合わせが入っているので児童への対応よりもそちらを優先せねばならず打ち合わせに行ってしまったこと。
 - ・給食を食べるのは5～10分間で健康上よくない。トイレに行く時間がとりにくく辛抱して体に悪い。
- 教職員の人数が少なく、役割が多い急な病人やけがが起きた時に救護以外の役割はできなくなる。例えば運動会で救護と記録写真等。
- ・低学年(1, 2年)担任の時は日記を見る時間がなかなか取れない。
 - ・小6の児童で目離しできない児童がおり、休み時間の外遊びについていくのだが保護者への連絡ノートを書かないといけないため、ノート6冊と筆箱をもって運動場へ行き、児童を見ながら連絡ノートを書いた。
 - ・どの状況が多忙なのかまだ理解できていない。ただ仕事に慣れていないだけだと思う。
 - ・持ち帰りの仕事はしないのがモットーなので学校で22:00くらいまで残って仕事をするのがよくある。
 - ・休み時間にしかできない打ち合わせ等があるため、午前中1度も休憩することなく指導をしていたことがある。
 - ・全管の指導のため昼休み時間は丸付けができず、当然放課後も金管の練習があるため丸付けはいつも勤務時間の過ぎた17:00以降。もちろん校務の仕事等もあるため超過勤務をしても片付かず土日仕事をするときが多々ある。
 - ・児童間でトラブルがあった場合、双方の言い分を聞いたり指導したりする必要があるためトイレに行くこともできないことがある。また指導内容に関して保護者から問い合わせがあると放課後に時間をとられてしまうので他の業務が遅れていってしまう。
 - ・登庁後、授業・宿題チェック・ノートチェック・生徒指導等を休みなくこなしているため、最初にトイレに行くのが15:00過ぎになっていることが多々ある・つまり7:30から15:00まで1度もトイレに行っていない(週1回程度)。
 - ・水泳で着替えをできずに給食指導を行うことがよくある(朝は服の下に水着を着て登校する)。
 - ・給食を食べる時間は5分程度(残りの時間を丸付け、給食指導にあてる)。
 - ・休み時間にトイレに行く時間もない。
 - ・休み時間に次の準備や丸付け等でトイレに行けない。子供にチャイム着席を指導している手前、自分が遅れるわけにはいかないので。
 - ・期日までに提出しなければいけない書類が重なったとき(運動会と夏休みの水泳資料)。
 - ・夕日を見て帰ろうと思ったときに後ろめたく感じた。
 - ・学級担任をしているときは、ノートの点検や生徒指導でほぼ休み時間はなかった。低学年を担当しているときは、トイレに行く暇もないときがあった。
 - ・お手洗いにいく時間が取れないときがある。
 - ・8時に学校にし出勤しては仕事が回らないので40分ほど前に出勤して仕事をしている。
 - ・忙しい→イライラする→子供に対する指導の口調が激しくなる→子供の心が荒れる→厳しい指導をする→子供が更に荒れる。負の連鎖。
 - ・トイレに行く時間がなかなか取れず(児童への対応や次の時間の準備のため)、我慢していることが多かったため膀胱炎になった。
 - ・様々な業務によって授業準備が全くできない状態で始まってしまうことがある。
 - ・不登校児童への対応(朝迎えに行くことの多い児童がいた。学校へ来られるかどうかほぼ毎日電話を入れる必要のある児童がいた。週に1～2回訪問の必要な児童がいた)。水泳の着替え。
 - ・職員会議のある日はバタバタ子供を下校させてしまう。
 - ・朝教室に上がってから退庁時まで、1度も職員室に行かなかったり水分を取れなかつたりすることがよくある。
 - ・体育担当職員は勤務時間前に来て運動場のライン引きを毎日行う(運動会、持久走大会シーズン等)
- 水泳、他の体育指導から専科の授業に連れていく、給食の時間になるのでそのままの服装で…というのは普段から

よくある。

- ・土日に学校にきて通知表を作成しなければならない。
- ・生徒指導関係に時間がかかり学級事務や教材研究の時間が十分に取れない。
- ・始業前のボランティア活動、休み時間は授業準備、生徒指導等分刻みのスケジュール。昼休みは宿題等の点検、学習指導等。放課後は教材研究、点検。勤務時間外に教務の仕事とつまっており休む時間がない。
- ・小6の担任の時、学年主任と体育主任の両方を兼ねていた。児童の生徒指導等の問題も重なり20:00過ぎまで学校で仕事をしていた。
- ・小6の担任のとき、児童の受験のための調査書を作成するのにかなり多くの時間を要した。
- ・朝の生徒指導対応（私は主事）により、自分の学級に行くと誰もいなかった（子供たちは移動教室だった）。後でやり直したが、気を利かせて？子供たちで健康観察まで行っていた。
- ・全てが多忙。プール時の着替え、理科実験の準備、生徒授業上の問題解決、個別の学習指導等。
- ・校内の授業準備と校外の研修会準備、子供のことで保護者対応が重なるとき。
- ・できるだけ学校に残ってやって帰りたいので残る。それでも駄目なときは持って帰る。それか朝早く起きてやる。
- ・昼休みも子供の指導があるので1日1度もトイレに行けないことがある。
- ・休日に出勤し、2～3時間程度で仕事を終えるつもりだったが、結局普段と変わらない10時間以上の勤務をしてしまった。
- ・仕事が重なり退庁時間になってもなかなか帰れない。
- ・子供との向き合い、指導の中での多忙は本望。学力を重視した教育委員会からの様々な研修等は不必要。
- ・毎日給食時しか丸付けの時間がない。
- ・時間外の生徒指導等。（保護者対応等）
- ・成績処理が終わらず休日に学校で処理を行った。
- ・出張業務等の従事をしている職員が多かった日は退庁時に校舎にいるのが自分1人だった。
- ・出張明けの日の文書量の多さ。
- ・会議等が続けてあり、自分で進めようと思っていた仕事が予定通りに進まなかった。
- ・学級の状態が良くなく休み時間にトイレに行くことができないことがあった。
- ・1人の児童のトラブル（感情の起伏によるものや生理的な事柄）に対応するため、他の児童への配慮を他教師に手配するような場面。
- ・日中ほとんどトイレに行かない。教室にいないと何が起きるか心配。
- ・個人の力量にもよると思うが、土日等も含めて仕事をしないと流れに追いついていけない。
- ・トイレはいつも行く時間がなく腹痛との闘いである。水着に着替える時間はないため家から着て来ている。暑い中、2～3枚重ね着のまま過ごしている。トラブルになりやすい子がいる場合は家に送り届ける等休む場、時間はない。
- ・休み時間トイレを我慢してしまい膀胱炎になってしまった。
- ・週末に仕事をしなければならない。
- ・トイレの自立していない子、目を離せない子供がいた年に、自分がトイレに行くのや児童下校後PM4時過ぎの日々が続いた。
- ・不登校児童（6年）を受け持った時、朝夕方の家庭訪問がしばらく続いたこと。
- ・児童下校までトイレに行っていないことがよくある。
- ・小規模校でいくつもの校務分掌を持ち、事務処理等で期限等もあり多忙感がいつもあった。
- ・休み時間にトイレ休憩に行く時間もなく体調を崩してしまうことがあった。
- ・「今日一度もお茶やお水を飲んでないなあ」と思う日がほとんどである。
- ・タブレットが全児童に配布され、そのコンテンツ作りを教員にほぼ丸投げされたことがあった。
- ・7:30に出勤し、子供たちが登校するまで授業準備を行う。放課後は相撲練習をして、その日にすませておかなければいけない仕事をしてから帰宅している。
- ・小1の担任をしたとき、手のかかるお子さんが多かったのに1学期の間支援員がいなかったことがあった。特別

支援学級の担任（2年生1名）だったとき、5、6年生の理科をもったり、2年生の子を原学級に預けて6月まで1年生の支援に入ったりした。その間は空き時間は0だった。

- ・研究授業があると、準備でどうしても遅くまで残ってしまう。
- ・持ち帰ることができない仕事（成績処理）は、遅くまで学校に残って仕事をする。特別支援学級の担任をしたとき、教室から離れられずトイレにいけなかった。
- ・小1を担当したときは、給食指導が忙しく、自分が食べることができずに児童が下校してからおにぎりを食べていた。
- ・休み時間や放課後等児童の学習指導や生徒指導にあてたいと思っているときに急な会議が入ってしまい、十分な対応ができない。
- ・定時退勤日を設けても、時間通りに帰ったことはほとんどない。
- ・校務分掌の仕事（体育行事・相撲大会）を2週間ずっと昼休みに行き、そのまま掃除、5時間目に入って休憩なしであった。
- ・給食を早く食べて、丸付け。毎日必ず何を持ち帰り丸付け採点、次の準備等をしている。
- ・全ての時間が分刻みなので常に気の休まることはない。給食も5分程で食べ終え、宿題、ノート点検、集金業務の時間にしている。
- ・特別支援学級で、1年生の着替え、4年生のダウン症の子の排泄の介助、2年生の給食指導と、休み時間等に付き添うことが多く、トイレに行くことができないときが多い。
- ・小1担任時の時の入学式準備（少人数の先生の助けがあり当日ギリギリ間に合った）。
- ・学年の先生と落ち着いて話せる時間が取れず、給食終了時にワゴンを運びながら情報交換を行っている。
- ・学習活動にて児童の活動を取り入れる強化が多く（単元）、教具、用具を事前に準備しなければならないため購入したり作ったりと大変だった。
- ・小6の担任の時分掌をいくつか掛け持ちしていることがあった。そのためある1つの分掌に一生懸命になり、他の分掌のことを考える余裕がなく多忙さを感じた。
- ・行事が多い。行事の前は朝から放課後まで分刻みのスケジュールが入っており、教員も児童も負担が大きい。
- ・朝出勤してから児童が下校する夕方までトイレに行くことができなかった。
- ・朝6時台から21:00～22:00まで業務を行っている。
- ・運動会準備のため2時間しか寝られない日が週に2回あった。
- ・会議研修研究等が退勤時刻まであり、放課後の時間を自由に使えるのは火・水曜日のみ。1日平均14時間働き、残業は1日6時間になる。睡眠不足で笑顔で教壇に立てないこともある。
- ・提出文書が多くそれに時間を取られてしまい、授業準備が不十分な状態で授業を行ってしまった。
- ・1日の予定を組んだ後、当日に急な仕事が入ってきたときかなり多忙だなという感じがする。
- ・公開研究会や所長訪問等指導案や校内環境整備に追われる時間が長く、通常の学習指導や授業準備に充てる時間がほとんどなく約1か月過ぎた。
- ・休憩時間が教育計画の中に明記されているが、給食指導、生徒指導等、委員会活動、子供との活動があるため子供がいる時間の中に休憩と言う時間は存在しない。
- ・学級担任のときトイレの時間を確保することも難しく膀胱炎になってしまった。
- ・小学校の場合、全教科の授業を基本的に担任が行うので毎日授業の準備が放課後必要となる。それと同時に、校務分掌や提出物等も進める必要があるので常に並行してやるべきことがあると感じる。
- ・必要な書類を逆算して処理することができず、学級のことを後回しにしがちなことが多い。
- ・校務分掌（体育主任）の仕事や、若手が活躍しなければいけない場面等で若手が少ないための負担が大きい。教材研究等に十分な時間を確保できない。
- ・学担であり教務でもあるため。自分の学級の仕事ができず他学級の指導にあたることもしばしば。次の日の教材研究ができずに他の仕事に追われる。
- ・打ち合わせや会議等が多く、クラスのことにとりかかることができない。
- ・会議等で自分の仕事をはじめられたのが18:00だった。

- ・教科指導が6時間中半分しかできなかった。
- ・同じ時期に指導案を2つ抱えた。
- ・なかなかトイレに行けず膀胱炎が持病気味になった。
- ・当たり前の話ですが宿題をチェックする時間が給食中しかなく、5分ほどしか休む時間がない。
- ・分掌業務を終えてから学級業務に入るとノー残業の日を作ることが難しい。
- ・特別支援学級の担任で、介添えの方の勤務時間が限られているために子供に対応しきれないときがある。
- ・4時間目、グループ決めをさせたが決まり切らず給食準備は教師とその他の子で行った。
- ・水泳学習の日に集金締め切りの回収があった。手集金なので時間がかかるためバタバタ。
- ・公開研究、総体、授業研が10月11月にあった。
- ・だいたい帰るのは20:00過ぎること。
- ・放課後に会議や研修等が多く仕事を家でやることが多い。
- ・トイレに行く時間がなかなか取れず腎盂炎を毎年のように起こす。
- ・宿題をその日のうちに点検して子供たちに返却するために、休み時間、昼休みをそれに費やす。学年の打ち合わせや委員会、校務の処理等で休み時間、昼休みを費やす。
- ・3年の担任で専科は週1の毛筆のみで、毎日自主学習ノートや普通ノートのチェック、朱書に追われ、昼休みは委員会の仕事で時間がなく学級のことは全て放課後。放課後の会議も多く放課後も遅くまで残らないとできなかった。
- ・生徒指導上の問題が起きた時、事情を聞いたり指導したりを昼休み時間に行った。
- ・目を離せない子供（いじめられているという訴えのある子、特別支援の判断だが通常の学級に在籍している子）が担任したクラスにいと、気が付くと1日トイレに行くことなく過ごしていることがある。給食はほとんど5分程度で終わらせている。
- ・自主学習のノートや文字ノート等の処理ができないときがあり、十分な処理ができないことがあった。
- ・運動会の練習等が毎日のように入っていた。下校の確認、トイレの対応、連絡帳への返事の時間が十分に取れず、保護者との連携が上手く取れないことがよくあった。
- ・成績処理のために毎週末学校に来なければならなかった。平日は子供の迎え（我が子）のため早く帰らなければならず、週末の家族の時間が減った。
- ・担当校務である通学班でのトラブル解消の話合いと委員会活動の発表練習、学級の児童の問題行動と1度に3つの出来事が重なったとき。
- ・休憩時間も設置されているが、ほとんどの教員はその時間も何かしらの仕事をしている。学力向上が言われるようになり更に多忙感が増している。
- ・朝からトイレに行けず膀胱炎になった。
- ・休み時間も必ず子供についているのでその間に事務的な仕事をするのは難しい。
- ・いくつかの学級にまたがる生徒指導の問題を解決するには、該当児童に話を聞き早期対応する必要があり、休み時間だけでは足りず給食を食べる時間もないことがある。
- ・水泳やノートチェック、子供との話合いなので給食が牛乳しか飲めない日が1学期に3回あった。
- ・特別支援学級の担任のとき、休み時間もついているのでトイレに行く暇がないこともある。他の先生との交流の授業の打ち合わせを十分にとる時間が取れず、子供が交流したい活動に参加できなかったことがある。
- ・学期末で成績処理等をするために土日共に学校に行き仕事をした。
- ・間に合わないときは丸付け等をしながら給食を食べることがある。
- ・配慮を要する児童を受け持った時は、その児童の世話で給食を食べられないことは日常であった。
- ・朝の登校指導、集会、下校指導、クラブ、委員会等や、低学年の担任のときには児童につきっきりでトイレに行く間もなかった。
- ・ノートやプリント、作品に朱書やチェックをするため、毎日給食は5分くらいで食べている。昼休みものんびり自分の時間を持つことはない。
- ・子供たちが下校するまでに目を通し朱書等して返却するものは、宿題、計画ノート、朝学習プリント、授業ノー

ト・ワークシート等、1日平均7種類くらいになる。休み時間・給食時間を使って目を通し、朱書等しているため時間的にゆとりがなく、子供とのふれあいについても不十分。

- ・放課後に水泳、陸上の練習があり、指導後、下校指導見守りを終えると18:00を過ぎ、そこから事務処理をするとき。
- ・個別指導計画、個別支援計画と内容が重複するにも関わらず、別のものとして2つになっており、内容も多いものとなっていて作成が6月末から7月になってしまい大変である。
- ・業務改善という言葉が先行し、出退庁時間に関する調査が行われているが、早く退勤することを求められている。従って持ち帰りできない仕事が多く、仕事に終わりが見えないときがある。情報管理面と仕事量の増加。このあたりの折り合いがついてないと感じる（早く帰ること＝業務改善なのか?）。
- ・情報の扱いが厳しいので持ち帰らず残って仕事する。毎日給食（自分の食事）は5分ほどで済ませ、子供の指導や授業準備等をしている。食事、トイレ等自分のことは全て後回し。
- ・トイレに行く時間がなく、授業中子供が課題に集中して取り組んでいる合間に行くことがあった。
- ・学級の児童が様々な学年にいる場合、運動会練習に参加する時間が4～6時間が当日まで続く。暑い時期なので体力的に厳しいと思う。
- ・体調が悪いと感じつつ子供の対応や指導にあたり、結局入院してしまい迷惑を掛けてしまった。
- ・子供の指導に時間がかかり、給食を食べる時間やトイレに行く時間がなかった。
- ・学年が2学級で忙しい校務分掌と学年主任が重なったとき忙しさを感じた。
- ・目の離せない子がいてトイレにも行けず体調を崩した。
- ・学校外の仕事（〇〇委員会、〇〇主任会）を引き受けているとき、その仕事が多く学年の仕事と重なり多忙となる時期があった。
- ・夏休み期間中なのに保護者から毎日のように電話がかかってきた。有給休暇中に保護者宅に3時間も行かなければならなかった。
- ・いじめ対応で放課後1週間ほど家庭訪問が続き、教材研究等を作る間がなかった。
- ・公開研の前に校長の指示で22:00近くまで全職員が残り、模擬授業や検討会を行った。そこまでやらなくてはいけないことかと疑問に残ったが、研修主任という立場であったので、従うとともに他の教員へも依頼に走った。
- ・7:30頃勤務を開始して、勤務終了がいつも20:30の生活が3年続いたとき。（自主的な土曜出勤も月1回程度あり）
- ・高学年の担任をしており学校行事も多く、準備等で休み時間にトイレに行けない。
- ・学習指導、児童指導、丸付け等に追われトイレに行く暇もない。
- ・休み時間は宿題やノート点検と授業準備、放課後は各種活動の打ち合わせや計画、児童の情報交換を行っており、具体的な活動計画や文書作りは家で行っている。
- ・市全体の取り組みとして行っている学力向上の取り組みに、十分な時間が確保できておらず授業の中に食い込んでしまう。
- ・各種報告、アンケート…児童が40人もいと取りまとめだけで時間がかかり休み時間等全くない。
- ・休み時間に学習指導を行い、宿題チェックをしているところに、しゃべりたい子供たちの相手をしてトイレに1日行けなかった。
- ・全ての休み時間に学習指導を行ってしまい、午前中に水分補給、トイレ等に行くことができないことが度々ある。
- ・トイレに行きたい、水分補給がしたいと思っているのに、児童から遊びに來たり、同僚に呼び止められたり（確認等）しているうちに2時間くらい経ってしまう…ということがとても多い。休み時間も児童指導や宿題の点検等で、トイレに行く時間もままならないときがあった。
- ・40人学級（小3）を受け持った時、テストやプリントの丸付けがいくらやっても終わらず、毎日持ち帰り仕事をしていた。
- ・始業時間が8:10だが、児童登校は8:15なので実質8:10出勤では間に合わない。日直勤務の超過勤務分は翌日の退勤を早めることになっているが実質できない。長期休業中に代休として取れるといいと感じた。
- ・1時間目から6時間目まで授業を行い、放課後指導案検討会等の研修会があり、勤務時間を1時間以上超えてし

まうことがあった。

- ・児童指導や宿題やノートの点検等で休み時間に余裕をもって子供と接することができていないため、子供のいざこざに気付かず大きな問題に発展し、長い期間保護者対応に追われた。
- ・連絡帳や音読カード等、毎日その日のうちにチェックして返さなければいけないものが複数あるので、給食を食べる時間は毎日5分程度。
- ・小1担任では全てにおいて子供たちから離れることができず、休み時間にトイレに行くことさえできないことも多かった。(特に1学期)
- ・定時で退勤しなければならぬ場合の日数。毎日日記と宿題をクラスの全児童(30人超)の分に目を通して助言を書いてその日のうちに返していたときは、給食の時間は3分程度で済ませ休み時間もノートへのコメントを書いて何とかこなすことができた(1か月空き時間ゼロ)。
- ・土日に部活動等あり忙しいときはなかなか休みが取れなかった。
- ・小1担任時、入学式の次の日から給食があり準備して食べさせ片付けるだけで手いっぱい自分では食べられない日が数日あった。異動して初めての授業参観・保護者会の前日、全国ととちぎっこ子の学力調査のよりまとめに追われ、授業の準備や保護者会での話を考え徹夜した。
- ・部活動のち保護者に電話等して、それから教材研究やその他の仕事をしようとしても既に遅い時間になってしまっている。
- ・飼育・緑化担当なので土日の世話が必要。また土日が事務仕事をする時間となっている。
- ・児童指導の時間を確保することが難しく、登校直後や給食の時間等にも行うことがある。
- ・提出文書、締め切りの書類が複数重なる時期がある中、児童指導の必要なことが重なってしまった。
- ・7:30に団地の通学路の集合場所へ指導に行く。8:15から朝の会スタート。9:25から授業開始。12:00給食は食べる暇を確保できず、車に乗り自治医大病院へ(障害を抱える児童の診察に同伴、医療機関と連携)。4時帰後報告書の作成。その後翌日授業準備等を始める。
- ・朝出勤したら保健室で子供が体調不良で待っており、休養させながら相談室登校の児童の1日の過ごし方や係の仕事、勉強が分からないところを教え、給食は家庭の事情で早退させられない子供と保健室で食べた時。
- ・朝から子供が下校するまでトイレに行けない(1,2年)。昼休みに給食片付けが終わらず食い込み。(担任1人で子供と片付けて)連絡ノートを書かせているうちに昼休みが終わる(2年)。
- ・6月と7月は毎週のように出張が入っていてクラス担任が不在なことがあった。また学校代表ではなく、市や地区の代表の仕事が複数もっているのにも関わらず、更に指名されて福祉関係の冊子の作成の仕事が入った。
- ・児童への対応を第一に行っているため、それ以外の業務を後回しにしてしまい、と提出期限ギリギリに管理職に見てもらって書類を出したり、催促の電話を受けてしまったりすることがある。
- ・成績処理や文書作成等で時間がかかる日は一旦帰宅して家事を済ませて、再び出勤することも度々ある。給食で「いただきます」の後は丸付けをし、残り5分ほどで食べている。
- ・給食中に子供の学習ノートのチェック等を行って昼休みに指導する以外、個別指導の体制が取れないのでほぼ毎日実施している。給食を食べる時間がないので担任用の食器を用意し、児童が給食を終え、昼休みに入る準備をする5~10分前に食事をとっている。
- ・気が付いたら子供が下校するまでトイレに行っていなかった。
- ・休み時間ごとに児童同士のトラブルの指導。
- ・子供たちがいる間1度もトイレに行けなかった。
- ・午前中1度もトイレに行けないことがある。
- ・全てを学校で終わらせないといけないので23:00、24:00なることもしばしば。
- ・1か月近く、土日を含め毎日学校に行っていた。(成績処理、部活動指導、環境整備、授業準備等)
- ・管理職は早く帰れというのが実質持ち帰り仕事が多くなる。データの持ち出しも禁止されているので土日も出勤する。学校日誌の退勤時間は嘘の時刻を書かざるを得ない。
- ・授業の間の5分休み時間に次の授業の準備をし、業間や昼休みには児童会活動や児童との相談、提出物の点検や保護者からの連絡帳への記入への返信等気が付くと放課後までトイレに一度も行っていなかった(行けなかった)

ということがある。

- ・校務のスリム化が叫ばれている中、提出書類（私簿）を充実させるよう指導される。
- ・余計な（作品募集・イベント参加）はある。日々の授業で忙しいのに…。
- ・私簿の整備に時間が割かれ、教材研究等の時間が十分に確保できない。
- ・健康診断や児童指導に追われ、給食時間内に給食を食べることができなかつたり、子供が下校しても先生方との情報交換や会議等に時間を取られ、事務処理や の準備を遅くまでやっていたり、休日出勤しなければ処理が終わらない。
- ・児童のトラブル解決で自分は給食をとることができなかった。
- ・子供たちのことを保護者に知らせる連絡ファイルはいつも給食の時間しか書く時間がないので給食は5分で食べている。たくさんあるがそれを書く時間がない。
- ・昼休みは宿題の終わらない児童への学習指導を行っているので、仕事が一段落しても教室から動けない。
- ・成績処理が終わらず通知表作成の前は土日学校で仕事をした。
- ・教材研究の時間がなかなか取れていない。
- ・トイレに行く時間がない。着替える時間がないのでそのまま体育をやった。
- ・事務局になったとき、地域全体への文書作成等があり、印刷し配布するための準備がとても大変だった。平日は遅くまで文書を作り、土日に来て印刷、配布準備をすることが多かった。
- ・平日でも休日でも同じくらいの教員が出勤して仕事をしていた。
- ・子供同士のトラブルの対応が多く、トイレに行く時間がなかった。
- ・休み時間に学習の補強や問題行動に対応しているとトイレに行けなくなる。子供が帰ってから行くこともあった。
- ・給食指導や児童指導に追われて給食を食べる時間がない。
- ・トイレに行く時間があまりない（子供がいる時は1回行けばいいほう）。
- ・給食を5分で食べている。宿題のチェック、ノートの確認まで。
- ・トイレに行く時間がなく膀胱炎になった（3回）。
- ・病院に行く時間がなく咽頭炎が悪化した。
- ・家庭の都合で19:00くらいまでには帰宅しなくてはならないが、仕事が終わらないのでほぼ毎日持ち帰り夜やっている。
- ・学校の現場ではないが、土曜日の昼間はたいてい家で行事の計画を作っている。
- ・休み時間に児童会指導があり、宿題をその日のうちに返すことができない日があった。
- ・紛失等のトラブルがないよう学校で仕事をやらなくてははいけないので、平日が遅くなる。また休日出勤もある。
- ・宿題の丸付けや授業の準備等で毎日給食は5分以内で食べている。
- ・保護者に向けての連絡帳を書く時間がない。中学校勤務のとき、生活指導や市内巡視、会議等が夜中まであり、授業の準備が不十分になってしまったことがあった。
- ・児童から目を離せないことが多く、また空き時間もない（週28時間フル）。休憩休息時間も取れない状況にあり、保護者との電話対応や教材準備に費やすことになっている。
- ・毎休み時間ごとに児童指導や授業の準備等を行っているためトイレに行く暇がない。気が付くと尿意を感じてから2～3時間経ってしまっているということがある。
- ・1年生を担任していると、配布物を配ったり、連絡ノートを書いたりする時間が取れず授業時間を充てている。
- ・児童対応に追われ、トイレに行く時間や給食を食べる時間が確保できない。
- ・麻痺してきたので多忙が平常となっている。十年目研修と共同訪問の研究授業が2つ重なった上、校内の体育的行事の同時進行で行っていた。
- ・異動したばかりで校務分掌の内容が全く分からずに、4、5月提案や実践をしなければならず不安を抱えながら周囲の人に聞きつつ進めた。
- ・休み時間中にトイレに行けないことがある。毎日休憩時間は授業の準備等を行い、休憩はできていない（お茶を飲む時間もなく水道の水で我慢している）。
- ・教育委員会から緊急のアンケート調査があり、提出物を点検することができずそのまま児童に返したことがあつ

た。

- ・子供の人数が多い（500人以上）ので、健康診断の時期は事務処理が日中では追い付かず（病気やけがの対応もあるので）休日に処理しなければならない。多忙を感じる。
 - ・土日の職員室にはほぼ半数の先生がおり仕事をしている場面を見た時。
 - ・校務分掌に偏りがあり、勤務時間に終わらせることができないのでほぼ毎週休日に出勤している。給食を食べ終えていつも宿題・ノート類の丸付けをしており、ゆっくり食事をする余裕がない。
 - ・児童に対するアンケート集計をしたり、分析したりするものが多すぎる。
 - ・朝会、中休み、昼休みとたまたま校務分掌の仕事が重なったときがあった。運動会の練習と陸上部の練習で忙しくなる時期がある。
 - ・空き時間は実質なく疲労がたまっている。エピソードといっても毎日バタバタしていて何とというか連続しているので書きようがない。
 - ・学校新聞の作成と成績処理が重なり土日も休み時間がなかった。
 - ・情報関係のアンケートの集計が容易ではない。
 - ・給食中にいつも宿題等を見ているので、物凄く早く食べている。
 - ・残業が毎日続く。家に帰っても持ち帰りの仕事があるのでなかなかゆっくり休めない毎日（特に平日は）。
 - ・水曜日の午後児童が下校した後の多忙さは酷い。下校指導⇒職員会議⇒教育相談・研修等。
 - ・昼休みに委員会の子供の作るものの作業を同じ教室で見ながら、担任である小1の子の指導や宿題等の点検をする。
 - ・子供たちが登校して下校するまでの間、なかなか目を離すことが難しく休憩が取りにくい。専科の時間が貴重な空き時間になっているが決まった時間取りにくいこともある。
 - ・休日2日のうち、1日は必ず学校で仕事をしないと日々の業務が成り立たない。
 - ・具体的な児童を見守るためにずっと付き添うようにしていたが、ちょっと目を離したときに暴力をふるうことがよくあった。気を緩めることはできず緊張感があった。
 - ・6:30に出勤。帰るのは早くて19:00、遅くて20:00過ぎ、昼休みも委員会等の指導で昼食時10分くらい。毎日12時間以上働き、残業は月80時間を超えている。
 - ・水泳で帰るまで着替えができなかった。
 - ・保護者からの電話対応で1回につき1時間程度の話が週に3回以上続くことがあり、(夜間)帰宅が連日遅くなった。
- た。
- ・コミュニティスクールのせいか、学校に入って活動されることが多いのだが、結果教師が手伝うことになり仕事が増えてしまった。
 - ・昼休みの時間に学習指導や委員会の仕事を見回って、どれも中途半端になってしまう。子供と遊ぶ時間を増やしたい。
 - ・給食準備指導等、給食時間の指示、後片付けの指示となると休み時間は取れない。
 - ・トイレを我慢。給食は5～6分。
 - ・教務主任をしていて、多いときは週20時間くらい授業を行ったり補教に入ったりすることがあった。
 - ・成績処理の時期は、1日3時間睡眠のときもあった。
 - ・小1担任で自分のクラスだけ特別時程の日、給食時間が明らかに足りず同学年の先生がクラスをあけて手伝いに来た。
 - ・生徒指導が昼休みに入ると丸付けが追い付かない。
 - ・子供のトラブルを防ぐため、休み時間も教室から離れられず朝から昼休みまでトイレに行けない。
 - ・小1の担任のとき、連絡帳に子供の様子や質問についての返信を書く時間がなかった。子供の様子を見ていたり、話したりすると連絡帳にゆっくり向きあうことはできない。
 - ・エビペン所持の重度アレルギー所有の児童が入学してから1年間、給食時間は保健室で給食を食べていた。
 - ・CS等の会議が夜に行われること。提出書類の多さ。※子供の指導に直接かかわることは苦にならないが。
 - ・トイレに行く暇もないこと（膀胱炎になったことがある）。職員室に行かず配布物に気付かなかったこと。

- ・休憩ゼロ。残業で何とかしている。
- ・昼休みに、他の時間も職員室にいる先生がいない。休憩時間は全く取れていない。
- ・個人情報も多く扱っているので、あまり持ち帰ることができず、締め切りに間に合わせようと提出物等を作成していると、気が付けば21:00前後の退庁となる。
- ・1日、11時間～12時間、休憩もほとんどなく働いているが、平日だけでは仕事が回らず土日のどちらかは学校で仕事している。7月は学校に行かない日が2日しかなかった。
- ・小中連携・地域との係わり、コミュニティスクール、中学校区の取り組みが同じ時期に集中し、小中教員が多忙を極めた。
- ・研修や学外での研究活動に半強制的に参加させられる。
- ・大変な学年を持つ人に限って分掌の仕事が多い。担任も持てない、分掌も託すことができない…そんな人がいる現状では、一部の人間に仕事が偏っても仕方がない。
- ・たくさんありすぎて日常化してしまいすぐに思い出せない。
- ・異動したばかりで現場に慣れるだけでもいっぱいいっぱいなのに、2学期から統合して稼働する新センターの準備も並行して業務として加わり、土日に勤務していないのに時間外労働が付き100時間を超えた。
- ・学級崩壊気味の応援の要請。どのように関われば改善するのか…。担任は変わるのか…。
- ・特別支援学級（情緒）小1、小2の2名を担任しながら、生徒指導主事の業務等が重なることがある。
- ・毎日毎日生徒指導上の問題や保護者のクレーム対応があり、教材研究の時間が取れない。
- ・他学年も含んだ生活指導のため、何回も冬休みを潰して指導した。
- ・保護者対応、平日夕方だけでは足りず、休日に家庭訪問、夜遅くの電話、メール対応で保護者の相談を無下には断れない。
- ・各学年の担任はほぼ職員室に戻れない。就業前後合わせて毎日2時間程の超過勤務が当たり前になっている。銀行にも普通にはいけない。
- ・休み時間も生徒指導に充てていたら、トイレに行っていないことがしばしばある。
- ・毎日給食の時間は短時間ですませています。
- ・小1担任のときにトイレに行く暇がなく、疲労と重なり肝炎になった。
- ・給食を食べる時間がない。
- ・平日の仕事だけで終わらず、土日も自宅で仕事を行ったり学校に来てやらなければならない仕事があったり、気付いたら何回か深夜（21:00から22:00）を過ぎていた。
- ・日々細かな多忙感を感じてはいるが、全て必要な仕事内容だと考えているので特にならない。
- ・休み時間に児童指導や児童の相談を受けるとトイレ等の休憩が取れない。
- ・宿題の丸付けが毎日あり、休み時間に行くが児童指導も入り、十分な時間が確保できない。
- ・楽しんで学校生活を送っている。
- ・長期休業中や休日に、キャンプや地域の行事があり、それに参加しなければならない状態になっている。更に準備・片付け（学校のテント貸出・片付け、備品等）も地域と協力して行わなければならない（道具や用具等、学校負担の方が大きい）。そのために、朝6時前に登庁し、17時以降に退庁する（休日）現状もある。
- ・夏休みが短縮されたことで宿題の作品整理を2学期の始業式後に行わなくてはならなくなった（以前は全校登校日に集め、夏季休業中に整理できていた）。
- ・低学年担任は、体育の時間では、自分も着替えなければならないが児童管理もしておかなければならない。教室のカーテンを閉めて、児童と一緒に着替えなければならない。
- ・人間ドックのため、1日職免を申請し受理されていたが、終了後職場に戻って仕事を指示された。
- ・学級担任をしているにもかかわらず授業中に、来客者の対応を頼まれた（担当という理由で）。
- ・高学年担任の時、生徒指導上の問題が発生し、理科実験の準備（前日に準備ができない内容）ができず、時間割変更を余儀なくされた。
- ・保健室登校の児童生徒がいると、他の児童生徒に十分に関われないことがある。
- ・最近、アレルギーの児童生徒が多く、給食のアレルギー対応の資料を、大量に印刷して個別に配布・指導しなけ

ればならなくなった。また市の要望でフッ素洗口が開始されたので、各クラスにフッ素を分ける作業等新たな業務が増えた。

・スポーツ振興センターの災害報告も多く、その業務内容等インターネットを使用しなければならないものは速やかにしなければならぬため、職員室に移動して行なわなければならない（保健室ではインターネット接続されていない）。その際、保健室を開けてしまい、担任からの連絡がなかなかつながらず、けがや急病の対応が遅れてしまうときがあった。

【中学校】

- ・毎日学校にいる。
- ・中学校勤務時、部活動の大会前は30連勤も普通だった。
- ・様々な理由で（急にこの多忙な時期に）教員（担任）が突然何日も休む。ただでさえ時間がいっぱいいっぱいなのに仕事が一気に増える。多分生徒や保護者への対応も遅れがちになることは必死である。空き時間がどんどんなくなり、みんな「お互い様」だからと我慢しているけれどそのために体調を壊す人も出てくるだろうと思う。それが怖い…。
- ・プリントを印刷する時間が確保できないので早めに来たら、登校中の生徒が自転車で接触しケガをしたということで対応した。結局プリント印刷はその時できなかった。
- ・空き時間に授業準備をしようとしたら生徒指導が入り、空き時間全部生徒指導、その後全く空く時間がなく、部活動指導後の準備となった。
- ・トイレになかなかいく時間が取れず、昼休みになりようやく行けた。
- ・連日仕事を持ち帰らない日はなく、家でも2、3時間仕事する。
- ・4～6月は健康診断の事前（学校医との日程調整・検診事前準備）事中、事後（健診結果のまとめ、家庭通知配布、欠勤者検診の調整等）と盛りだくさんの上、年度初めは出張や提出文書も多く、日々の保健室での対応もある。家に帰る時間は日付が変わっているときが多々あり、ス取れスによる体調不良（診断アリ）があっても一人職なので休む時間がない毎日が多忙。
- ・今年度4月3日から仕事が始まり、8月5日まで土日に1日自宅にいられた日は1日もなかった。土日は普段22:00前後まで残務処理しても終わらない教材づくりや採点、成績処理、学年経営に関わる計画やワークシートづくり、生徒会の行事の企画や根回し等に充てている。ゆっくりトイレや歯磨きをしている時間は取れない。酷いときは朝自宅まで用を足してから放課後の17:00頃まで1度も行かなかった日もある。
- ・ほとんど授業が詰まっているため2年生の各教室から次の授業へ行き職員室に帰ることがない。そのため放課後部活動が終わってからの上記作業や丸付け等、帰るのは午後8時過ぎで家に帰って寝るのがやっとな。教材研究ができないのは教員ではない。最低2時間は研究したいが睡眠時間が3時間になる。
- ・共同訪問の準備のため毎日23:00頃まで勤務する日が続く、体調を崩し入院してしまったことがある。中学校は朝7時頃か18:00頃までは子供たちと活動しなければならず、なかなか自分の仕事を進められないのでどうしても生徒下校後からの時間に仕事をするしかない。土日は部活動があり疲労がたまる。
- ・校外に関わらず移動は、全て走っている（子供の目は一応気にしつつ）。
- ・今日はあまり走り回らずに済んだなという日でも万歩計は1万歩を切らない。
- ・複数校を兼務しているため、午前中現場をやりつつ授業をこなし、給食指導の後車の中で食べるためにパンと牛乳だけ持って兼務校に移動、授業をしてその後別の会議に出席…というような生活をしていると「忙しい」ってどうということよく分からなくなる。50過ぎてこれが続けられるのか。
- ・翌週の月曜から1泊2日で宿泊研修があるときのこと。月曜日が生徒用図書申請に締め切り（100万円以上）、火曜日が校内のPTA新聞原稿の締め切りで、先生方から原稿を集める係だったのだが、前倒して金曜までに仕事することにした。ところが金曜日が参観授業、部活動懇談、部活動参観と立て続けにあり外部指導者、保護者対応をしていた。何とか活動が軌道に乗ったので慌てて学校に行き、図書申請の最終チェックを17:00までに済まし、その後足りない分野の書名を済ました。その日夜、PTA図書広報部会があったので、役員さんと書類のやりとりで夜残

り、日曜は宿泊研修事前指導のため出勤。文書を直接委員会に持っていきこうかと思ったが、月曜日に教務の先生が持って来てくれたので助かった。

- ・基本夕方までは一切トイレに行かない。
- ・子供がいる間は休み時間も教育巡視にあてられており、やっと一息つけるのが部活動も全て終わり下校した 18:30 以降である。
- ・定時は 18:00 から 16:30 だが部活動指導のため 7:00 には出勤して、退勤も部活動がある平日はどんなに早くても 18:30 までには帰ることができない。18:30 以降には子供がいる間できなかった校務に追われている。
- ・やらねばならぬ業務や生徒指導がある上に、保護者から理不尽なクレームに時間をとられ本来の仕事ができなかった。業務妨害だと感じた。
- ・年度当初に提出すべき書類があり、生徒の学習支援（交流学級での）もしながら休み時間の 10 分（実質 5 分）でパソコンで作成し、また次の授業へということをはぼ 1 週間続けて行った。個人情報があるので持ち帰りもできず、子供も幼いので遅くまで仕事もできない。何のために教師を目指したのか考え直し退職しようかとも考えている。
- ・学期末の文章整理（通知表所見等）の時期と、即日採点（実力）のテストが重なり、採点を徹夜でしたが間に合わず、授業の合間や給食時間も採点した。
- ・空きコマに宿題や日記のチェック、簡易テストチェックをしていたが色々な仕事が入ってきて給食時間にチェックしなければできない日があった。一学期後半は諸事情により空きがゼロの日々があった。放課後から部活動をして、終わって職員室で分掌上の仕事、授業準備等色々していると学校を出るのが 22 時くらいになるのが当たり前になっていた。
- ・校務技術員さんが不在時に、給食の準備片付け（コンテナを受け取り各階に届ける。職員の給食の準備、後片付け）と怪我の対応、不登校傾向の生徒への対応を行わなければいけないときがある。
- ・保健室で休養している生徒がいるところへ、クールダウンが必要な生徒を休ませてほしいと言われ 2 人の対応が大変で他の先生を呼んだ。
- ・5つの会計を担当した（給食・部活動・学年会計・職員会会計・修学旅行会計）。保健室での生徒対応をしながら金融機関へも行き、保健の事務処理が後回しになってしまった。特に給食会計が大変（給食の発注や、教員の出張時にストップさせる）。管理職に、事務の先生にお願いできないか尋ねたら、パソコンがあるから簡単だといって、他の人に手伝ってもらえなかった。
- ・普段の勤務ではなかなか労働時間は減らせないが、去年は顧問を務める部活動が活躍し、夏休みの盆明けまで大会に参加していたため、夏休み中の休日がわずか 2 日となってしまった。生徒たちが活躍する姿を目の当たりにできたのはとても良いことだが、頑張れば頑張るほど自分の時間や休日がなくなってしまうことにどうしようもない気持ちになり、体調を崩しがちになった（それでも学校はやすまなかった）。こんな状況があと 30 年も続くと考えると、この職業を続けていいのか大きな疑問が残り、意識改革が進まないのであれば退職もやくなしといった状況になってしまうのではないかとおもっている。
- ・校内で、生徒指導主事・保健主事・部活動主任、校外で中学校体育連盟の事務局長・町生徒指導協議会事務局長と役があり、本当に大変だった。異動も重なり、引継ぎもうまくできなかった。
- ・宿題の点検やノート点検等、定期テストや夏休み明けはいつも後回しになってしまう。
- ・生徒指導の書類作成におわれ、テストの出題ミスをまねいた。
- ・大規模校だと教室と職員室の物理的な距離のために授業が続くと、休憩時間が確保できない。
- ・問題行動を起こした生徒の保護者指導が週に 2～3 日続いたので、連日帰宅時間が 20:00～21:00 になった。
- ・部活動の大会の引率で朝早くから 20:00 くらいになり、次の日は休みだったが疲れが残ってボーっと一日を過ごしてしまった。
- ・様々な報告文書が重なったとき、同僚の病欠で 1 日 6 時間授業に入ることが重なり、部活動終了後 19 時から報告書づくりや授業準備を行い、連日帰宅時間が深夜になった。
- ・定期テストの作成、採点は自宅になる。
- ・時間割変更や行事等で空き時間が 0 になることがある。
- ・人事異動でたくさんの教員の転出入があった場合の年度頭初はもといいた者も来た者も多忙を極める。生徒指導上

の問題が多く空き時間に教室に入れない生徒の個別指導が必要となることがあり、授業準備ができないまま授業をすることもあった。

- ・中学校では、部活動指導のため、放課後も休日も時間をとられるので、様々な仕事を深夜や休日の午後に行うことが多い。休む暇がない。
- ・持ち帰り仕事はないが、持ち帰らないために20:00～21:00まで仕事をして帰宅することになる。成績処理のために土曜日にも働くことがある。成績データは持ち出せないのので、学校で仕事をするしかない。部活動の顧問の先生はもっと大変そうである。
- ・1つの学校行事の準備を行いながら次の行事準備が始まり、成績処理も重なってきて多忙を感じた。
- ・担当する学校行事が終わった翌出勤日から3年生の進路面談が始まる。多忙の中、連日のように日付が変わっても退勤できなかった。遅い日は27:00を過ぎ、肉体的にも精神的にもボロボロになりながらも出勤した。自分の代わりはいないという使命感から妥協できない。
- ・生徒指導部で行事を回しながら、教務部で時間割をつくったこと。
- ・一日の中で生徒指導が多発し、保護者対応もあり23:00までかかってしまった。
- ・生徒が校内にいるときは、生徒に関わる業務に追われているため下校後から自分の仕事が始まる。勤務時間は16:55までだが、18:00勤務開始となる毎日が続いている。
- ・持ち帰り仕事はないがその分遅く変えることになる。
- ・現在、担当しているクラス数が多く、空き時間も廊下の巡回等をしている。放課後も、部活動や委員会のため、勤務時間に提出物のチェックができず、朝早く来たり、夜遅くまでやったりとやることが多い。平日に教材研究の時間が取れず、休日にやっている。
- ・土日、祝日は部活動。保護者対応、生徒指導が22:00すぎても行われるのが毎月当たり前に起きている。そのため多忙を感じずにはいられない。
- ・給食や昼休みの時間に生徒指導を行わなければならないことが多く、昼食をとるのが夕方ということが日常的だった。
- ・8:25～18:00までトイレに行けないことが常態化している。
- ・定期テストの採点が1クラス早くても2時間かかり、それを6クラスつけるので放課後はそれだけで時間がなくなってしまう。
- ・引継ぎがあまりない状態で、右も左もわからないのに文化祭をまかされ、2ヶ月走り回った。
- ・空き時間がなく、調理実習の準備が難しい。昼食を食べる時間がなかった。
- ・同時期に5つの委員会等を受け持つことになってしまい。生徒を動かした。部活動の試合引率で休日が月1日しか取れないときも多い。
- ・子供に付きっきりのため、他の職員とコミュニケーションが図れない。
- ・土日は部活動。試合があれば1日つぶれる。
- ・夜間の学校開放を担当しているが、部活動も放課後あり会議等もあり、自分の仕事を進めるのが、20:00頃になりそこから仕事は始まる。1日の中で空き時間が1時間もない日がある。
- ・土日でも部活動の大会があり休むことができない。
- ・1つのことをつきつめてやろうとしても他の仕事があり時間が取れない。1～2ヶ月休みがないときもある。
- ・生徒指導を昼休みに行くと昼食が取れず、放課後も生徒指導で授業準備ができず。
- ・朝、教室に行く際は、授業準備からお弁当まですべてもっていく。そして、そのまま部活動指導。職員室に戻るのには生徒の下校後。そのまま点検等をする毎日。
- ・朝から4時間目まで授業が入っていると、トイレに行けず水分も飲めないときがよくある。生徒指導も複数の生徒が関わっていると、保護者を呼んだり、事実をあわせたりする対応で24:00をまわることもある。
- ・昼食を取れないことがある。特に困難校では生徒指導が入り生徒の状態によっては身勝手な行動をとるため教員をつけ昼食をとらせる。その後聞き取りをするので、食事が取れない。放課後は指導委員会をしたり保護者を呼んだりして22:00をこえることもある。
- ・定期テスト後に授業があつて、採点の仕事が深夜までかかることがある。

- ・授業は毎日満タンで弁当指導に生徒指導にと担任がすべてやっていくことが多く、授業準備もギリギリで行っている。
- ・土日も部活動でほぼ仕事となり、休める時間がない。また、緊急の生徒指導の連絡等も入り、勤務時間を大きくこえることがある。
- ・週 29 時間のうち 27 時間授業がある週があり、空き時間がないため、昼食指導と昼休みを利用して昼食を食べることができなかった。
- ・生徒指導が重なったときは大変である。部活動で土日もしゃべりできず翌週を迎えるので睡眠時間を削るしかない。あと削るのは家庭時間だけである。
- ・家族と過ごす時間がなかなかつれないので、家に持ち帰り家族が寝てから仕事を行うことが多い。
- ・6 時間授業があるなかで、昼食指導もありトイレに行く時間もない。
- ・1 年目で体育祭をまかされ、部活動をまかされ、専門外の教科をまかされ、時間がいろいろと足りなかった。
- ・椅子に座るときは、宿題の点検と、食事の時だけ。
- ・1～6 時間目まで埋まっており、実験の準備をしたいときに生徒指導が入り、授業をしながら次の授業準備をしたときがあった。
- ・会議の準備等で自分が大丈夫でも、急な生徒指導が入るとそれに合わせて動かなければならない。
- ・空き時間が 1 コマもないときがある。
- ・授業が 6 時間全部うまり、提出物のチェックができなかった。
- ・トイレに行く時間がなく、その日初めてトイレに行ったのが、帰りの会のあとだったことがあった。
- ・持ち帰り仕事はないが、遅くまで残る。学校が荒れているときは教室から離れられない。
- ・全学年の教科担任の時は、全学年分の教材研究が必要になるが、部活動を優先させるため、超過勤務になる。部活動への負担感より、時間不足を日々感じている。
- ・生徒指導に問題を抱えている学校では、平均の帰宅時間は 21:00 頃になる（部活動～19:00、家庭訪問を含む生徒指導～20:00、残務処理～21:00、教材研究・準備はそれ以降になる）。
- ・英語科は授業数が増えて他教科よりも授業準備が大変である。ALT を増やしても負担は減らない。ALT は単独で授業ができない。むしろ、打合せの時間が増えることになる。
- ・学級担任、生徒会、吹奏楽担当になったときの文化祭前は、授業時数も多く、トイレにも行けず、膀胱炎になった。
- ・休み時間にトイレに行く時間がない。
- ・1 日の中で、授業時間以外の時間で、4 人の教員であってももの生徒に関わる情報交換をする時間が取れない。
- ・「〇〇大会は国語担当だから」と教科ならではの仕事がある。出張が重なり、補充で入れる人が誰もいないという状況がある。
- ・管理職は頭がかたく、なかなかスリム化や働き方改革ができない。中堅・若手の方がアイデアがあり、子育て、出産等ライフイベントも多く、働き方の改革をしたいと思っている。上からの改革より、下からの改革。
- ・フリーの先生と担任の先生の仕事量の差が気になる。フリーの先生も一生懸命仕事されているのはわかるが、やはり仕事量に差がある。
- ・部活動は、保護者やコーチの時間に合わせると自分の家庭の時間が奪われる。
- ・体調不良で休まれた先生の補充に入り、空き時間はなくなった。テストの採点もすることになり、深夜までかかることが何日も続いた。
- ・朝から晩まで気がついたら一度もトイレに行かない日が当たり前にある。
- ・日々多忙感を感じている。昼休みも給食指導が終われば残り時間は 10 分少々しかない。
- ・毎日あるので書ききれない。
- ・同時進行しなければならない校務がたくさん重なり、残業をしても物理的に時間が足りないと感じる。
- ・現任校で今年度より教育相談をしているが、適応教室（カウンセリング室）で登校している生徒に対し各学年、各クラスのまとまりがなく自分が 3 学年にまたがりテスト等（別室です）のを対応して、3 つの部屋（またはそれ以上）を手配しないとイケない。

- ・成績処理と部活動の充実期が重なっていて多忙を感じる。
- ・気付いたら14:00頃までトイレに行っていなかった。
- ・成績処理や事務作業をするのに時間がかかり、従業準備の時間が十分に取れない。授業で使うワークシートの印刷もいつもギリギリになっている。
- ・課題提出の催促をしてから部活動に行くと、誰も先生がついていない中、3つくらいの部活動が行われていた。
- ・学期末の成績処理、通知表の作成等の時間ができない。
- ・10年次研修があつた年に3年生担任・生徒指導主事・進学主任・部活動の顧問（実質1人体制）と校内分掌が重なった（ちなみにその前年度が免許更新の年であつた）。
- ・出張のため午前中フルで授業。出張から帰ると部活動。それが終わると教科研修会。翌日が大会のため研修会後も準備に帰ってくる等休む暇がなく1日が過ぎることが多々ある。
- ・帰りはほぼ21:00を過ぎる。土日はほぼ学校。
- ・日々多く、記憶にとどめられない。
- ・給食を食べながら生徒の日記や自主勉強ノートを見ている。1日中トイレに行く時間がない日もしばしばある。
- ・持ち帰りしないために夜残る。
- ・休む時間があるはずがない。
- ・部活動の時間に放課後も土日も多くを費やして本来の教科指導や生徒とのふれあいが十分取れない。
- ・部活動が学校活動の中心となっており本来行うべき教科研究や生徒指導が後回しとなっている。
- ・生徒指導での保護者対応。毎日のように翌日の対応を話し合うことに、部活動指導を終えた後に話し合うので10時近くになる。
- ・校務をすることに追われワークシートが準備できないことがあつた。
- ・生徒指導面で、暴れる、教室を抜け出す等の生徒がいた時には準備中の作業等をやめて対応に追われるが、生徒への対応に4、50分や1時間以上かかることもあり、計画的に事務作業ができないことも多い。
- ・常に多忙。7:00出勤、20:00まで部活動（社会体育のため）昼休みは事務作業。
- ・過去365日中365日ほど学校に来ている日があつた。
- ・提出文書が重なったとき、出張の次の日等。
- ・PTAの会議（21:00過ぎまで）が週に2度くらいあるときがある。
- ・土日は特に大会前になると終日練習試合等に費やし、自身のリフレッシュもできず家族との時間も取れず一週間の業務の残務処理もままならず、また一週間が始まる。
- ・前任校で生徒会担当部顧問、学担等を兼務していたとき。
- ・1日の中で行事、会議が重なる。
- ・ほぼ毎日4時に起きて授業準備や教材を作成している。
- ・行事の準備とテスト作成を並行して行われなければいけなくなってしまい、遅くまで残っていたり、土日でも1日中仕事をしていたりしていた。
- ・特別な支援を要する生徒への配慮事項としてプリントの作成、テストの拡大等をして本来一度で済む作業が二度行われていなくてはならなかった。
- ・ほぼ毎日子供がいるとお茶も飲めない。
- ・夏場の最終下校は18:30になるため、その後仕事をするためにご飯を買ってから仕事を行った。
- ・部活動後の学年会。
- ・1日の中で体を休める時間がない。
- ・1時間目から6時間目までフルに授業。昼休みに生活ノートのチェック。放課後18:30まで部活動。トイレに行けないくらい忙しかった。
- ・水分補給をすることができず給食の牛乳を一気に飲みほした。
- ・授業があるにも関わらず、クラスの生徒1人のために校外からいらした先生と校内の先生方と会議を何回か行って対応を考えなければいけなかった。
- ・最終下校後から仕事にとりかかると21時、22時まで勤務をすることになる。

・陸上部の顧問をしていると上位入賞して上の大会につながる生徒がいると他の生徒の部活動は休みにしてしまう。すると大会明け、選手として出場した人を休みにしても、他の生徒は部活動をしたというニーズがあり教員は休むことができない。

- ・テストと授業の準備や成績処理に加え、行事が重なり授業の準備がバタバタだった。
- ・教科、部活動、生徒指導…。いろいろなことが同時進行で起こる。
- ・午前中の授業がフルにある上、生徒指導上の問題か保護者対応があるときはトイレも行けず、頭を整理する時間もなかった。
- ・保護者対応で5時間以上（夜中12時過ぎまで）職員室待機のときがあった。
- ・給食を食べる時間はいつも10分いないで終え、残った時間をノート点検等にあてている。すべてにおいて間に合わない。
- ・授業が連続していたり、突然保護者に連絡をとらねばならなかったり、休み時間に生徒を集めたりしているとお手洗いの時間さえ取れないときがある。
- ・保護者が放課後から夜中まで電話で話し続けて切ろうとしないので何もできなかった。
- ・日記やノートを見る時間がなく給食をさっさと食べ点検。
- ・特別支援学級は中1～中3まで生徒がいるので、各学年の行事等の説明が大変である。それぞれの生徒に説明する時間確保等と自分がそれぞれの行事を理解していないといけないので、各学年の先生たちとのコミュニケーションをとることに忙しい。
- ・テスト採点等、成績・事務処理をするため土日も学校に出て来て作業をする日がある。
- ・年度初めに教育委員会等に提出する書類を作成したら、退勤時間が21:00～22:00なることがあった。
- ・中学2年生で、生徒指導上心配な生徒に空き時間、昼休み等についていたらトイレに行く時間がなかった。
- ・給食後昼休みが短く、5校時の準備が十分にできなかった。
- ・校内分掌の仕事、生徒会、教科で他校の先生方の連携、部活動指導、不登校生徒・保護者の対応、放課後から夜にかけて毎日のように仕事が重複して精神的に休まることがなかった時期があった。一つ一つが中途半端になることがあった。
- ・急に変更があり今までの準備（期間）が無駄になり、やるべきことがなかなか進まなくなることがあった。
- ・朝、子供たちから回収した生活の記録、自主学習帳、授業中に回収したノート（宿題の漢字練習・評価材）等、その日のうちに返却しなければならぬものがあり給食はいつも5分で食べ、残りはノート点検に費やしている。昼休みは委員会等の仕事があり教科の補習はやりたくてもできない。授業中の小テストの結果から放課後は補習を行おうとしても、生徒や自分に用があったり、臨時の打ち合わせが入ったりして実施できなくなってしまう。
- ・放課後にやるこ仕事も多いので遅くなってしまうこともある。
- ・このようなアンケートを含めて様々な書類提出。昼休みは毎日委員会活動を見るのだが、そこに生徒指導や行事の準備等が重なっていくとどうにもならない。
- ・ある年に学校訪問、教科の研究発表、体連事務局、副読本作成事務局、あるスポーツの教会の役員等を掛け持ちで行うことになり、2学期に発表会や大会運営が集中し、年末に熱を出して寝込んだことがあった。
- ・朝練7:00出勤。8:00～16:00勤務。16:00～18:00部活動、18:00～20:00事務処理。※ 場合によっては22:00なんて日も。これがほぼ毎日。
- ・毎日が忙しすぎて全てが多忙のエピソードになってしまう。
- ・事務処理が多く教材研究が不十分になってしまった。
- ・退勤時間が翌日になったことがある。
- ・夏休み期間に研修や部活動指導、補習等のために特別休暇が取り切れない。
- ・保護者対応が同時進行で重なった。
- ・ほとんどプライベートの時間が取れない。
- ・午後から出張や健康診断等があるときに保健室に来室（けがや病気）する生徒が多く、悩み事を相談したいという生徒も来室した場合、目が回る思いをしたことがある。

- ・夏休みなのに休みが取れたのは8月13日～15日だけで、振替も取れずに、それでも勤務は振替にして部活動をやっていたり、振替なのに仕事を学校でしたりしている状況がある。
- ・朝昼夕に部活動があったときは、夜19時くらいまで職員室の自席に座れない日があった。授業の教材研究に時間をかけられず授業が上手くいかずストレスを感じた。自分の時間の使い方が下手なのもあるが全てをこなすのはなかなか難しい。
- ・部活動を終えて残務に取り組むとすぐ22:00近くまでになってしまう。早く帰りたいが仕事が山積みになるだけで改善されない。
- ・授業が5時間入っていてわずか1時間の空き時間も提出締め切りの近い文書作成等に追われ、そのまま放課後の部活動まで。トイレに行けたのは部活動終了後の19:00頃だったというのが日々ある。
- ・夏休み前最後の日、15:40まで授業、その後下校指導だったが16:00に終礼、16:15～打ち合わせ～日直校内巡視。全て終了したのは17:00を過ぎていた。
- ・保健室の対応が連続して休憩時間がほぼなかった。
- ・最長で部活動が終了し、職員室へ戻るのは19:00。そこから23:00前後まで仕事をしても終わらない。朝は7:00に生徒を起こしに行く…。
- ・保護者への対応が深夜になるとき。トイレにも行けない。
- ・給食後のワゴンを片付けたあと、昼休みにすぐ次の時間の準備に取り掛かった。集会等の場所を準備した。
- ・異動した4月当初、仕事の内容の理解不足と抱える仕事の多さで1週間連続睡眠時間2～3時間という時期があり過労で倒れそうだった（1年経過して仕事のやりくりができるようになった。仕事内容をよく理解している人がいれば教えて頂けるが異動等でそれができない場合は大変だと実感）。
- ・学期末、提出しなければならぬ書類が重なり授業の準備が間に合わなかった。
- ・全般的に色々な調査やアンケート等学校に依頼する多くは引き受けるという風潮がある。
- ・処理する仕事が多く、生徒から頼まれた仕事を忘れてしまい保護者からクレームの電話があった。
- ・部活動が外の活動で臨探の先生と担当しているため、土日（どちらか1日は練習試合）は毎月休まずに参加し、体調不良で4日間学校を休んだ。
- ・仕事を持ち帰らない分、21:00過ぎまで仕事をするようになる。
- ・毎日のように健康診断を行うため、計画、周知、家庭配布資料印刷、配布、準備、実施、データ入力、結果通知等1人でこなさないといけないので多忙を感じる。
- ・子供の提出物をチェックしている時間が確保できず、給食を食べながらチェックすることがある。
- ・小規模校勤務の際、出張者が多い手薄の日に体調が優れない子供の対応、教室の子供たち対応。給食を食べることもできなかった。
- ・空き時間がほとんどなく、様々な提出書類の処理を放課後やろうとしても部活動指導や会議等があり、日々帰宅時間が遅くなってしまう。
- ・部活動の指導、周囲からのプレッシャー（他の教員からや保護者からの期待）から、お盆と正月以外休めず、親の介護が十分に取れないまま親を亡くしとても後悔と憤りを感じる。
- ・日程が詰まっていて昼休みの時間がないことがあった。
- ・体育祭の練習で空き時間がなく、給食中や昼休みにノートチェックを行った。
- ・時間外の会議により授業の準備や教材研究が行えなかった。
- ・昼休みや放課後も会議や委員会等が入っていて子供としゃべる時間が取れない。
- ・PTA奉仕活動後にコンクール作品を選ぶ会議を行う等、休日にも関わらず1日勤務が続く。⇒振替も書類上でしか取れない（地域活動、部活動参加で）。
- ・中学校ではほぼ全員が12時間勤務。部活動顧問は土日にも練習。大会等で休みがない。学期末は成績処理も加わり超多忙。
- ・昼休みは毎日、給食は配膳の片づけ当番指導をやって、歯磨きをしたら終わってしまい、急な対応が生じた場合歯磨きの時間もなくなる。
- ・生徒から次から次へと声をかけられるが、一人一人の話を十分に聞くことができずに「もう大丈夫です」と言わ

れてしまった。

- ・色々なことを同時進行でやらなくてはいけない（生徒指導、授業の準備、保護者対応）。
- ・昼休みは問題行動への指導等にとられることが多く忙しい。持ち帰り仕事は学校に遅くまで残ってやることで（または週末）消化している。
- ・午後出張のとき、午前中空き時間がなく連絡帳記入等全体的に忙しくなる。
- ・朝、隣のクラスの先生が休むという連絡があり、日課の調整や授業で空き時間も休憩時間もなくなった。
- ・個人懇談の日、生徒対応の後、保護者対応、電話での保護者対応が重なり時間が取れなかった。
- ・昼休みで自由に使えるのは20分程度しかない。午後の準備等で食事をとらずに仕事をすることもある。生徒会担当だと1年中行事に追われている感じ。
- ・特別支援学級で次の授業の準備をしているときに保護者が来校したり、子供の突発的な行動（友たちとの口論、生活違反等）の対応をしたりしなければならなかった。
- ・分掌事務が多く、部活動を1人で受け持っているときはほとんど部活動を見ることができなかった。
- ・教室から飛び出した生徒への対応で給食も食べずに探しに行った。

【高等学校】

- ・放課後、部活動や個別性との相談に応じる予定であったが、近辺の営業施設より苦情の電話が入り校外指導となることが多く、結局部活動移動中止、相談中止で終電となり、提出物チェックを持ち帰って行うことが多い。本校生徒以外の問題も多く、何でも学校へ電話してくるため、直接警察へ連絡してもらえるようお願いしているが改善されない。
- ・育児短時間勤務（週3日フル、週2日休）をしているが、その関係上、超過勤務の振替をする日が限られてくる。
- ・放課後にも仕事があり、部活動にいけないこともある。
- ・オープンスクールで、14:30開始で部活動の見学があった。15:00練習終了で練習監督の任務に付いた。後日、教頭からその日は14:00から職員会議があり出席できないのは困るといわれた。安全配慮義務を果たすため、部活動に付いたが理解されない。
- ・退勤はいつも19:00以降になる。
- ・生徒指導上の問題で家庭訪問をする機会があったが、帰宅したのが24:00をまわることもあった。生徒の家と自宅まで、100kmを往復することもある。
- ・校内での仕事にすべて対応していると部活動を見る暇がない。
- ・テストの期間中に会議が沢山入るため、休めず勤務していると、県の指導で「休みを取りなさい」と言われる。いつ取ればよいのか。家庭訪問で0時を越えることもある。
- ・昼休みに喫煙者が見つかり、5人から話をきいていたりすると、お昼は食べることができない。
- ・資格取得のための補習、部活動があると毎日3時間以上の残業になるので多忙であるが、その意識をもつゆとりもないので、何も感じない。
- ・朝から授業参観をこなし、そのままPTA総会、学年PTA、学級PTA、個人面談とこなし、勤務終了後PTAとの夜の会合（懇親会）に半強制的に参加させられたこと。
- ・放課後、生徒の指導をしたいが会議等が多くできないことが多い。
- ・教育相談の面談、就職指導、学校行事の準備、部活動の指導が重なる9月の放課後は多忙を極める。
- ・PTA総会当日、7:00から体育館で会場準備、資料準備、総会司会、昼休み中の吹奏楽の指揮、午後の会場片付けたあと、役員会、夜は懇親会の受付、司会と超多忙だった。
- ・放課後は部活動中心になる。
- ・授業時間が他の教科の教員よりも多い。しかも、専門外の教科の臨時免許を勝手にとられ授業をしている。その授業について、管理職から叱責される。
- ・1ヶ月の間で休日が2日だけだった。
- ・高校3年の担任をしているときは、面談や進路の書類作成のため、昼食を取れないことがよくあった。

- ・曜日によって偏りがある。1日で1時間のときもあれば、会議も含めて1～7時間全ての日もある。そういう日はとても大変。
- ・実習教員が少ないため、実習の準備を全て自分でやらなければならない。授業の空いた時間や昼休みに行っており、昼食が取れないことも珍しくない。
- ・生徒指導のため、食事をとる時間が取れないこともある。
- ・小規模校のため、非常勤の先生や他校と兼務の先生が多い。そのため、時間割作成が大変である。SHR 後すぐに授業という日が多い。
- ・昼休みも生徒の対応に追われ昼食を取る時間がないこともある。
- ・授業が詰まっており、昼休みに生徒面談、授業準備を行い、放課後も生徒への学習対応があり、昼食を取る時間が18時になった。
- ・実習があるときは、準備片付けにも時間を要し、他の事務処理もあるとき等は、昼食が食べられず17:00 ごろに食事となってしまう。
- ・昼休み前後（4、5時間目）が入っているときに、昼休みの時間を利用して学科の会議があり、昼食をとりながら会議に参加した。
- ・3、4限、5、6限 調理実習、放課後部活動等重なることがあった。
- ・いくつもの仕事が重なる。
- ・盗難、不祥事防止のためテストもPCも持ち帰ることができない。
- ・生徒会活動、その他生徒が自主的に行う活動を昼休みに設定することが多く、前後に授業がある場合、昼食が取れずに休みなく続いてしまうことがあった。
- ・生徒会を担当していて、昼休みは打ち合わせで放課後は生徒会と部活動の両方を見て、ほぼ1日中動きっぱなしだった（授業も6コマ中5コマあった）。
- ・昼休みに頭髪検査や生徒指導等があり、休めないまま午後の授業を行い、帰りのHR 後、放課後、生徒の指導、部活動という流れ。どれも準備ができないまま行っている感じである。
- ・1日に3つ出張が入った。
- ・担任が出張等で不在が多かったため、同時に2クラス分の終礼を行った。
- ・不登校傾向生徒対応。
- ・何が、ということは思い浮かばないのですが全体的に忙しい。
- ・教育素材、生徒対応に加え、事務処理が重なったとき。
- ・勤務時間内に全ての業務を満足のいく時間かけることはできません。従って毎日3時間くらいは時間外で働いている。
- ・スーツのまま実習の導入をしている（本来は作業服）。
- ・部活動の大会で土日がなくなり、平日も1週間に3日ほど出張がある中で、生徒相談等で勤務時間外も。出張先から学校に戻り仕事を夜遅くまでほぼ毎日していた。
- ・昼休みに昼食が取れない。
- ・県が実施した実態調査・アンケートとほとんど同じ内容の他所からの調査アンケートがよく来ることがある。実に時間の無駄である。
- ・昼休み、生徒対応で食事を取れないことが多いので他の空いている時間で食べることが多い。
- ・工業高校の資格取得のための補習を行っているとき、部活動も同時にあるため、他の教員も多忙なため十分な指導ができないことがあった。
- ・特に4月の忙しさは大変だと感じる。最も大切な時期なのでなおさら気を張った状態が続く。
- ・本校では実力考査も教員で作成、採点するため、問題作成か採点をしょっちゅうやっている感じ。
- ・進路相談室は、来客、生徒の対応が多くゆっくりとした時間を持つことができない。特に本校は就職～四大まで幅広い進路なので来客も多く、授業のない時間もその対応に追われ、まとまった時間を必要とする仕事は早朝（6:30に出勤）するしかない。
- ・担任クラスの生徒が問題行動を起こした際、その事実確認、保護者対応、管理職への報告のため、授業の準備等

ができなくなってしまった。

- ・部活動指導まで行っているとその日の事務作業が午前8時でも終わらずに、仕事を持ち帰り夜中までかかって仕事をやり上げている。
- ・年度末、年度始の時期に庶務係として職員室の机移動、入学式運営というような全体行事運営の準備や時間がかかっていた。
- ・HRが終了したら17:00過ぎていた。そのまま授業準備や部活動になることが多い。
- ・退校時間が連日24:00を過ぎた。
- ・放課後に会議が定例で入るため、教材の準備がどうしても勤務時間外になってしまう。
- ・平日のほぼ毎日12時間は学校で働いており、時間がないので昼食は弁当を半分ずつ2回に分けて取ることが多い。

【特別支援学校】

- ・書類等の提出期限に余裕がなく、自分自身で仕事内容の優先順位が決められないことが多い。とにかく提出することだけが目標になり、自分の業務の在り方について振り返る時間が与えられない。主幹教諭が増えると職員研修の頻度が増える。
- ・担当生徒のオムツ交換等を行って、次に自分の担当する授業へ行こうとしたら、昼休みが終わってしまい自分自身がトイレにいけなかった。
- ・担当生徒が昼休みいっぱい給食を食べるので、その後の授業準備で慌てることもある。
- ・生徒指導上の問題が起こると、部活動が終わった18:30か19:00くらいから学年会を始めるので終わるのが21時過ぎになる。それから翌日の授業準備をするため、帰りが深夜になる。保護者に来てもらおうと、そのあと学年会があるためさらに遅くなることもある。
- ・ちょっとしたときに年休をとりにくい。
- ・行事の準備（文化祭や運動会）。
- ・提出書類の締切が近く、作成に多忙を極めているときに突発的な対応に迫られる要件の協議が入り、主任として全て出席しなければならない。
- ・課題文の指導、教育相談（集団）の準備に対する指導等、回数が多いために女性教諭の帰校時間が10時以降になることが3、4日続いた。
- ・特別支援学級では、2人以上の児童がパニックを起こすと、担任1人ではどうにもならない現状がある（ほぼ毎日）。

全日本教職員連盟 全国アンケート⑩

「教員の働き方改革～学校現場の今～」(管理職)

質問事項

(1) 次の項目について、満足ができる時間は確保できていますか。

- ① 学習指導等に関わる対応 (授業準備・研究会・研修・打合せ等)
- ② 生徒指導等に関わる対応 (個別の打合せ・情報交換等・児童生徒への対応)
- ③ 校務分掌上の仕事・日常業務 (提出文書作成・教育委員会とのやりとり)
- ④ 保護者・各種団体への対応
- ⑤ 教職員とのコミュニケーション (相談対応等)

【管理職】 満足のいく対応ができないものがあつた場合、その理由をお書き下さい。

【小学校】

- ・TTを含めると週8～15時間の授業を受け持っている。校務分掌の仕事も小規模であるがために、多く受け持ち、日常的に業務遂行のための時間は不足している。生徒指導や保護者対応は、後日に送ることができないので、十分に対応するように努めている。自分の仕事は勤務時間外にやらざるを得ない状況だ。それでも十分ではない。
- ・昨年度は重要文書として番号を付けて受付をした文書だけでも763件ある等、提出文書等事務処理に要する時間が増えている。
- ・配慮を要する児童への対応や保護者のクレームの対応等教職員の負担が増えている。
- ・危機管理等に関する各種マニュアル作成等も年々種類が増えている。
- ・勤務時間内に行うことを考えるとその中には十分に対応はできない。十分に対応するためには勤務時間以外に対応せざるをえない。勤務時間内だとするとすべて不十分。
- ・児童、保護者への対応を優先にすると学習指導に関わる対応が十分にはできない。
- ・全職員で共通理解したい内容について、全職員がそろそろ時間がなかなか取れなかったため(毎日のように出張業務がある)、学校組織としての取組を推進していきにくい。
- ・児童が下校してから退勤時間まで約一時間。この間に様々な業務をこなすのは難しい。従って十分な研修の時間や相談の時間を設けることができない。
- ・「授業準備、授業後のノート点検、テストの採点、家庭学習の点検、連絡帳チェック」等40人近い児童を担当している先生は、これが毎日最低限の仕事であるが、休み時間等を使ってどうにか進めている。これに教室環境、校務分掌、個別計画等、併行して進めていくのは、時間が十分に確保できない(問題行動なくても)。
- ・児童や教員が学校にいる時間は限られているのに、授業外にやらなければならない作業や会議等が増えていくばかりで満足のいく対応はできていない。他にもやったほうが良いこともあるのに、時間がなくてやらなくなったことも多々ある。全体的に時間が足りないのもそれぞれが時間不足となる。
- ・児童数800名、教職員50名以上のため、他校に比べて事務処理に要する時間が3倍～5倍はかかる。特に、市、県、国の調査の報告等。
- ・児童が下校してから退勤時間までの残務整理時間は一時間もない。その中で①～⑤の対応は不可能。そのため時間外にするしかない。
- ・大規模校も小規模校も業務内ように大差がない現状では、本校のような小規模校はどうしても1人あたりの校務分掌量が大きくなり、それが退庁時刻以後の仕事につながっている。国や県、市なのでいじめや不登校等類似のアンケート類が多く負担となっている。精選して欲しい。
- ・時期によって提出文書作成がいくつも重なってしまうことがあり、時間の確保が難しい。

- ・提出文書等の作成に追われ、その他の業務への時間が十分に取れない。
 - ・提出文書の作成に時間がかかり、児童生徒への対応や授業参観、打合せ等の時間が十分に確保できない。
 - ・小学校なので朝から夕方まで昼休み等もなくぎっしり予定が詰まっている。
 - ・日常業務を優先させる必要があるため、学習指導・児童指導の充実へと注ぐエネルギーが奪われている感覚を覚える。
 - ・勤務時間外に時間をとることで支障がないようにしているが、時間内に満足できる程度に行うことはかなり難しい。
 - ・学習指導以外の業務に追われてしまい、放課後はほとんど埋まっている。教材研究等の時間確保が難しい。
 - ・多種多様なものが同時にたくさん来て処理しきれない。
 - ・十分に対応できる時間が取れない。1つのことが十分にできないまま次の課題や問題がでてしまい、次の仕事にとりかからなくてはならなくなる。
 - ・学校規模が大きいため、一人一人の教職員とのコミュニケーションをとる時間がない。
 - ・授業研究会等においても十分な研究協議の時間が取れず深まりがなかった。
 - ・管理職が時間の都合があついても、担任をもつ教職員には空いている時間がほとんどないため、しっかり話し合っ
- て仕事を進めるのは難しい。
- ・業務が多く時間外勤務が常態化している。
 - ・下校時刻以降の部活動指導がある場合は全教職員が集まるのが不可能。
 - ・単学級であるため、一人一人の職員がクラス、学年に関する事務を全て一人で行わなければならないため、授業の準備にかかる時間が不十分となっている。
 - ・勤務時間内は、児童のノート、テスト、日記等の処理で時間外に行うものが多くある。授業後の時間が少ない。
 - ・空き時間がなく、上記の項目を行うのは勤務時間内では40分程度、その時間内にこなすのは無理である。
 - ・良い授業を行おうとするとそれだけ、教材授業の時間も必要となる。
 - ・教職員の授業への対応よりも、校務分掌への対応に時間がかかる。研修の多さにも対応しきれしていない。
 - ・提出物や調査物が多い。
 - ・児童・保護者対応、教職員とのコミュニケーションを最優先とするため、限られた時間の中では、様々なことに満足いく時間は確保できない。
 - ・保護者からの相談や生徒指導上の対応が（複雑であったり件数が多かったりして）に時間がとられる。
 - ・1つのことだけでなく同時進行していく場合、1つのことだけに十分な時間が取れない状況がある。
 - ・全項目、満足のいくレベルまでにするには時間不足を感じる。満足の程度にもよると思う。
 - ・授業時数が多く、また外部との接し方、委員会等への提出文書作成等たくさんの業務があるため、まったく余裕がない状況である。
 - ・授業時数が多く、授業等の準備が勤務時間内では終わらない。
 - ・勤務時間内には時間は確保するのが難しいため時間外に行うことが多い。
 - ・働き方革命といいつつ、授業時数が増加している。
 - ・時間設定が難しい。時間外になってしまう。
 - ・そのための時間の設定が難しい。
 - ・あまりにも対応しなければならぬ課題が多過ぎ本来の授業の準備、生徒指導にかかる時間がない。また子供たち自身も個別の支援を要する子供たちが本当に増加し続けている。
 - ・管理職も職員も十分な時間的余裕がない。
 - ・先生方は授業の準備、実施、評価のために時間をフルに使っている。また空き時間も補欠授業に入ったり分掌部の仕事に充てたりと余裕のない状況であると思う。
 - ・児童生徒への学習指導が最も大切な仕事であるはずであるが、その他多種多様な業務を抱えている。学級担任の負担は大きい。
 - ・小規模のため教員が少なく十分な時間確保ができない。
 - ・生徒指導、児童、保護者対応が長引くときがある。

- ・相談対応に問題があってもなかなか気付かない。
- ・提出文書が多い。
- ・小学校職員には専科等以外の者は空き時間がなく、ヒアリングもなかなか設定しにくい。
- ・教頭の文書作成数が大変多い。
- ・放課後の時間が少ないので各種会を設定する時間がない。
- ・研究会や研修会等、校外における会合等が多い。
- ・②～④の一つ一つが特に過密状態なので時間が不足なかなか満足に余裕をもって対応できていない。
- ・小規模であるため担任の出張が多すぎる。多いときは出張が1人で月10回を超えることがある。
- ・業務量が多いため、それぞれの業務に十分な時間をかけられない。
- ・職員との業務に関する相談や指導の時間は十分に持てない。1日の日程が諸行事等でいっぱいである。
- ・教職員との対話が十分にできていないことが多い。他のものに時間を取られている。
- ・発達障害のある児童への対応。
- ・業務が多く毎日残業している職員が多数いる。
- ・校内分掌の平準化ができていない(偏りがある)。
- ・6時間授業で授業が下校する時刻は16:15である。職員の退庁時刻は16:40なのでその間はわずか25分であり勤務時間内に終わらせるのは厳しいところがある。
- ・調査、提出物が年々増加しているため(提出記事もぎりぎり)それに関連して全ての項目において時間が削られている。
- ・勤務時間の中では満足のいく対応は正直できていない。日々目の前のことで精一杯で、もっとゆっくり職員と子供と保護者と地域の方と対応したいと思っている。
- ・教職員数の不足。学校現場に求められるニーズの増加。
- ・提出書類が多い。
- ・同じ内容の調査依頼が多い。
- ・調査、報告が多い。
- ・事務が多すぎる。調査等に時間がかかる。
- ・出張、会議等が多い。
- ・やりたいことややれることはたくさんあるし限りがないが、時間的な制約があるので常に不十分であるが優先順を決めたり、十分でなくとも承知の上で業務をすすめたりしている。
- ・作成に時間がかかる提出文書が多く、業務への大きな負担になっていると感じる。
- ・文書の処理、外部との対応等で時間が過ぎていき、時間をかけたい児童・職員への対応がややおろそかになっていると感じる。
- ・出張、提出文書が多いため対応が十分できない。
- ・学校全体で取り組む学習指導に係る研修時間を優先すると、個々が行う業務の時間が勤務時間内に確保できない。
- ・満足のいく対応をとろうとすればどうしても勤務時間が長くなる。
- ・先生方の時間と私の時間が合わない。両者とも忙しい。
- ・職員の起案文書等の対応により、自分の計画通りにいかないことがあり、そのための時間的な余裕がない場合が生じる。自分の文書作成は勤務時間にはなかなか確保できない。
- ・教職員数が多く時間が不足することが多い。
- ・児童数約900名の学校でも生徒指導担当者は学級担任をしている。教員数が不足していると感じる。
- ・優先順位をつけて対応しているが、⑤についてはお互い忙しく後回しになりがち。
- ・自分の授業や出張・諸会合のため、急な生徒指導や保護者・地域等への苦情対応が遅れることがあった。
- ・時間が十分に確保できない上に、生徒指導等優先すべき事案対応に時間が費やされる。
- ・教職員の意識の問題と思われる。
- ・①～⑤は毎日のことなのでそれらを十分に発揮できる時間の確保は物理的にできない。
- ・小学校教員の場合、学習指導(授業)後、②③④⑤に対応しなければならない。勤務時間内で十分な対応は難し

い。

- ・やりくりしながら対応しているのが現状。満足できる時間の確保は困難である。トータルして先生方が多忙で私自身が十分に関わることができていない。
- ・校務の多さのため、各方面の時間的なゆとりのなさが常時感じられる。時に教職員とのコミュニケーションが後回しになってしまう現状を憂いている。
- ・他の業務の時間を費やすことが多く、自分自身の授業準備（教材研究）が十分にできていない。
- ・学級担任をしているため、教頭としての職務と学級担任としての職務を時系列に重要度の高いものから対応・処理すると、他教科に及ぶ学習指導のための準備が不十分になりがち。
- ・1人あたりの時数が多く空き時間があまりない状況。小学校にあっても放課後、水泳や陸上等の指導にあたっており時間確保が難しい。また保護者対応に時間を費やすことも多い。
- ・勤務時間内における教職員のゆとり時間がほとんどないため相談・コミュニケーションを図る時間が取れにくい。
- ・保護者対応で大変長時間・長期間を費やさねばならない保護者がいる。
- ・生徒指導上の問題、保護者対応については勤務時間外の時間帯を利用すれば満足できる場合も多いがそれだけ教職員の帰宅遅らせる。放課後だけでは十分対応できない。
- ・提出文書の量が多すぎる。
- ・ほとんど6時間授業であり、放課後相撲、水泳、陸上等でつぶれてしまう。根本的に放課後の時間が足りない。
- ・調査関係・文書作成が多く期限も短い。教職員とのコミュニケーションを図るとき、教職員の空いている時間を利用しようと思うがなかなか思うように時間が取れないときがある。
- ・職務内容が多く多方面に渡るため、各時間の確保が困難な場合がある（教職員の長時間勤務防止との兼ね合いもあって）。
- ・大変良くやってくれている方だが、それはほとんど勤務時間外でやっているから「やや十分」となっている。時間内だけなら無理である。
- ・業務が多岐に亘っておりじっくり取り組む時間の確保が難しい。
- ・長時間勤務をしないと時間が確保できない状況にある。
- ・①～④の全てにおいて量が多いため時間がかかる。
- ・教職員の時間的なゆとりがだんだんとなくなっていることを感じる。業務量と業務の質は年々増え高くなっている。
- ・残業して時間の確保をしないと日常の業務に支障が生じる。
- ・業務が重なることがあり対応が不十分な場合がある。
- ・特にこれと言うものはないが、満足できるかと問われれば十分でないと感じる。
- ・先生方に早く退庁して欲しい思いがあり、また先生方の仕事の様子を見て、短時間で対応したほうが先生方の負担が減ると判断することがあるため。

【中学校】

- ・中学校の場合、授業時数が、980時間が1015時間に増加したにもかかわらず、教員定数の増加がなされていないため、全体的に持ち時間が多くなり、空き時間が少なくなっている。
- ・教科により授業時数にアンバランスが生じており、特に美術・音楽・技術科の教員は持ち時間が少ないため、免外教科をもつことが多くなり、教材研究に追われる毎日となっている。
- ・特に小規模校では、教科によっては専門教員が配置されないことが多く、特に本校では家庭科の教員が配置されていない。
- ・部活動指導に追われていて日ごろは残業をせざるを得ないケースが多々ある。
- ・提出文書の作成も勤務時間外になってしまう。教材研究等の時間の確保ももっと必要だ。
- ・研修会等の出張が少し多いと思われる。
- ・放課後や昼休み等は生徒指導や保護者への対応に時間をかけている現状がある。そのため他の項目への時間がや

や不十分になっている。放課後は部活動が実施されているため、全体での研修職員会や教科部会等を設定する時間が取れていない。授業のない時間に授業の準備を行っているが、日記を読んでコメントを書いたり、採点したり、校務分掌の処理をしたりする時間に追われている。

- ・週時程の中に分掌部会が位置付けられておらず、各個人の負担が大ききように思える。普段の業務での個人的な相談で何とか対応している。また分掌部会を位置付けることによって、教材研究の時間を削ることにもなるのでジレンマを抱える。

- ・①については本校が指定を受けている、他校との共同の研修活動について、常々時間や労力の不足から深まりが足りないと感じがあり2とした。⑤については一部の教職員とはまずまず図れているものの、教職員数の多い大規模校校長の難しさを感じており2にした（なお②は現状としては確保できているが、少しの問題が発生するとたちまち不足に陥る性質のものであり、構造上十分であるとは考えていない）。

- ・1つも十分ではない。授業・校務分掌・部活動等、教職員は優先順位もあり、なかなか充実した対応が得られていない。時間がかからないのにやるが増えており、教職員の健康面において心配しているところである。

- ・教職員との人間関係を構築したり深めたりするための時間が不足している。教員があまりにも多忙なために話しかけることも躊躇することがある。提出文書作成等、必須のものを優先しなければならない状況である。

- ・全ての項目において管理職としては時間があるが、教職員に時間的余裕がないためにその時間が十分に確保できないというこである。勤務時間外に行うこともあって勤務時間の縮減に逆行することにもなっている。

- ・②や④の対応は突発的で頻繁であるため、いたしかたないが対応が不十分にならないように気を付けている。

- ・③は年度当初にまとまって依頼があり、多忙を極める。

- ・部活動の大会や準備、指導に関わる時間が長くなり過ぎる。①②に関わる対応は、部活動の時間が終了してから行うので、勤務時間外に行うことがほとんどである。

- ・生徒指導における保護者対応は、90%以上が勤務時間外である。

- ・学級担任は、毎日1時間はスタンダードダイアリーへのコメント記入に使っており、教材研究、提出書類作成の時間が不足している。

- ・特に小規模校の場合、毎日の授業、生徒のスタンダードダイアリーや自主学習のチェック、コメント、部活動の指導等で時間的余裕が少ない。生徒指導に関わる対応は第一に充てているが、それ以外はなかなか満足のいく時間は取れていない。

- ・用務員の先生との情報交換や打合せ時間の確保がやや難点。

- ・時期により調査・提出文書等が重複すると、他の仕事に手が回らなくなる。

- ・保護者や外部機関との渉外関係が担当となっている。職員とのコミュニケーションを大切にすると、他が不十分になる。

- ・緊急業務にも対応しなければならないため。また、業者や来客、電話等の対応もある。

- ・③は時期により多くて大変なときがある。

- ・勤務時間内では同考えても不可能。

- ・あまりにも調査、報告等事務が多くあったため

- ・勤務時間内では、電話対応、業者対応で終始！

- ・学級人数、生徒の状況から時間的には確保しやすいが、教科で複数、教員がいがないため、一人で授業準備や指導法を考えている。

- ・出張等で不在になることが多く、時間が確保できない。

- ・調査、通達等の文書が多い。文書に目を通すことや文書決裁に相当の時間が取られる。軽減できないか。

- ・放課後の部活動時の生徒の安全管理が最優先される。

- ・本来の業務以外の調査（特に学力調査は事後処理も含め、大きな負担となっている。3種（国・県・市）は不要）。

- ・授業と部活動指導に多くの時間が必要となるため、その合間の時間にその他の業務を行っている。保護者への対応の多くは時間外になる。

- ・2つの学年でT1の授業がある。教材準備・ALTとの打合せ、テストの作成、採点がある。

- ・授業・生徒指導の補佐、多い校務分掌等多忙な日々を送っている。もっとゆったりと業務にあたりたい。

- ・規模の小さい学校は校務分掌が重なっている
- ・保護者対応や地域行事への対応に時間が割かれ、子供たちへの授業準備、教材研究ができないことが多い。
- ・保護者や各種団体からの要望は様々であり、十分な時間を確保して対応できているとは言えない。
- ・教職員のキャリアに関する相談をする時間が日常の中にはほとんどない。
- ・諸アンケート、分析、大量の文書、出張、地域や委員会からのたくさんの要望等、学校として取り組むべき課題も多く1番大切であると思われる上記項目の時間が取れない。
- ・解決、対応に時間・労力を必要とする事案が増えている。相談・対応する体制づくりが急務である。
- ・特に①～③の時間を確保していくために、教職員とのコミュニケーションの時間は少なくなっていく。
- ・部活動に時間をとられ、教材研究等（セルフディベロップメント）ができていない。
- ・勤務時間内は生徒等についての話を職員とできているが、保護者や委員会との対応や文書作成等はどうしても勤務時間外になっている。
- ・現状著しく業務に支障があるわけではないが、十分な時間が確保できればそれぞれ①～⑤の項目について満足のいく対応ができると考える。
- ・特別に配慮を要する児童生徒への支援の方法等。
- ・時間に追われている。土日に学校に来て準備し、平日を乗り越えている状況。
- ・とにかく一人一人に余裕がない。
- ・夕方残ったり、土日に学校に出てきたりして何とかこなしている状況である。
- ・提出文書と生徒指導はとにかく時間がかかる。
- ・次から次にやってくる調査や外部の団体からくる発表や出品等の依頼をこなしているうちに時間がなくなる。学校に頼めば何とかするという考えをやめて欲しい。
- ・臨機応変の対応があるためだがサービス業としてはある程度仕方ないと思われる。
- ・対応件数が多く時間が足りない。
- ・教職員一人一人の授業の持ち時数が多く、空き時間も少ないため色々な業務に係る時間が不足している。
- ・概ね時間を効率よく使えば業務対応ができると思う。生徒指導面や保護者や地域等の対応は丁寧に行うほど時間の確保が難しくなると考える。
- ・授業準備や研修等の時間を十分確保できない。
- ・業務量が絶対的に多い。
- ・何をもち「十分」と考えるか明確ではないが少なくとも①～⑤にあてる時間そのものは圧倒的に不足している。上記の大半は子供のいない時間にあてる以外にない現状。
- ・はっきりと期限のある仕事（提出文書等）を優先させ、またその量が多いため本来最も時間をかけたい授業や生徒指導のための時間が十分ではない。
- ・全体の業務量及び種類が多すぎる。
- ・日常の業務作業等で多忙。
- ・校内のみならず校外での実務（研修科・校長会に関わる職務等）が多岐にわたり、学校にいる時間が不足している。
- ・時間確保の難しさがある。
- ・各教員も含め、日常の業務に時間を取られ時間調整・確保が難しい。
- ・満足の基準は明確ではないが、まだまだやり足りないところはいくらかでもある。しかし時間には限度がある。③については期限のあることでもあり時間を確保せざるを得ない。
- ・様々な校務に関わらざるを得ないため、それぞれに関わる時間が少なくなってしまう。しかしそれぞれを十分にするには相当の教員の増やすしかなくなる。以下の設問も同様。
- ・時間がない。
- ・どの対応についても時間確保はほぼできている（している）が、その確保が勤務時間内にできていないことが多い。業務改善への努力は行っている。
- ・事務作業や部活動指導に時間を取られ、満足のいく教材研究や生徒・保護者との相談活動ができていない現状で

ある。

- ・優先順位を付けて対応しているために、時間不足で十分な対応ができていないときがある。
- ・生徒への対応、保護者への対応、部活動に時間を取られ、教材研究や教師間の情報交換の時間が取れない。
- ・教育課題が多岐に広がり過ぎ、現在の教員配置では全てに十分な対応ができないところがある。
- ・生徒・保護者の対応を優先することから、教職員の相談等が受身になる傾向がある。
- ・自分自身の外出・出張と教職員の授業・生徒指導・部活動指導・保護者対応が度々重なるため、コミュニケーションの機会を確保することが困難である。
- ・時間がない。
- ・校長としてはやや十分だが、担当職員は時間がかかる仕事を熱心にもらって大変であるとする。

(2) 次の項目について、十分な時間は確保できていますか。

- ① 児童生徒理解・子供とのふれあい（休み時間・放課後等）
- ② 自己研鑽の時間（読書、研修会への参加等）
- ③ 土日、祝日のリフレッシュ（家庭でゆっくり過ごす時間・趣味の時間等）
- ④ 超過勤務の振替（PTA や地域の会議、修学旅行引率等による回復措置）

【管理職】 十分な時間が確保できない項目があった場合、その理由をお書きください。

【小学校】

- ・小規模で職員数が少ない分、やるべき仕事の一人当たりの量が多く、平日の研修会は補充の手配がつかないため参加できないこともある。また平日やり残した仕事は土日にやる。超過勤務の振替も、平日はもちろん長期休業においても十分に振替できていない。
- ・夜間実施の会議等は、出席者のサービスになってしまっている。
- ・放課後、スクールバスの運行により退勤時間までの時間がほとんどない。
- ・なんとか十分になるように努めているが、教員の時間外勤務によって確保しているのが現状である。
- ・本校は授業後集団下校のため、放課後を使っての学習等は行わない。宿題や連絡帳等のノート確認は、休み時間を使っての点検が中心となり、子供とふれあいたいがその時間が取れない状況である。40人分のノート点検、その日に返却は空き時間がない担任にとっては難しい。
- ・下校指導後の短い時間を工夫して必要な職員会議や研修会を実施している状況であり、子供と関わり、ゆっくり話をする余裕がない。休み時間も子供と遊んでいる職員は本当に少なく、準備や打ち合わせ事務処理等に追われている。
- ・PTA や地域の会議等は夜間の勤務時間外に行われることがほとんどであるため、回復措置は講せず任意参加としている。実際は仕事の一部であるがこのあたりが教員はブラック企業と言われている所以かもしれない。
- ・教師は心身のリフレッシュと自己研鑽の時間の確保の両輪がないと難しい仕事である。夏季休業中はゆっくり時間が流れるが授業が始まると職員から余裕が一気になくなっていくように感じる。
- ・学校にいる間に自分の時間を持っている職員はほとんどいないと思う。唯一の昼休み時間も子供を指導したり、子供とのふれあい信頼関係づくりのため運動場に出て汗を流したりしている状況である。
- ・スクールバスの発車時刻が決まっているので、放課後の使い方に自由度が不足してしまう。
- ・本校職員のおかげでリフレッシュする時間は十分にとらせてもらっている。
- ・振替も極力行っているが法令の縛りもあり期間内に100%確保できていない。
- ・PTA の会合等が全て夜（勤務時間外）に行われるが、振替を取れる時間的なゆとりはない。地域の会議が置く精選する必要があるが、様々な考え方があり減らすことができない。ただしPTA 役員や地域の方々もボランティアで出席され、地域や学校をより良くしていこうとされていることなので、時間が確保できない理由ではあるが負担とは感じていない。
- ・持ち帰りの仕事も多く教材研究等に時間が費やされ、自己研鑽の時間確保が難しい。長期休業では積極的に研修会等に参加し、自己研鑽を行っているが普段の日は難しい。研修会へ参加して欲しいがそれをサポートする体制が十分でない。地域の行事等も多く、土日にも出ることが多い。
- ・土日は地域行事・会合等のため十分にリフレッシュできる時間ができているとは言い難い。放課後、教職員からの相談や保護者からのクレーム等の電話に対応するためにすぐには帰宅できない。（毎日ではないが）
- ・休日に行われる地域行事に教員の参加を強く求められる。地域との連携の重要性が言われている中なかなか断り切れない。回復措置は、他の教員に迷惑がかかると考えたり、休むとまたその分後で処理する業務が増えたりするので取りづらい。
- ・昨年度は重要文書として番号を付けて受付をした文書だけでも763件ある等、提出文書等事務処理に要する時間が増えている。

- ・配慮を要する児童への対応や保護者のクレームへの対応等、教職員の負担が増えている。
- ・PTA や地域の会議、行事が多すぎる。
- ・少人数であるため研修会に出るとなると教員が足りないから。
- ・少しでも早く帰らせると仕事が終わらないので休日に来てやることになる。
- ・土日に地域の会も多くある上に、市や市教委の講演会や研修に人数ノルマがあったりする。
- ・配慮を要する児童の増加。
- ・困難な生活を抱えた家庭の増加。
- ・個人情報や金銭の管理等手続きの増加。
- ・ネット虐め、防犯、防災等課題の増加。
- ・土日祝日に研修会や講演会があった場合、参加者はほとんどが管理職である。希望は募るが希望がなければ管理職が出ざるを得ない。また地域に関わる会合がいろいろある。そのための振替はとっていない。
- ・①他業務に追われ対応が不十分②③は業務が終わらず、それに対応するため、④夏休みに振替えるようにしているが十分に取れない。
- ・休み時間や放課後等にも伝たちや打合せ、研修が入り、児童とのふれあう時間の確保が難しい。
- ・土日も含め学校を空けることが難しい。学校で仕事をしないと仕事が終わらない状況だ。仕事の量が多いのか、要領が悪いのか。
- ・超過勤務は公務員として当たり前という風潮がある。
- ・PTA の会議等の振替は、夏休みであるし、PTA の夜の部の飲食を伴う会合等、振替はないに等しい。
- ・朝、先生方や児童の登庁登校の時間帯から最後の先生が帰る夜まで学校にいる。さらに文章の処理をしていると毎日かなりの超過勤務になる。
- ・学校規模が大きく部活動の数も多いため、土日等の大会応援も年間かなりの日数になる。
- ・市教育委員会への報告や文書処理等に終わってしまいなかなか十分な時間が確保できてないと感じている。
- ・業務の多さ
- ・「開かれた学校」を目指すほど、子供以外にかかわる業務（地域外部機関）が増えてしまい十分な時間確保が難しい。
- ・出張や校内での文書処理等が多く、校長として休み時間や放課後に子供とふれあう時間はとても少ない。
- ・夜の会議や土日の行事参加等、多忙な日々でありリフレッシュする時間はなかなか取れない。
- ・振替で帳尻を合わせても疲れは取れない。管理職が休日に地域行事等に出なければならぬ日数は大変多い。
- ・外部の会議が多い
- ・小規模校にとって多くの出張に出すことは難しい、分掌上同じ職員が何度も出張することがある。
- ・提出書類の作成、突然の調査依頼等の処理業務が多い。休日に地域の行事出席、校舎の見回り確認等を行っている。
- ・日々の仕事に追われ、自己研鑽までは時間がない。
- ・スクールバスの時間の関係で放課後の時間が少ない。
- ・中休み、昼休みは本来休憩時間である（でも先生方は児童と多く接している）。
- ・長期休業中にまとめてとっている。
- ・振替日を指定しても、急用が入り実施できないことが多い。
- ・多忙。土日は意図的に休むことがある。
- ・どうしても行事や会議が重なり、予定の調整に苦慮している。
- ・1日あたりの授業時間は5～6時間であり、授業数を確保するため、学力向上のためには週末や祝日の会議等の振替は難しい。どうしてもボランティアになってしまう。
- ・夜も文書整理や会議、ケース会議に追われ、土日のいずれかにほぼ毎週出勤し消化している。土日のリフレッシュはできない。
- ・出張が多く学校を留守にしていることが多い。PTA の会議はほぼ夜に行われているが振替はない。
- ・基本的に4のPTA や地域の会議等の回復措置はしたことがない。

- ・PTA や地域の会議に関しては振替の意識がない。管理職手立ての範囲内という判断をしている。
- ・多くの業務が教頭に課せられているので十分な時間が確保できない。
- ・行事等による多忙。
- ・PTA の会議や地域の会議や様々な会。地域の行事は夜間だったり土日に開催されたりしており、校長として出席するがその振替は全くない。
- ・代わりの日に休もうと思っても仕事がたまるので休めない。
- ・週休日における PTA や地域行事については、基本的に回復措置はとっていない。
- ・PTA や地域の会議等に出席した場合でも回復措置をとる余裕もなければ、土日も学校へ出勤しないといけないくらい多くの業務が重複している状況である。
- ・PTA や地域の会議に夜出席した場合、その回復措置をとってやる時間的余裕はない。
- ・休み時間や昼休み時間も仕事に追われ、子供とのふれあいをすることがほとんどない。
- ・報告等に追われている。
- ・PTA や地域の行事での振替等は考えられない。
- ・①精選した会議への参加。 ②児童が目の前にいて指導する必要がある。
- ・超過勤務による回復措置を確保する時間がない。
- ・④制度上の措置がない。
- ・学校を空けると提出文書等が回らず困ることがあり、また登校した際に多くの仕事を薦めなければいけなくなってしまう。
- ・振替日は夏冬季休業中でないといけない。
- ・6時間授業の日は、児童下校後は30分しか時間がない。その時間だけで様々なことへの対応が難しい。
- ・研究会や研修会等への参加が多く、児童とふれあう時間が足りない。
- ・日常の業務に余裕がないのでそのしわよせが休日にきている感じである。
- ・地域の行事や業務が終わらないため休めない。
- ・来客対応や夜間の地域会議。
- ・放課後等に個別指導の時間をとりたいと思っても、バス通の児童もおりなかなか時間をとることはできない。
- ・業務量が多すぎる。
- ・前述の記載通り、全てにおいて時間が確保できない。
- ・放課後に残して学習を見たりする時間の十分な確保と人員の確保ができない。また1人で下校させることができないため補習するのに保護者の許可が必要である。
- ・教育課程の時間確保でいっぱい。土日も行事が多い。
- ・一つ一つの事例に多くの時間が必要であり、自分で自由になる時間の確保が難しい。
- ・出張、会議等が多い。
- ・平日超過勤務しても、週休日、休日に出勤しても、十分な時間の確保が難しいと感じる。
- ・④地域の会議は土日祝にあったとしても振替はなしの状態である。修学旅行等宿泊学習の勤務振替は、現実問題書類の通りには取れていない。
- ・教職員は土日の対応が多く、回復措置は取れないのが現状である。
- ・文章作成のため授業参観や子供とのふれあう時間が不十分である。
- ・週末に1日は勤務が必要なくらい平日の時間が取れない。小規模校のため、また業務も学担をもっているため自分自身の仕事の幅がかなり広いと感じる。
- ・部活動やらなくなったものの、PTA や地域の会議に参加する等振替できない仕事が多い。
- ・業務が多く子供と放課後ふれあう時間がない。土日に仕事をするため学校に来る職員も多い。振替は長期休業で対応する。
- ・勤務時間内に仕事を終わらせるためには休み時間も事務仕事等をする事になり、子供たちとふれあう時間が十分確保できないことがある。
- ・やることが非常に多く確保できない。

- ・やることが多いため時間が確保できない。
- ・④について正式に振替が取れる場合とそうでない場合がある。
- ・やるべきことが多い。時間がない。
- ・生徒指導事項や教育相談に追われることが多い。また授業の準備等にも時間が必要である。
- ・管理職の場合学校規模によって違ってくることを経験上感じる。理由と言うよりどうしても仕事優先になる。
- ・④地域の会議等への出席については当然であり、管理職手当に含まれているという考えが市町の教育委員会にあり、回復措置は必要ないという考えがある。
- ・平日退校時間を早くするとどうしても土日に仕事をしないといけなくなる。PTA や地域の会議等の振替は取ることができない（授業日に休むと他の教員の負担が増える）。
- ・長期休業有の自己研鑽の時間はある程度取れるが、通常授業日には良い研修会があっても教職員が参加しにくい。教職員数に余裕がないと感じる。
- ・勤務時間外のような会に先生方はボランティアとして参加してくださっている。
- ・土、日曜日等、休日であっても出なければいけない会がある。
- ・休日に教育関係団体等の諸会合、地域行事や団体関係の仕事等があり多忙。
- ・対応すべき事案が意外と多く時間が十分確保できない。
- ・教職員の意識について、パラダイムシフトしなければならない時期が来たと感じる。
- ・放課後は(1)の設問にあるような時間に充てられていることがほとんどである。
- ・地域行事や会議への参加によるもの（地域との連携ということから考えると立場上当然）①②③については自己責任。
- ・日々の残務処理のため、土日に職場に行くことが多くなかなかリフレッシュできないでいる。
- ・地域の各種協議会（公民館、人権同和教育、健全育成）等の会合や地域行事が休日や夜間に設定されている。校長としてできる限り参加するように努めている。
- ・学級担任をしているため、子供たちの下校する16時前後まで教頭の仕事は難しい。見通しを持って効率的・計画的に仕事にあたりたいが今の力では処理が遅れがち。
- ・事務処理に多くの時間を要する。
- ・校務の量や会議の回数・時間。
- ・子供が共にある現場なので安易に人に任せて休めない。
- ・他の仕事があり振り替えることが難しい。
- ・PTA や地域の会は土日や平日の夜が多く、振替は確保できにくい。
- ・(1)に関する量が多いため。事務職員の未配置により事務の仕事が多い。
- ・週休日等に地域行事が多いためゆっくり時間を取ることができない。また校務で参加した場合でも他の教職員が勤務しており校長1人だけが休むことは難しい。
- ・校務の円滑な推進のために②③等は後回しになる。
- ・土日、祝日の行事（地域）（学校）のためリフレッシュまでには至らない。
- ・外部との対応、諸々の地域行事の参加等。
- ・業務が多岐に亘っておりじっくり取り組む時間の確保が難しい。
- ・やることが多くできることは何とかしている状況である。
- ・優先順位を考えると仕事が第一になり自分のことは後回しになる。

【中学校】

- ・土日は部活動指導。
- ・教頭職の柱は、施設管理とサービス管理となり、その双方に関する業務量が年々増えており、生徒指導までは手が回らない状況にある。
- ・毎日やり残しがないようにして帰宅すると、自己研鑽に当てる時間が平日では22:00時以降となり、当てる時間

が少なくなる状況である。

- ・PTA活動、地域協議会活動は、勤務時間外、更には土、日曜日にもたれることもあり、その振替は、どうしても夏休みとなってしまふ。
- ・特に土・日曜日は緊急連絡があるのではないかと思われ、気が休まらない状況である。
- ・放課後や土日に部活動があるため、ほとんど教職員にはゆとりがない。管理職としては、部活動申し合わせ事項に従い、リフレッシュの時間を確保するように促している。特に超過勤務の振替においては、夏季休業中にとるよう助言している。
- ・超過勤務の振替等と言っているのはキリがない。職務の特殊性から教員は時間外手当が支給されず、一律に教職調整額をいただいているのだから、それでいいのではないか。
- ・生徒指導上の諸問題、保護者からの苦情等への対応には相当の時間外での打合せを要する。
- ・振替等も帳簿上では、取得、振替えてはいるが、実際には、対応、打合せで実質的なリフレッシュになっていないと思われる。
- ・昼休み、放課後ともに各種委員会、体育祭、文化祭、宮チャレ実行委員会等があり、気になる生徒への声かけ、コミュニケーションは十分と言えない。
- ・部活動の監督という立場の教員は、土日、祝日とも休養は取れていない。ただし、外部のクラブチームで練習し、中体連の大会への出場する選手の引率だけの教員は、②③④とも十分であり、不公平感が悪影響である。
- ・各種研修会に参加するためには、授業を他の日、時間に振替する必要がある。
- ・土日は部活動指導が入るため、十分なリフレッシュの時間確保はできない。
- ・勤務時間、特に勤務終了時間が守られるのは、長期休業中だけとなっている。
- ・教員の勤務時間は超過することが当たり前になっている。
- ・中学校の場合、部活動の指導でほとんどの教員が平日 19:00 まで、土日のいずれか、祝日にあたっているの、本人にとって自由な時間はかなり少なくリフレッシュや自己研鑽にあてる余裕がない。
- ・指名の研修会への参加はできているが授業のある日には、自主的な研修会へ参加する時間や日が取れない。そのため長期休業中と思うが校務等で自己研鑽の時間が十分に取れない。土日、祝日に部活動が実施されているため、1日を自分の時間にすることができていない。また学校に来るとやり残した仕事を片付けようとするため、結局学校にいる時間が長くなっている。休日の出張や出勤等の振替は行っているが、授業日の超過勤務の振替の実施はできていない。
- ・部活動については多くの報道もされるようになったが、本質的な問題は「優秀な教員に業務が集中する、生徒のためを考えるとそうせざるを得ない」という不平等さにあるように思う。世間には言いにくい逆説ではあるが、いわゆる「指導に課題がある教員」が結果的に結構暇である。
- ・日々の授業や仕事の準備、地域や保護者向け文書の作成、校内研究や指導訪問の準備や現行の執筆、部活動に追われて自己研鑽やリフレッシュの時間が取れない。
- ・日々の生徒の日記や家庭が学習ノートのチェック、学級だよりの発行、教材研究、部活動指導にかかる時間が多く、上記の項目に取る時間がまず削られている。④は労働時間に関わってくるので可能な限りは応じている。(校長の業務として)
- ・夜間の会合や土日の地域行事等が多く、自分の時間がもてない。
- ・校内巡回のため、読書等の時間は取れない。また、学校を空けるわけにもいかず、研修会の参加は見送っている。
- ・勤務時間が長くなるため、他の時間を十分にとることは難しい。
- ・休日出勤・時間外勤務で業務をこなしている。
- ・出張等は必要最低限のものにしている。なるべく学校に残っているように心掛けている。
- ・平日に終わらない仕事を、土日を使って処理することが多い。
- ・人員が十分でない中、自分だけ振替を取りづらいため長期休暇中にとることが多い。
- ・4月～6月は各種事務報告等が多く、上記のための時間確保はほとんどなかった。
- ・振替を取れない教師が多い。
- ・土日も含め学校を空けることが難しい。

- ・授業日における振替はなかなかとることができない。
- ・振替はあっても、休めない（休まない）現状。
- ・現在の部活動体制では当然そうなる。
- ・職員の超過勤務の改善が難しい。部活動の在り方を根本的に変えていく必要がある。
- ・夜間の会議・休日の地域の行事等への参加が多く、特に管理職の負担が大きい。
- ・学校運営協議会、組織体制がまだまだ不十分で機能しきれていない。
- ・子供とのふれあいはどうしても後回しになってしまう。
- ・地域とのつながりが強く学校が地域の行事に参加することが多い。学校行事ではないため振替をする法的な根拠もなく振替ができていない。
- ・超過勤務の振替については十分にできていないが、できる範囲で回復に努めている。
- ・部活動をしている先生方がとても大変である。
- ・超過勤務の振替は基本的にない。
- ・今は校長会の役員をしている。学校の仕事に学校外の仕事が多いために十分な時間をあてられずに困っている。
- ・個人の満足につながっているか疑問である（主観的）活動内容・時間にバラつきがありそれを是正する方策が見当たらない。
- ・土日祝日のリフレッシュについては、各個人によりまちまちであろうが部活動指導で十分な時間確保ができていない職員が多い。
- ・ともかく時間がない。
- ・部活動指導のため③は厳しい状況である。それ以外では（1）と同様、他業務の時間確保のために少なくなってしまう。
- ・やはり部活動顧問は時間がない。
- ・土日は部活動の指導もあり、保護者の対応等夜しか対応できない。平常日は授業もあるので振替もできない。
- ・部活動は勤務時間外。修学旅行の回復措置は土曜日と抱き合わせられるよう計画。
- ・外での会議（出張が）多いためと感じる。
- ・夏季休業中においても研修会等も結構あるのでなかなかリフレッシュは現時点では厳しい。
- ・仕事量の多さ。
- ・出席の要請の数が多く時間的に窮屈になっている。
- ・他の業務に忙殺される。
- ・職員に無理を頼むわけにもいかず結局自分で対応すると振替等は取れない。
- ・土日の行事が多いことはリフレッシュにつながりにくい。会議は増えることはあっても減ることは極めて少ない。
- ・日々の校務により研修の時間や休みの確保が難しい。
- ・校長としては平日の出張が多いこと。また夜間や休日の会等もあるため精神的なゆとりがなかなかもてないのが現状である。
- ・生徒指導面の様々な問題が起こる背景に生徒一人一人に寄り添う時間の確保は必要であると思う。また教職員としての資質の向上を目指すために研鑽に時間が欲しい。
- ・勤務時間の関係で放課後にゆとりがない。
- ・およそ公立中学校において学校行事、部活動をこれまで同様に行っていればこれらの時間の確保は不可能である。
- ・立場上、土日の地域行事仕事への出席が多くほとんど休みがない。
- ・全体の業務量及び種類が多すぎる。
- ・業務の状況の改善がされていない。
- ・多種多様な業務により時間の確保ができない。
- ・地域連携に賭ける時間が不規則かつ膨大である。
- ・業務のスリム化が必要である。学校だけで考えるのではなく行政として市全体で考えなければスリム化は図れない。教育効果に視点をとらえて話し合っていく必要がある。
- ・土日においては、PTAの活動、部活動等の応援に出る等ゆっくり休める日が少ない。

- ・生徒は部活動や地域行事、ボランティア活動等土日祝日も活動している。
- ・PTA や地域の会議における回復措置は行うつもりはない。
- ・日々学校や地域行事の対応が大変。勤務時間外の勤務がほとんど。(部活動対応等)
- ・特に土日については、部活動担当者は休む時間の確保が難しいのが現状である。
- ・職種により、超過勤務という考えはあまりもたないのではないので、自然とリフレッシュの時間が削られているというのが現状。
- ・土日は部活動で休みが取りにくい。平日に行われた行事や地域（休日）行事はボランティア扱いとして勤務として扱っていない。
- ・土日も部活動指導で精力的に生徒に関わっている現実がありリフレッシュまではいっていない教員が多い。身体的よりも精神的な疲労の蓄積が大きい教員もいる。
- ・休み時間、放課後は事務処理をすることが多い。
- ・PTA や地域の会議は頻度が高く、その振替は不可能である。生徒も時間に追い立てられておりふれあう時間はもちにくい。
- ・諸会費で外出・出張することが多いために時間の確保が難しい。
- ・PTA や地域の会議を時間外に行った場合でも回復措置は取れない。
- ・そういうものだと覚悟している。

【管理職】業務改善や十分な指導体制づくりには、どのような働き方の改革が必要だと考えますか。

【小学校】

- ・外部提出のアンケートや諸調査、回答が多い。また、学校への諸団体からの協力要請、募集の取りまとめ等で、特に窓口になる教頭や係の負担がとて大きい。応募や申込は各団体に直接お願いしたい。
- ・多様な児童（保護者）に対応するためには十分な人員の確保が不可欠と考える。また、今いる人員で効率的に働くためには、組織を活性化させ、チームで対応することが大切だ。
- ・「断る」ことが苦手な学校であるが、時には協力が難しいことを伝えたり、仕事を思い切って削減したりすることも必要である。
- ・勤務時間の短縮をどんなによびかけてもこなすべき業務の量が減らない限り、かえって苦しい状況が生まれてくる。30人を越える学級全クラスに補助職員1名（テスト採点や学級事務の対応もできるような）が配置されるようになれば大きな改善が期待できる。
- ・現時点の学校現場の危機的な状況を大きく伝え、行政や社会、家庭が過度の負担を強いることのないような社会的ムーブメントが起きなければなかなか改善は見込めない。これらは学校が発信元ではなかなか社会の同意を得られない。
- ・業務内容や方法について、先生方は「何とかしてほしい」とは思っても、具体的にどうしたらいいのか考える余裕さえないのかもしれない。先生方は真面目な方が多いので「たかさんの仕事」を「時間をかけて」行うことや前年度と同じように行うことが当たり前になっている。管理職が本気で改善したいんだという意志を見せると共に何度もアンケートをとる等して変えてもいいんだという気持ちを先生たちにもってもらおうことで積極的に改革を進めることができるかなと思う。
- ・学校として時間を費やしたい、費やす必要があると考えているものと、外部からの依頼等により時間を費やさなければならないものがあり、結局はその両方をやることになってしまうので勤務時間内では対応できない。
- ・質の高い教育活動を求めていくと、時間外の勤務も仕方ないと慢性化してしまい今後の授業時数のこと等、1つの学校だけで改革していくことに無理がある。
- ・外部からの学校への要望、協力要請、イベント協力、募集（作品コンクール等）、事務局業務等の要請負担が多い。安易な要請がないようにイベント参加協力・募集等は学校を窓口としない。
- ・学校教育が本来担うべき学習指導、児童生徒指導、学級経営等の本業に十分専念できるように十分な人材確保（定数増や幅広いスタッフ活用）が不可欠である。
- ・学校現場としても行事、活動内容の精選、効率化を行い教育行政側もそれが実現できるようにバックアップしていく。
- ・校務分掌の負担を軽減できるよう、また教材研究の時間が勤務時間内に十分取れるよう、専科の教職員を配当する等して各学校の職員数を増やす。また教職員調整額ではなく残業手当の制度を導入することで、学校現場ではなく教育行政の担当者が危機感をもって学校の業務改善のために県や市が何をすべきかを考えるようにする（学校に何かさせて改善を図るのではなく業務の量を減らすには県や市が何をすべきかを考える）。
- ・時間外にいつまでも学校に残って仕事をするをよしとしない雰囲気を作り、限られた時間に効率よく仕事を工夫して進める能力を高めることも必要ではないか。しかし児童生徒のいじめ等の問題の解決（保護者対応も含め）等、やむを得ない状況が毎日のように起こっている学校もある。仕事全体の量を減らし1人が負う量を減らすためには人的環境にゆとりをもたせるかしかないと考える。
- ・学校にいろいろな業務をもってこない。職員の労働時間の正常化（法の範囲内）を図るためには前述のことに加えて、学校外行事（地域等）をなくす他はない。英語の時間を入れて毎日ほぼ勤務時間いっぱいの授業をして、教材研究、パソコンデータは持ち帰れない。PTA や地区の行事への参加、その準備等…。何かを大きくカットしないことには「改革」はできない。
- ・現在でも過労死ラインなのに、新学習指導要領では外国語活動が1時間増加と、指導時間、指導内容の増加と担任は、教材研究への負担が増えるばかりである。担任の負担を減らすには、英語専科の教員を採用し、各学校に配

置する等しなければいけない。

- ・どの業務も重要であるが、その中でも軽重をつけ、時間のやりくりを考える。教頭が2人いるといろいろなところで効果があがる。
- ・事務職員と教頭の役割分担の見直し。
- ・1学級あたりの児童・生徒数減と並行し技能教科の教科担任（少なくとも週5時間）。担任にゆとりが取れていると、その分子供に目が届きより細かな学習指導・生徒指導が可能となる。また急な出張・病休・年休の補教も授業のやりくりができ、管理職が補教にいかなくてもよくなる。受動的な児童との関りではなく主体的な関わり。授業の補助・指導・参観が可能となる。ものではなく人を相手にする仕事なので制限がない。具体的に授業数を減らすことをしていかないと無理である。
- ・教員が仕事にやりがいや成就感をどれだけ感じているかをしっかり把握することを大切にしている。ただ単に時間の長短ではなく心の充実感によってストレスの現れは違ってくる。達成感を感じられるように支援、言葉かけ等をするとともに、1人で背負うことのないようちょっとしたことでも相談できる愚痴を言える職場の雰囲気づくりと管理職の温かみのある人間性が求められていると痛感している。
- ・学校現場において働き方改革をするためには、教員や事務職員の人数の確保が最優先される。僻地・小規模校でも事務処理は同じように処理しなければならない。僻地・小規模校は教員の人数が少なく、1人の分担は測り知れないものがある。また児童が帰宅してから教材研究や文書処理をするため物理的に不可能である。教員増の配置（複式解消の加配教員）や事務職員の配置をお願いしたい。
- ・6校時まで授業がある日は児童の下校が16:00を過ぎる。その後学級事務や学年の打ち合わせ、授業準備等をしていけば、空き時間のほとんどない小学校での超過勤務は防ぎようがない。「働き方改革」と言って時間的なことだけを追い求めると教師のやる気ややりがいという心の問題が残るような気がする。法改正を含めた企業や行政とは違った働き方改革が求められていると思う。
- ・時代の変化に応じて教員も意識を変える必要がある。「ノー残業デー」に批判的な方もいるが、ワークライフバランスを考えて取り入れることも大切である。「長時間働くことや休まないことがいい」という考え方からの脱却等、今の時代に合った働き方をすることが重要。学校に求めるだけでなく、行政が真剣に向き合わなければ改革はできない。議会对応のための緊急調査が行われるのであれば議員の意識改革も必要。
- ・学校に届く文書が多すぎるので必要か、そうでないかをチェックする機関が必要。教員数を増やして欲しい。調査を減らして欲しい。
- ・教職員・家庭・行政・地域が行うことの住み分け。学校には様々な団体がかかわっているが、それらの学校への要望を全ては受けいれられない。教職員の業務整理、学校の中での役割分担（会社でいう部署）による人員配置をする。
- ・教育活動の精選のための意見の共有をする。
- ・各種団体、関係機関から調査や作品募集が以前より多くなったような気がする。子供の作品を利用して盛り上げる意図は十分にできるがこれを何とかできないものだろうか（学校が取りまとめるやり方では各主任に負担がかかるので各家庭に任せるとか）。とにかく教職員の数を増やして欲しい。職員室に帰ることのできる教員が少ない。
- ・文部科学省が平成30年度に概算要求で、教員増員、教育支援員の採用等を打ち出していたが、その前に少人数学級の実現が必要であると思う。文部科学省が進めようとしているインクルーシブ教育においても、現状では特に支援が必要な子供にも十分に関わることができない。個に十分関わることができる体制づくりが必要である。また事務職員、養護教諭等、1人職の教職員の複数配置が必要である。校内で校務分掌の見直しや学校行事の精選等いろいろと工夫しているが、実質的な仕事量が思うように減らない。人を増やせばいいということではないがまず第一歩はそこである。
- ・教員が本来すべき業務を明確にし、専念できる環境づくりが必要である。また近年会計処理や個人情報管理の厳正化が求められており、その時間と手間が教員の大きな負担となっている。それらの業務を支援する人材を確保し、教員の学習指導に関する業務、生徒指導・生徒理解に関する業務に充てる時間の確保が急務である。部活動に関しては自身の意識改革も必要である。中学校においても社会体育への移行を検討する段階である。
- ・仕事量の削減が何より必要だと思う。週総時数は決まっているので、その中で効率よく指導ができるよう教科等

のバランスをよく考えて決めてほしい。

- ・業務縮減（やめる勇気、減らす優先順位を決める）、教員の意識改革。
- ・仕事を減らす、人員を増やす。すべてを学校に任せるのではなく、社会全体で〇〇教育なるものを分担する。
- ・個別学習指導や部活動指導等一部の教員が負担とならないように、計画準備していきたい。
- ・教職員の意識改革、長時間労働は好ましいものではないという認識、学校業務を選別し、地域や行政に任せられるものはお任せする。本来、学校がやるべき仕事に専念できるようなサポートがほしい。
- ・業務の量が減らない限り、現場の教員の「働き方改革」だけでは対応できない。悪い言い方だが、仕事はほどほどに（手を抜く）するしか超過勤務は削減できない。根本的な解決のためには「人を増やす」（予算を増やす）ことしかない。教務（本務者）は自分の授業と学級経営に専念でき、その他の T2 や部活動指導等は部活動や雇用されたコーチに任せる以外に方法はないと考える。そのための教育予算の確保をぜひお願いする。そうでなければ教員の超勤問題は絶対に解決できない！
- ・そもそも「働き方」の問題として扱うことに無理がある。文科省主導でドラスティックに制度改革しないと何も変わらない。現在の枠組みの中での改革は絶望的に難しい。この状況を放置すれば優秀な人材はどんどん他の業種へ流れてしまう。国家的危機という認識が政府に必要。
- ・小学校の場合、余剰人員不足と思われる。担任が年休等で不在の場合、補充の先生がほとんどいない。よって、担任は心おきなく休めるという雰囲気が作りづらい。教員の定数を増やしてほしい。
- ・学校現場で働く人員増。
- ・まず人材確保が必要だと思う。校務分掌を受け持ち、職責を果たせる職員が十分にいないと、一人あたりの業務量が増大している。平日、残業しないで帰宅するようにしても仕事を持ち越し、土日た祝日にやることになる。一人の業務量を減らしていかなければいけない。
- ・教職員配置の見直し、提出文書等の簡略化。
- ・教育委員会で情報を共有していれば、学校に何度も同じような調査を依頼せずに、一度提出された調査結果を活用できるものがある。要求されている教育の質を維持して業務改善をするのは難しいが、出張や研修が少なくなれば時間的な点で少し改善が図れると思われる。
- ・忙しくてもやりがいを感じれば（子供たちのためにと充実感や達成感をもつことができれば）負担を感じないと考えます。教頭としては教員が一人がかかえこまない職場づくりをすることが重要だと思う。意識を多忙感から充実感へと変えていくことは教頭の役目だと思う。
- ・増やす仕事があるだけで、減らす仕事がない。さらに職員数をもっと増やすことが必要だと思う。
- ・子供たちの教育にかける時間をしっかり確保して、先生方の負担を軽減させるには、それ以外の仕事（報告文書・会計事務等）をいかに効率的に行うかだと思う。行政は IT 等の活用を率先して取り組んでほしい。
- ・現在行っている業務内容の見直しと削減。併せて学校支援ボランティアや外部機関を積極的に活用する等チーム学校の考え方を取り入れる。自分のペースで働ける環境が整うことでス取れスは随分軽くなるのではないかと感じている。
- ・業務内容の根本的見直し。
- ・地域社会との分業制、専門家の積極的導入。
- ・業務のスリム化、人材の確保、教員数の増。
- ・業務内容の精選。
- ・スクラップ&ビルドを徹底する。
- ・教頭2人体制にする。主幹教諭の比率を増やす。学校教育法が改正されたが、指導教諭は配置されていない。各校に配置する。
- ・仕事が多すぎるので、調査への回答等精選する必要がある。一人一人の抱える仕事を減らし、ゆとりをもって全職員が足並みそろえて学習指導、児童指導にあたりたい。
- ・教員定数の見直し、学級編成基準の見直し、小学校全学年 35 人学級の実現。
- ・正規採用で校務分掌を担える職員を増やしてほしい。教職員の配当基準を見直し、教員を増やしてほしい。学校にも労務管理の考え方を導入し、労働時間を抑制すべきである。

- ・教員数を増やす。
- ・職員の増員。
- ・職員の中で個人的に負担が多くなならないようなバランスが必要。市採等への対応は時間だけでなく、業務内容も管理が必要。
- ・業務について、スクラップを積極的に進めていく。
- ・仕事の精選をする。単学級の場合他校との連携を密にし、教材等を共有できるようにする。
- ・教員の勤務実態とかけ離れた「給特法」を廃止し、勤務時間の管理及び時間外勤務（残業）への手当てをしっかりとる。
- ・休日勤務をなくし、十分な休養が取れるようにする。人員の配置を手厚くする。非常勤ではなく常勤者を増やす。児童生徒にとって本当に良いことのみ行い、それ以外は業務のスリム化を図る。
- ・業務改善、指導体制づくりのどちらをとっても現場に配置されている職員数が不足しているのが現状であり、改善は難しいと感じている。また、教員の社会的地位の低下、給与水準の低下等とりまく環境が良くならなければいけない。ただし、現場の教員は恵まれているとは言えない環境で必死にがんばっている。
- ・学級定数を30人以下にする。学級の処理時間の短縮、教職員の増員、保護者対応の弁護士配置。
- ・研究に取り組むことが出来る体制。教科担任・主任の充実。
- ・低学年の先生にも空き時間ができるような教員の増員が必要。高学年では教科担任制をすることで、教材研究の種類が激減され、専門性が増す。
- ・ある程度、強制的に時間になったら退勤させるようなことをしないと早く帰らないと思う。そのためには、校務の精選、スリム化を図らないと難しいだろう。まず、学校の指導体制は維持しつつスリム化を全職員で検討することから始めたい。
- ・図工、音楽、英語科においては、専科の教員を増やすことで空き時間を増やす。調査・報告書を減らす。
- ・放課後の事務時間を増やす為に、業務改善、日課表の改善等、総合的な改革が必要である。
- ・職員の意識が変わること（勤務時間を意識、時間内の効率性を増やす意識）、授業時間の減（教員の配置人数の増）。
- ・学校、家庭、地域との役割分担を明確にするとともに、事務職員や部活動指導員等の人材の確保が必要。教育調整額4%を引き上げる時期がきている。時間外労働時間の上限を設定することが歯止めにつながると思う。
- ・事務の共同化、各種調査の簡略化等、業務のスリム化が必要。教員が教材研究する時間の確保のため、人員の確保や一日の授業時数の削減が必要。
- ・校務分掌（体制）の見直し・改善と教職員自身の有効的な活用意識の改革が必要。
- ・新学習指導要領に対する授業時数の確保で十分な児童生徒理解とふれあいが不十分である。
- ・フレックスタイム制のような個別対応の勤務時間。
- ・事務の軽減、地域や外部の力を活用、教師の使命は、授業が第一であること。
- ・授業や様々な校務に対する支援ができる職員を配置すること。
- ・まず学校に人的配置を増やして欲しい。特に特別支援に関する指導については人が足りず担当者の負担が大きい。調査等はいろいろな部署から依頼があり内容が重なることがある。データを共有化して欲しい。そういうことから仕事量は変わると思う。
- ・国、県、市レベルのアンケート等の内容を精選する。（事務業務の削減）教員の定数を増やし1人あたりの業務量を削減する。（子供と向かい合う時間の確保として）市教研の出張の回数を半分以下にする（又は小規模校の場合は2回に1回出席等の措置を行う）。
- ・事務処理（調査）の削減。
- ・常に業務に追われている感覚にならないよう、メリハリのある業務遂行ができると良いと思う。
- ・組織の充実。役職等のバランスの良い配置。
- ・教員が自らの時間管理をもっと上手にマネジメントする力が大切。ただだと仕事をしないことが大切。
- ・仕事が多すぎる。もっと授業に集中して勤務できるように教員数を増やして仕事を分担しなくては駄目である。将来教員を志望する若い人材がいなくなる。
- ・調査・報告文書の削減。

- ・ 人員の増員（チームとしての学校）。
 - ・ 職員数を増やす等一人一人の業務を減らし、授業に集中して取り組むことのできる環境づくり。
 - ・ 地域や関係団体への管理職の参加依頼が多い。参加なしでも影響がないものも多数ある。精選していくべきである。
 - ・ 効率的な業務の進め方はどうあればよいか、意識付けを職員にさせる。
 - ・ 新たな取り組みをする場合はスクラップする組織はないか必ず検討する。
 - ・ 配慮の必要な児童、保護者が増え、また教職員の業務も増える一方である。大胆なスクラップ&ビルドが現場で必要とされていると思う。
 - ・ 学校のやるべき仕事量をとにかく減らすこと。入って来るばかり（ビルド）で消去（スクラップ）ができていない。
 - ・ 行政と学校がもっと連携すべき。
 - ・ 校内でのオープンデータ流通環境の整備。
 - ・ 時間、人、お金の確保。
 - ・ 人員の確保。
 - ・ 職員の職務内容の整理とその周知。全国一斉での実現。
 - ・ 教職員定数の大幅な増員。業務内容及び時間外の地域、保護者対応への人的措置。
 - ・ 学校のみならず行政、各種団体での対応。体制づくり。
 - ・ 学校内での組織的な対応（1人1人の意識改革を含めて）、行政側の具体策の実施（特に人的な補充、出張や提出物の精選）。
 - ・ 教職員数を増やす。
 - ・ 業務を整理し簡素化する。
 - ・ 教職員数を増やし小学校も教科担任制にする。
 - ・ 職員を増やす。
 - ・ 報告文書が多すぎる。
 - ・ 仕事の平準化。
 - ・ 校時程、週時程の改善。
 - ・ 研修は大切だが出張は減らす。
 - ・ 教育課程の改善、見直し。
 - ・ 学校でやるべきこと、家庭でやるべきこと、地域でやるべきことを明確にする。
 - ・ 閉庁日を設定する等メリハリのある勤務ができると良い。
 - ・ 教員一人一人にかかる業務の軽減が必要である。
 - ・ 教育内容の厳選（根本が変わらなければ今後なお一層厳しい状況が生じる）。
 - ・ 各種業務の精選及び簡素化が必要。
 - ・ 学校に求められる報告文書や調査については、各課室、他部局で情報共有し最小限に抑えて欲しい。
 - ・ 教育課程編成時に見直しする際に不要な行事等を廃止したり、効率もある行事計画を立てたりしている。
 - ・ 会議の精選を図り児童と向き合う時間を多くする。
 - ・ ①学校の人的拡充（指導業務と事務業務の明確な区別）、②指導業務の内容を縮減できるような法的措置。
 - ・ 1クラスの児童の定数を20～25名に少なくする。また専科教員を導入して、生活の記録等の空き時間を利用し返事を書くことができるようにする等人的な余裕が欲しい。
 - ・ ①学校がこれまで行ってきた業務をゼロベースで見直す。②学級担任の荷重をへらすため加配を増員。
- 調査への回答が多く、また地域へ出向く会も多いためそのような面での見直し、精選が必要。また小規模校への人員の配当を考慮して欲しい。調子を悪くした職員がいたり出張が重なったりするときの対応が大変である（人が足りない）。
- ・ 市教委、県教委、その他の団体等へのアンケート、報告等を減らす。
 - ・ いろいろな物事を進める場合、軽い気持ちで学校へ依頼する組織、団体が多すぎる。

- ・地域対応の分担（管理職）、 地域行事への輪番出席（一般職員のボランティアだが負担軽減になる）。
- ・児童と向き合っている時間が長いので、授業時数を減らさないと根本的に難しいと考える。業務改善や指導体制づくり。働き方改革等きれいな言葉を並べてもそんなに変わりようがない。
- ・保護者でも地域でも、また教育機関に関しても年々学校に求めるものが多くなっているような気がする。それらの考え方を改めること。また人数を確保することが大事だと思う。
- ・新しい何かを実施する場合は古いものをしっかり削減できる状況になってからにして欲しい。このままでは業務が増えるばかりである。
- ・業務量を職員にできるだけ均等に割り振る。
- ・業務内容の精選、教職員定数及び加配の増、校外行事、出張等の見直し（多すぎる）。
- ・調査等学校と直接関わりのない業務を失くして欲しい。教職員の人数を増やして欲しい。
- ・1人で抱えている業務が多いので教職員を増やし分業化すると業務の量を減らし、質の向上を図ることができる。
- ・時間を増やせないで人員を増やす。学担は国算道学活+ α とし、他は専科とする。専科の先生が副担として学級業務を2人で行う。そんな財源が確保できたら理想的だと思う。
- ・学校行事をゼロベースにして、まずは授業のための時間（教材研究の時間）をしっかりと確保したい（厳選しただけ）。
- ・校務分掌の平準化を行い均等な業務になるようにする。
- ・調査、アンケート等の対外からの依頼文書が多いので精選を行って欲しい。
- ・校外研修、出張も多いので精選を行うことも必要である。
- ・人的な確保が必要かと思う。少人数指導、教務主任は学担を兼ねない等。
- ・教員定数の増加。法整備。行事の精選（思い切った削減も）。
- ・次々に教育課題が出現しその対応について時間を費やしている状態である。学校という社会で対応しなければならないことを見直していかないとすべて学校で背負うことになる。教師のやるべきことをしっかり取り組める人員体制と専門家を含む人員配置が必要。
- ・勤務時間を明確に示し、時間外の対応は基本的に行わない。
- ・電話は留守電対応にする。
- ・子供の登校時間は教師職員の出勤時間後にする。
- ・時間外に子供の活動を実施しない。
- ・調査等の事務の共有化。
- ・時間、時刻の厳守。
- ・業務精選をしない限りいくらでも仕事が増える一方である。
- ・働き方の改革には人員の確保が必要だ。専科教諭を付け授業時数を減らさないといけない。
- ・職場環境でも時に人的関係の良さが1番大切。人としての円滑なコミュニケーションづくりが基礎となって様々な改革が可能になると思う。
- ・学校行事の見直し、精選。
- ・打ち合わせ、会議時間の短縮。
- ・定時退勤ができる職員一人一人の意識を変えていく手立て、保護者、地域の方への周知を進める。
- ・子供の指導にあたる教員の増加。
- ・思い切った教育課程の編成（時間、学校行事の持ち方）。
- ・管理職の行動（新しい働き方の意識改革等も含めて）率先して帰る、とことんつきつめて働かない。
- ・保護者の電話対応に追われることも多く、時間を決めて留守番電話機能を利用したり、ノー残業デーの設定等具体的な手立てを立てたりしていく必要がある（行事の精選ももっと追い詰める必要あり）。
- ・初若年教員が増える中、教育力をキープまたは向上させるために研究、研修が増えるのは仕方がない。少人数指導等の加配を増員しないと教員の負担を減らすことができない。
- ・教員の数を増やす。
- ・県、市からの急な調査提出が多くあり、本来行うべき業務の時間が十分に確保できない。県や市がもう少し精査し

現場におろしてきて欲しい。

・行政が次から次へと課題を出してくる。それを全て学校が対応する時間が確保できない。〇〇教育、アンケート等、現場のことを考えていない。

・部活動導入日の規制。30～35人学級編成。

・教職員の増。

・根本的な教育内容の精選や、大学における教員養成の問題から改革をしなければ業務改善にはならないのではないか。

・何を置いても人員を増やすことが必要である。

・業務改善を意識していても、教職員の個々の能力等にも課題があり、まず一人一人が計画的に上手に時間を活用するという意識をもつことが大切。ただ「子供と向き合う時間」「授業づくりに関する時間」をしっかりとつことのできる働き方を考えなければいけないと思う。

・加配教員、教職員の増加。

・働き方を考える前に、いかに休みを作るかといった休み方を考えることを優先することが大切であると思う。例えば中学校の部活動等週1程度の休みを設定する等。

・現場に業務改善を求めるだけでなく、教育委員会が今まで以上に業務改善を進めていかなければならない。諸外国の教員の働き方も参考にするのも一案であると思う。

・働き方だけでなく働く人の意識改革についての研修。

・勤務時間内に終わる仕事量にしないと改善にならない。メールの活用で安易な調査等が増えているし、締め切りも早くなっている（メール活用のため事務が増えている）。

・小グループ化。校務分掌の主査、副査制の導入。

・学校の守備範囲が広すぎる。学校外で起こったことについては保護者の責任であることを世論で作り上げていくことが必要。小手先の働き方改革は教職員の負担を逆に増やすことになる。予算をきちんとかけて教職員や支援員の数を増やすべきである。

・教職員数を確保するためには予算を増やすことが必要と感じる。

・教職員はもちろんのこと、校務員、支援員、学習アシスタント、さらに地域の人材等を活用していく。難しいことだが、そのための連絡・調整を短時間でスムーズに行っていくことが欠かせないと思う。

・最近の様々な問題（未納問題や会計処理等）を考えると、業務内容の振り分けを学校内だけでなくもっと大きな規模で考えていく必要があると思う。

・ICTを効果的に活用して様々な煩雑な事務処理を行う。教員の事務処理をサポートする支援員等の配置をする。校納金等の会計関係の管理業務を事務職員等へ完全移行する。

・チーム学校を機能させる、支援員等の配置促進。

・校納金対応除外等、教員の業務の根本的な見直し。

・ICTを活用した学校業務の効率化促進。

・効率の良い事務処理法の確立と職務内容についての軽重を見極める能力の育成。

・超過勤務の実態を更に詳細に把握する必要がある。単なる数字には表出しない教員の精神的な充実度や意欲と言った面を考慮した上で、働き方改革をすることが重要である。6割が過労死ラインにたちしているという考え方は妥当性があるのか、このことにも一石を投じなければいけないと思う。

・授業時数が増える中、現状では時間を生み出すのは難しい。

・土曜日授業、夏休み短縮は必要ではないか。

・教育には準備の時間が必要であり発表の場や授業の充実感によってその労力が報われる。勤務時間を短くすることを強要したところで教育の質を下げてしまてはいけない。事件や事故、不祥事が起こるたびに現場の仕事量が増えている、本当に必要なのが行政レベルでチェックしても過去の事例はかえられない。

学校ですべきことがあまりに多すぎるので働き方改革というより教師の増員を！企業はお金をかけて働き方改革ができるが校務員はそこが困難！だからすることを減らすか人を増やす！

・まずは意識改革。提出文書等の削減。

・市教委等から送られてくる文書の処理等の量の多さは年々深刻な状態になっており、まずはそこから改善を図っていけないものか。現場としては職員の協働体制をしっかりと確立することが大切である。校務分掌についても可能な限り個人ではなくチームを編成して担当するといった体制づくりを考えてみたい。

・教員が子供にじっくり向き合い、質の高い授業を実施できるよう、研修の充実、時間の確保が必要である。そのためには組織の中に教育指導以外の専門性をもつ人材を配置する等、人材の質、量、両面の充実が必要である。

- ・教職員定数の増加。
- ・人員の確保。
- ・一人一人の意識改革がまず必要であるが、教員（事務職員も）の数を増やさないと業務が減らない。
- ・どこかの部分を教員（担任）から離し、民間等に任す。
- ・教師に過度な要求をしない。
- ・教師は短時間で成果を上げるというように発想の転換をする。
- ・いろいろな政策における活動について学校を巻き込むことが多いので、本来の仕事内容の時間が確保できにくいのではないかと思う。国、県、市が安易に活動や調査を依頼しないよう行政も考えていただきたい。
- ・チームとしての学校体制を整え、やりがいのある職場環境を構築していく。
- ・調査等の削減。
- ・義務教育の間は指導内容を厳選して減らし、5時間授業で終わることができるようにする。それ以上の内容は高等、大学教育等で専門的に学ぶ意欲のある対象者に施すと良い。
- ・市教委や各種団体等から送付される文書数を減らす。
- ・行事を精選したり会議を削減したりする。
- ・国や県が各校の教職員数を増やす。
- ・教職員定数の増加。
- ・長時間勤務の実質的な法的抑制。
- ・学校教育以外の内容の精選。
- ・学校や児童に求められる行政的行事への参加が多く、本来の学校行事への支障が出る。
- ・勤務時間以外の教職員への負担を検討する必要あり。
- ・やろうと思えばいくらでも手がかけられるが、効果が得られる位の授業・行事の準備にとどめる。
- ・止める行事を思い切って決定すること。
- ・教員の増員。
- ・管理職が「勤務時間」を意識した働き方を進める。
- ・学校・家庭・地域総がかりでの教育の推進。
- ・「今まで〇〇だった」に捕らわれない。
- ・未来に向けての革新（すべては子供のために）。
- ・教員増により一人一人の空き時間（ゆとり）を確保する必要がある。
- ・学校が担うべき業務の在り方を見直す。・外部人材を積極的に活用する。
- ・学校行事の思い切った精選をする。必要なものと不要なものに分け精選していく。ただ教育員会や地域からの要望があり実際には難しい。
- ・メリハリある勤務状況を作る環境。何かを増やしたら何かを減らすこと（文部科学省が変わらなければ働き方改革は不可能である）。
- ・地域に関わるものは減らすことが難しい。行政や関係団体主催の会への参加要請を土日祝日は行わないとすると負担は減ると思う。
- ・事務対応の職員を増やす。
- ・まず教職員の意識改革が必要である。そのうえでハード面、条件面での改革をすべきである。教職員にも残業を認め手当を払うべきである。
- ・教職員定数を増やし、校内分掌の軽減をして教職員一人一人の負担を軽くする必要がある。そうすれば児童生徒と向き合える時間も増えるし、残業の時間も減る。

- ・働き方とは直接関係ないかもしれないが、絶対的な教員の数が足りないように思う。
- ・会計処理や事務処理は専門の人に任せる。調査関係（議会対応等急な調査）をなくす（減らす）。
- ・学習指導をメインとするために、それ以外のぎ行事や集会等を精選する。長時間学校にすることが良いとする意識の転換。人員増！！

【中学校】

- ・とにかく次から次へと新しいこと現場に入ってきており、増えるばかりである。何でも「〇〇教育」「〇〇指導」としてやらなければならないことばかり。減らす勇気がないのか。これくらいできて当たり前みたいな考えをどうにかしてもらいたい。でなければ、中学校は部活動指導があり夜遅くまでの勤務は変わらない。
- ・全授業時数に応じた教員定数増に基づく教職員の配置。
- ・新しい教育施策が打ち出された場合、主任の立場が設定される時、それを現在の定数内ではなく、外枠で設定してもらいたい（例：道徳推進教員等）。
- ・中学校の場合、どんなに小規模校であっても、全教科の専門教員を配置してもらいたい。
- ・市町村教委が勤務時間（出退勤）の時間を把握し、長時間勤務の職員には市町村教委が直接指導を行う。
- ・超過勤務には、それにふさわしい残業手当を支払う。
- ・部活動の大会を削減する。
- ・事務関係の職員を増員し、教員の事務関係の負担を軽減する。
- ・教員の仕事は普通の事務仕事とは異なる。児童生徒の指導が最優先であり、児童生徒が学校にいる時間は、その指導に携わるのは当然。事務処理等は児童生徒が帰ったあと、つまり正規の勤務時間外になるのはやむをえない。それなりに高い給料、土日の部活動指導にたいしても手当ては保障されているのだから、不平不満を言わずにやるべきである。
- ・根本は家庭教育の充実であると思う。
- ・中学においては部活動指導がある限り、多忙の解消は困難である。
- ・また国の教育施策も、残念ながらその方向にない。
- ・対処療法として、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの学校への常駐、看護師の複数配置（市レベルで）が考えられる。
- ・事務量を減らすか、事務量が減らせないなら人を増やすか、思い切った改革をしないと、教員の多忙は軽減されない。教員の給与を大幅に増額し、社会的な地位を高めるのも1つのアイデア。少なくとも、大規模校の校長、教頭、教務を小規模校の管理職と、主任、主事との手当をもっと区別し、大規模校をもっと増額して欲しい。
- ・現在の学級生徒数に、何人に教員1名を配置するという法律が学校教育の現状に、全く合っていない。根本からの改善が必要である。
- ・学校でやるべき業務とそれ以外の業務を明確にすべき、特に部活動の指導については完全に社会教育や外部指導者等に移行すべき、何でも学校に任されて、そのうえ不満までいわれて、本当の業務に集中できない状況がある。
- ・形式的なやりとりは、極力省略。簡易なものにする。添書等は不要。
- ・学校の業務内容軽減。
- ・毎週月曜日は部活動休業日にする（土日に大会や練習試合がはいるため）。
- ・副顧問または、外部コーチとの指導日の調整（顧問の負担軽減）。
- ・少人数指導は効果があるので、人を増やすしかない。
- ・加配教員の授業時数を県ではなく、校長に委任する。
- ・定時に業務を終わる曜日を定める。
- ・教職員が協働である意識づくり。
- ・市教委や関係団体が主催する会合について「各校何名以上」等と動員をかけることをやめるべきだと思う。また各種研修会について人が集まらなると校長会で関係校長が協力を呼び掛けたりするのもやめるべきだと思う。これらの悪習が行事・会合の精選を妨げているが一見分かりにくいという傾向がおおいにあると思う。

・学校は「授業」を行う場所である。しかし「授業」に集中するための時間の確保は難しい状況である。出張や文書等本当に学校や職員にとって必要なものをきちんと絞り込む必要がある。教育委員会は更に多忙であると聞いている。まず委員会の仕事の項目を絞り込むことで、学校への要望も自然と減るのではないか。「社会、教育」の重要性も考えれば、「学校」以外に仕事内容を持っていくことも大切である。この数年このようなアンケートはあるが仕事は増える一方で歯止めはかかっている。

- ・教員の数が足りない。やはり、教員定数の規準を変えないと解決には繋がらない。
- ・土日・祝日における地域行事への参加における身分の保障、時間外勤務の削減（特に地域会合等への参加）。
- ・多忙な時期とそうでない時期の差が大きい。特に調査への回答等。保護者地域からの苦情の対応は教員ではない別のチームで対応。
- ・教員定数の見直し、適正配置。
- ・働き方改善で業務改善が図れると思っていること事体が誤りである。そもそも登下校は学校の管理下であり、子供は7:00 過ぎに登校を開始しているのにも関わらず、教職員の勤務時間が8:00 からということにすでに矛盾がある。業務改善のためには人員を増やす以外にはない。
- ・教員や事務職員の人的確保や授業や担任している教師の事務仕事を減らし、事務・渉外等の教職員を増やすしか手立てはないと考えられる。中学校においては部活動をやめクラブチーム化をことが有効である。
- ・業務の精選。
- ・校務支援システムの導入。
- ・教職員の増員。
- ・回答文や提出文書を削減してほしい。新しく加わる業務が、ほとんど教頭が窓口になるのも考えてほしい。
- ・中学校の場合、部活動指導に関わる時間が多いため、外部指導員を含め、人材確保が必要になってくる。
- ・ボランティアや支援員を活用し、作業を分担すればよいのではないか。
- ・事務の簡素化
- ・本当に必要な調査、報告の精選をお願いしたい。
- ・役割分担を明確にし、分担ごとに専門的なスタッフを位置付ける体制が構築できないかぎり無理！（国が動かないと）。
- ・クレームや苦情が自由に言える時代に入っていて、生徒指導についても新たな課題が増えている。学校に弁護士が入る時代を期待します。
- ・一時期大いに言われて、今は元に戻ってしまった「学校のスリム化」を進めることが必要だと思う。
- ・学校に、学習指導・生徒指導の他に〇〇教育がどんどん増えている。教育行政が整理すべきである。学校現場の教員の力量を超えているものが要求される。また何と言っても教員数が足りないと思う。制度改革が必要である。
- ・教員定数を増やす
- ・事務処理の軽減や学力保障といったたくさんの指導案や改善プラン、各種研修や行事が多いのでそれぞれの軽減や1つにしていく取組が必要。
- ・それぞれの会議の統合、検討内容の明確化（報告、確認等の区別）、行事予定、行事の見直し、統括できるようにそれぞれを繋げていくこと。
- ・4%の調整額をやめたうえで、時間外の勤務にしっかりと手当を支給すべきである。
- ・事務処理の削減を徹底するか、教育内容の事務処理を行うことが可能な事務職の配置（事務職員定数の見直し）を行う。
- ・①意識を変える ②職務減への取組 ③団体（スポーツ）大会を減らす。
- ・行政関係団体等から依頼される調査や会議の縮小が必要である。このことにより生徒と向き合う時間を確保したいと考える。
- ・業務内容の精選。
- ・会議の効率化。
- ・組織力の向上。
- ・保護者への対応に専門の職員を1名置きたい。今は教頭に負担が重くのしかかっている。

・個人の資質・能力とも関係している。特に事務的作業には経験を必要とする面が強い。作業量の縮減も必要である
と考える。

・①教育課程のスリム化 ②チーム学校として、役割や作業量の偏りをできるだけ平準化する 外部のスポーツ団体との調整。

- ・生徒が SNS を使用する際の規制の強化（年齢等の法的な制限）。
- ・会議の効率化や互いにサポートできる組織力の向上が必要である。また業務の削減に努めなければならない。
- ・部活動指導員の増員と彼らへの金銭的な保障。
- ・職員を増やすことがまず第一だと考える。授業にもゆとりができ代替えができる。
- ・学校は授業のみを行う等、今まで学校が担ってきた内容を取り除かないと（見直さないと）無理だと思う。
- ・精選できる業務を可能な限り減らす。
- ・「教員の本来の職務内容」が問われている気がする。毎日の仕事内容を見直すことが求められている。
- ・定数の見直しを図って欲しい。業務の量が増えているにも関わらず人員が不足している。
- ・出張の回数及び文書報告のスリム化に期待したい。
- ・部活動を早期に社会体育に位置付けして欲しい。
- ・研修、会議、調査等の見直し。
- ・人員増につきると考える。
- ・職員の人数を増やすしかないと思う。
- ・一部導入されている学校閉庁日を月に1回でも導入すればエコにもつながるし休む理由にもなる。法、決まり等でも業務改善につながると考える。
- ・スクラップアンドビルドと言う言葉を以前から耳にするが、学校教育においてはスクラップすることがほとんどなく（どれも大切という認識）スクラップするため業務内容も増えるばかりだと思う。学校教育全体を見直し、精選すべきことは思い切ってすることが必要だと思う。
- ・業務内容の重なりや整備、業務手続等の簡素化等が考えられるが仕事の順位性の整備等を自ら行い効率化を図ることが大切であると思う。
- ・教職員を増やし一人一人の授業時数を減らす。
- ・公立中学校に求められている姿を絞り込んだうえで、国全体としての共通の取り組みが不可欠と考える。
- ・学校行事の精選。教員は授業と学校での生徒指導のみに専念する。
- ・業務削減が大前提。働き方の工夫で改善できる範囲かどうか。
- ・行事の見直し、研修会の持ち方、調査・報告書の改善等、これまで通りでは何も変わらないと思う。
- ・業務改善にも限界があると思われる。教育の仕事に終わりはない。「働き方」（労働時間や休暇の取り方等）を法的な面から改善していくということも必要だろうと思われる。
- ・現状での業務改善のみならず、行政による改善（人的配置、会計等業務削減等）が必要だと考える。
- ・タイムカードの導入等、働いている時間の「見える化」が必要。
- ・〇〇教育と名前が付くものが多すぎる。毎年業務が増える一方。減らすことが必要。
- ・今までやってきたことを今までやってきたからやるのではなく、精査しながら思い切って変えることが必要であると思う。現状は変えるとなぜ、どうして変えたのかという意見が多くなり変えづらい。
- ・中学校の場合、部活動指導に多くの時間を取られるので、制度として部活動を学校の活動と切り離す必要がある。
- ・子供の教育に関わる学校と家庭の責任や義務の範囲を、学校、家庭、地域、社会で共通認識することが必要だと思う。
- ・教職員の増員による業務の軽減。教職員の意識改革。事務処理の簡素化・総合化・削減。部活動運営に関する抜本的な見直しと強制力のあるガイドラインの策定。各学校の実情に合わせる、地域委に任せる、では変わらない。
- ・部活動を失くす。
- ・不登校生徒への対応を行政等の機関で行う。
- ・教職員の増員、学校徴収金の公会計化、部活動指導員の配置。
- ・中学校の部活動については外部指導者の導入が望まれているが、現実に月～金の 16:00～18:00 に学校に来て指

導できる人材がどれだけ確保できるのか。全く不透明である。人材を確保してからモノを言えよという感じがする。

- ・教職員の担当する業務に直接メスを入れないと改善は図れない。何かを減らさない限り改革は進まない。
- ・教職員の定数増が急務と思う。
- ・教職員定数の増加。
- ・中学校においては部活動指導が重要であるが、超過勤務を少なくするためには指導に当たる時間をいかに削減するかだと思う。
- ・「ノー残業デー」の設定を検討しているが、現実的な問題として教職員には突発的な生徒指導や保護者対応が連日のように発生するため、実行することが困難である。但し長時間勤務にならないよう声かけを継続している。また部活動について週に1日の休みは何とか確保している。
- ・生徒の対応に追われて空き時間が授業の準備等（日記指導）等に使えない。そのために非常勤講師等の人数を増やしてもらえればと考える。今の教員数では個々の生徒への対応が難しい。
- ・校務に関する文書や資料を確実に保存し、それを次年度に引き継ぐこと。部活動に休養日を設けること。夏季休業を短縮し、授業日の授業時数を削減するとともに生徒の完全下校日を週1回設けること。生徒の完全下校日は教職員を残業ゼロの日とすること。
- ・教員の働き方の実態を更に情報収集して対応していただきたい。データや数値だけでは本当の実態は見えてこないのが現実である。
- ・部活動指導を外部コーチ等に移す。
- ・何とかして時間を作りたい。特に放課後の時間。
- ・職員増を望む。